

城南衛生管理組合
クリーン 21 長谷山
長寿命化総合計画

令和 5 年 3 月

第 1 章	計画策定の主旨	1
1.1	計画の目的.....	1
1.2	計画の構成及び位置づけ	1
第 2 章	施設の概要と施設整備履歴の整理	2
2.1	施設の概要.....	2
2.2	施設整備履歴の整理	4
第 3 章	施設保全計画の作成・運用	5
3.1	主要設備・機器リスト	6
3.2	各設備・機器の保全方式の選定.....	7
3.3	機能診断手法の検討	7
3.3.1	機能診断手法の検討	7
3.3.2	採用する診断技術、測定項目等の設定と定期的実施.....	8
3.4	機器別管理基準の設定	8
3.5	施設保全計画の運用	8
3.6	健全度の評価、劣化の予測、整備スケジュールの検討.....	9
3.6.1	健全度の評価	9
3.6.2	劣化の予測.....	9
3.6.3	整備スケジュールの作成.....	9
第 4 章	延命化計画の策定	10
4.1	延命化の目標.....	11
4.1.1	将来計画の整理	11
4.1.2	延命化の目標年数の設定.....	11
4.1.3	延命化に向けた検討課題や留意点の抽出	12
4.1.4	目標とする性能水準の設定.....	12
4.1.5	性能水準達成に必要となる改良範囲の抽出	13
4.2	延命化への対応.....	14
4.2.1	延命化対策による L C C、事業費等コストの整理（延命化の効果）	15
4.3	延命化対策による二酸化炭素排出量削減効果の検討.....	17
4.4	延命化のまとめ.....	17
4.4.1	改良工事の内容	17
4.4.2	改良工事を踏まえた整備スケジュールの見直し	17

- 【資料 1】 施設整備履歴
- 【資料 2】 主要設備・機器リスト
- 【資料 3】 機器別管理基準
- 【資料 4】 設備・機器の健全度
- 【資料 5】 整備スケジュール
- 【資料 6】 廃棄物処理 L C C 検討詳細資料
- 【資料 7】 CO₂ 削減計画書
- 【資料 8】 改良工事を踏まえた整備スケジュール

第1章 計画策定の主旨

1.1 計画の目的

廃棄物処理施設は、施設を構成する設備・機器や機材が高温・多湿、腐食性雰囲気にも暴露され、機械的な運動により摩耗しやすい状況下において稼働することが多いため、他の都市施設と比較すると性能低下や摩耗の進行が速く、施設全体としての耐用年数が短いと見なされている。

クリーン 21 長谷山（以下「本施設」という。）は、平成 18 年 8 月に竣工し、令和 4 年度で稼働開始から 16 年が経過している。本施設は、施設稼働開始以来、計画的な点検・補修・整備等の実施により適切な維持管理が行われており、令和 2 年度に実施した精密機能検査において、施設稼働に支障の無い状態が確認されている。

しかし、廃棄物処理施設長寿命化総合計画作成の手引き（ごみ焼却施設編）（令和 3 年 3 月改訂 環境省）によると、ごみ焼却施設の一般的な供用年数は概ね 20～25 年程度であることを考慮するなかで、今後の長期的な施設稼働に際して、各種設備・機器の経年劣化が進行していくことが懸念される。

上記背景に加え、環境省では、廃棄物処理施設整備計画（平成 30 年 6 月 19 日閣議決定）により、廃棄物処理施設の長寿命化を図り、その L C C（ライフサイクルコスト）を低減することを通じ、効率的に更新整備や保全管理を行う「ストックマネジメント」の導入を推進している。

これらを踏まえ、今後も継続して城南衛生管理組合（以下「本組合」という。）の責務である廃棄物処理を円滑に推進していくうえで、単なる施設更新ではなく、ストックマネジメントの考え方を導入し、日常の適正な運転管理と毎年の適切な定期点検整備、適時の延命化対策を実施するために、本施設の長寿命化を計画する。

1.2 計画の構成及び位置づけ

廃棄物処理施設の長寿命化総合計画（以下「本計画」という。）は、施設保全計画及び延命化計画の二つの計画から構成される。施設保全計画の適正な実施・運営により、施設の機能低下速度が抑制され、長期にわたり適正な運転を維持することができる。これに加えて、計画的に延命化対策を行うことにより施設の更なる長寿命化が図られる。

本計画で、施設保全計画として現状の維持管理実績を踏まえた機器別管理基準等を整理するとともに、延命化計画として設備・機器の更新等の計画を策定することにより、施設の長寿命化を図る。

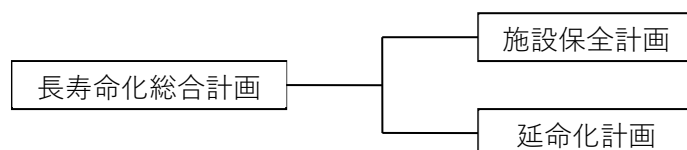


図 1 長寿命化総合計画の構成

第2章 施設の概要と施設整備履歴の整理

2.1 施設の概要

本施設の概要を表 1 に整理する。

表 1 施設の概要

施設名称	クリーン 21 長谷山
施設所管	城南衛生管理組合
所在地	京都府城陽市富野長谷山 1 の 270
敷地面積	27,287.4m ²
施設規模	240t/日 (120t/日 × 2 炉)
建設年月	
着工	平成 15 年 10 月
竣工	平成 18 年 8 月
設計・施工メーカー	日立造船株式会社
施設建設事業費	6,224,000,000 円 (施工監理費等含む) 6,092,100,000 円 (施設建設費)
処理方式	
受入・供給設備	ピット & クレーン方式
燃焼設備	ストーカ式焼却炉
燃焼ガス冷却設備	廃熱ボイラ方式
排ガス処理設備	消石灰・特殊助剤 (活性炭入) 吹込 バグフィルタ 脱硝反応装置 (触媒・無触媒)
余熱利用設備	蒸気タービン 発電機
通風設備	平衡通風方式
灰出し設備	灰ピット&クレーン方式
処理工程	次頁 (図 2) に示す

図 2 処理工程図

2.2 施設整備履歴の整理

本計画の基礎情報として、維持補修・整備履歴を整理した結果を【資料 1】に示す。
この記録を毎年更新し、本計画の見直し等に利用できるようにする。

第3章 施設保全計画の作成・運用

廃棄物処理施設は、多種多様な設備・機器から構成しており、構成する設備・機器点数が多く、維持管理データの収集にも高度な技術を要するものが多い。

このため、効果的に施設を保全管理していくためには、重要な設備・機器を選定した上で、その設備・機器を中心に保全計画を立案して、これに基づいた適宜的確な保全管理により更新周期の延伸を図ることが重要となる。施設保全計画の立案・運用に向けた基本的な流れは以下のとおりである。

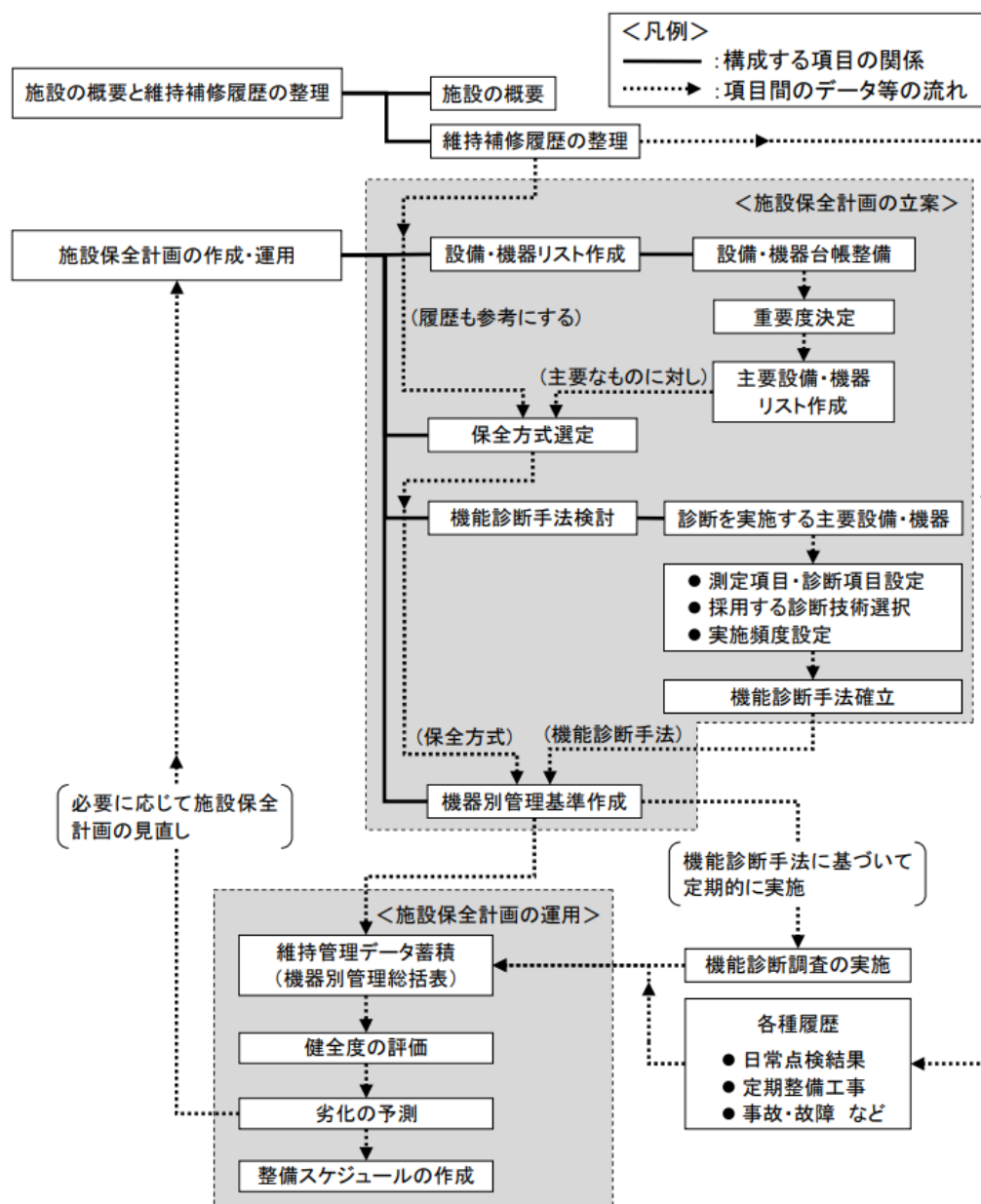


図 3 施設保全計画の立案・運用に向けた基本的な流れ

3.1 主要設備・機器リスト

施設を構成する設備・機器について、重要性を勘案しつつ、本計画を立案する際に計画の対象となる主要設備・機器リストを作成する。

主要設備・機器リスト作成作業に当たり、まず、施設を構成する設備・機器についてリスト化し、次いで設備・機器ごとの重要性に基づき、主要設備・機器リストの対象となる設備・機器を選定する。本施設の主要設備・機器リストを【資料 2】に示す。

各設備・機器の重要性の検討は、以下に示す基準にて行う。

表 2 施設の安定運転を重視する場合の評価重要度

	A	故障した場合に施設の停止や排出基準等に影響を及ぼす設備・機器
	B	故障した場合でも、予備機で対応することが出来る設備・機器 ある程度の冗長性を有する設備・機器
	C	A 及び B に分類されるもの以外の設備・機器

3.2 各設備・機器の保全方式の選定

各主要設備・機器に対し、前述した重要度等を踏まえて適切な保全方式を選定する。
設備・機器の重要度の高いものほど、保全方式としては、事後保全よりは予防保全を選択する必要がある。これらの選定結果を【資料3】に示す。

表 3 保全方式と適用の留意点

保全方式		保全方式選定の留意点	設備・機器例
事後保全（BM）		・故障してもシステムを停止せず容易に保全可能なもの（予備系列に切り替えて保全できるものを含む。） ・保全部材の調達が容易なもの	照明装置、予備系列のあるコンベヤ、ポンプ類
予防保全（PM）	時間基準保全（TBM）	・具体的な劣化の兆候を把握しにくい、あるいはパッケージ化されて損耗部のみのメンテナンスが行いにくいもの。 ・構成部品に特殊部品があり、その調達期限があるもの。	コンプレッサ、ブロワ等回転機器類、電気計装部品、電気基板等
	状態基準保全（CBM）	・摩耗、破損、性能劣化が、日常稼働中あるいは定期点検において、定量的に測定あるいは比較的容易に判断できるもの。	耐火物損傷、ボイラ水管の摩耗、灰・汚水設備の腐食等

事後保全(BM)：Breakdown Maintenance

予防保全(PM)：Prevention Maintenance

時間基準保全(TBM)：Time-Based Maintenance

状態基準保全(CBM)：Condition-Based Maintenance

3.3 機能診断手法の検討

劣化予測・故障対策を的確に行うため、主要設備・機器について、必要な機能診断調査手法を検討する。また、機能診断調査は、設備・機器毎に採用する診断技術の種類、測定項目、実施頻度等を定めたうえで定期的に実施する必要がある。

3.3.1 機能診断手法の検討

廃棄物処理施設においては、機能診断のために処理を中断することが困難な場合が多く、定期整備工事に合せて機能診断調査を実施することが多い。このため、現在実施している定期点検整備時の機能診断内容を原則とし、本施設の設計施工プラントメーカーの技術者とも協議しつつ、設備・機器別に、採用する診断技術、測定項目、実施頻度、評価基準を検討した。

3.3.2 採用する診断技術、測定項目等の設定と定期的実施

廃棄物処理施設においては、各設備・機器の劣化（腐食、摩耗等）は緩やかに進行するものが少なからずあることから、定期的な機能診断調査を一貫した方法で実施し、経年的な変化を把握することが、よりの確な劣化予測と故障対策に有効である。このため、現在実施している定期点検整備時の機能診断を原則とする。

3.4 機器別管理基準の設定

主要設備・機器の補修・整備履歴、故障データ、劣化パターン等から各設備・機器の診断項目、保全方式、管理基準（評価方法、管理値、診断頻度等）を設定する。

なお、設定した結果は【資料 3】に反映した。

3.5 施設保全計画の運用

3.4 までで作成した主要設備・機器リスト、各設備・機器の保全方式、機能診断技術、機器別管理基準に対して、これまで及びこれからの各種整備履歴等を蓄積し、施設保全計画としての的確に運用していくことが非常に重要となる。

3.6 健全度の評価、劣化の予測、整備スケジュールの検討

得られた最新の設備・機器の状態をもとに、各設備・機器の健全度を評価し、その健全度や過去の履歴等（主要設備・機器の補修・整備履歴、故障データ、劣化パターン等）も考慮して、劣化の予測を行う必要がある。前述した、機器別管理基準に基づき、機能診断調査や各種点検を行い、その結果を基に、各設備・機器の健全度を評価し、劣化の予測を行う。

3.6.1 健全度の評価

主要設備・機器の健全度の判断基準は表 4 に示すとおりとした。最新の設備・機器の状態を精密機能検査により確認した結果を【資料 4】に整理した。

表 4 健全度の判断基準例

健全度	状態	措置
4	支障なし	対処不要
3	軽微な劣化があるが、機能に支障なし。	経過観察
2	劣化が進んでいるが、機能回復が可能である。	部分補修・部品交換
1	劣化が進み、機能回復が困難である。	全交換

3.6.2 劣化の予測

日常の運転管理における評価も含め、機器別管理基準に示す診断頻度での評価を蓄積、充実させることにより劣化予測が可能となる。

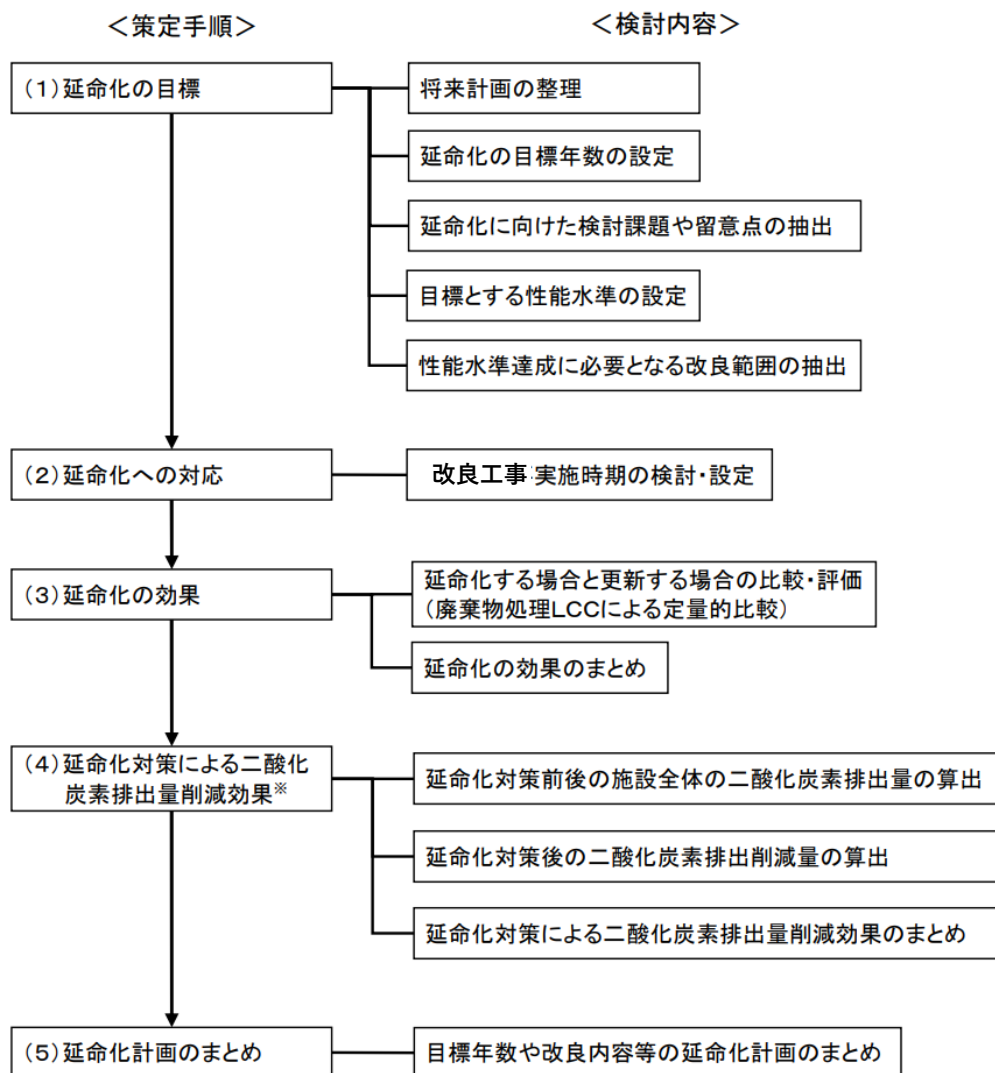
本計画で作成した機器別管理基準を活用した各種補修・整備履歴の蓄積により、劣化予測を行い、延命化計画と整合した施設保全計画の見直しを行うものとする。

3.6.3 整備スケジュールの作成

本施設の令和 4 年度以降の整備スケジュールを【資料 5】に示す。

第4章 延命化計画の策定

施設の将来計画を踏まえた延命化の目標年数の設定、延命化に必要となる改良事項を検討し、延命化の効果等を確認して延命化計画を策定する。延命化計画の策定に向けた基本的な流れは以下のとおりである。



※交付金を受けて基幹的設備改良事業を実施する場合は、必須となる。

図 4 延命化計画の策定に向けた基本的な流れ

4.1 延命化の目標

4.1.1 将来計画の整理

本施設の延命化目標年数を設定するにあたり、本組合におけるごみ処理に関連する将来計画の概要を以下に整理する。

◆ ごみ処理基本計画（平成 30 年度改訂版）（平成 31 年 3 月）

平成 31 年度から平成 40 年度（令和 10 年度）を計画期間とするこの計画において、施設整備の考え方として、施設運営にあたっては、老朽化による維持管理費等の増加が見込まれることから、コスト縮減を図ることを目的に処理施設を長期にわたって活用していくこととし、本施設の耐用年数等を考慮し、長寿命化計画や更新計画を検討するものとしている。

4.1.2 延命化の目標年数の設定

本施設のこれまでの適切な維持管理による現状を勘案し、基幹的設備改良工事（以下、「改良工事」という。）を実施する場合の最適な延命化期間について、表 5 にて、①延命化期間：30 年間、②延命化期間：35 年、③延命化期間：40 年の 3 ケースを比較する。

表 5 延命化期間別の費用比較

（税込み）

	①延命化期間：30 年	②延命化期間：35 年	③延命化期間：40 年
延命化対策費	約 62 億円※2	約 62 億円※2	—※3
維持管理費	約 107 億円	約 144 億円	
計	約 169 億円	約 206 億円	
延命化費用 原単位※1	約 12.1 億円	約 10.8 億円	

※1：延命化対策初年度を令和 5 年度（稼働 17 年目）とし、延命化期間までの必要な年間費用（①の場合 14 年間、②の場合 19 年間）

※2：延命化期間 30 年／35 年では、必要となる延命化対策は同等とのメーカー回答

※3：延命化期間 40 年とする場合、電気設備関係一式の更新が必要となり、本施設の処理計画、必要な工期を確保できないため検討対象外とする。

表 5 より、最も費用対効果の大きい②延命化期間：35 年（令和 23 年度までの稼働）が最適と判断する。なお、改良工事はごみ処理をしながらの工事を予定するため、工事期間は令和 5 年度からの 5 年間が必要と想定し、工事後の施設稼働年数を 14 年間と想定する。

4.1.3 延命化に向けた検討課題や留意点の抽出

改良工事は、施設を運転しながら工事を実施する必要がある点が特徴である。このため、本施設の運転・処理計画、点検・補修計画等との整合を図り、本組合管内の廃棄物処理に支障が無いことを前提とし、工事内容等を精査していくことが重要である。

また、改良工事の実施に際しては、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金の活用を予定しているが、令和2年4月1日に公表された当該補助金の公募要領において、補助金額における費用対効果の基準が初めて示された点も踏まえると、来年度以降に当該補助金に係る採択・交付要件等が見直される可能性がある点に留意が必要である。

なお、令和4年4月1日付けの公募要領では、費用対効果の基準額の見直しはなされていない。

4.1.4 目標とする性能水準の設定

延命化に向けた諸条件や検討課題の抽出結果を踏まえ、改良工事を実施する上で目標とする性能水準を設定する。

主要設備・機器の現状として劣化が進行しているもの、近年、耐用年数に達する若しくは既に達しているものについては、整備・更新を実施することで、長期的な安定運転の継続を実現する。また、設備・機器の整備・更新に併せて、電動機の高効率化やインバーター等の採用により、二酸化炭素排出量の削減を図るものとする。

4.1.5 性能水準達成に必要となる改良範囲の抽出

目標とする性能水準の達成に必要となる改良項目や改良する設備・機器の範囲を抽出する。対象範囲を表 6 に示す。

表 6 対象となる改良項目

目標	概要	対応策 (改良内容)	関連する設備												
			受入供給	燃焼	燃焼ガス冷却	排ガス処理	余熱利用	通風	灰出し	給水	排水処理	電気	計装	雑	建築
安定的な処理機能の回復	安定稼働の継続	【主要設備・機器の機能回復】 燃焼設備をはじめとする各設備・機器の整備、更新による機能回復。	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
二酸化炭素排出量の削減	消費電力削減	【二酸化炭素排出量の削減につながる省エネルギー化の促進】 電動機の高効率化、インバーター制御の導入、省エネ機種採用等による CO ₂ 排出量の削減。	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●

4.2 延命化への対応

延命化の目標において整理された検討課題や留意点、改良範囲などの情報をもとに、改良工事の効率的かつ効果的な実施時期を検討し、改良工事の実施時期を令和 5 年度から令和 9 年度と設定した。

改良工事実施時期

令和 5 年度から令和 9 年度

設定理由

本施設の老朽化状況を踏まえ、改良工事の適用範囲と実行的なごみ処理計画を勘案し、改良工事着工を令和 5 年度から約 5 年間の工期で実施することとした。

4.2.1 延命化対策によるLCC、事業費等コストの整理（延命化の効果）

施設を延命化する場合と更新する場合のLCCの比較結果は表 7 に、LCCの変化イメージは図 5 に示すとおりである。点検補修費及び建設費の設定方法は【資料 6】に示す。

表 7 のとおり、LCCは、施設を延命するほうが更新するよりも社会的割引考慮前で約 16 億円安価で、社会的割引考慮後は約 33 億円安価であり、コストメリットがある。

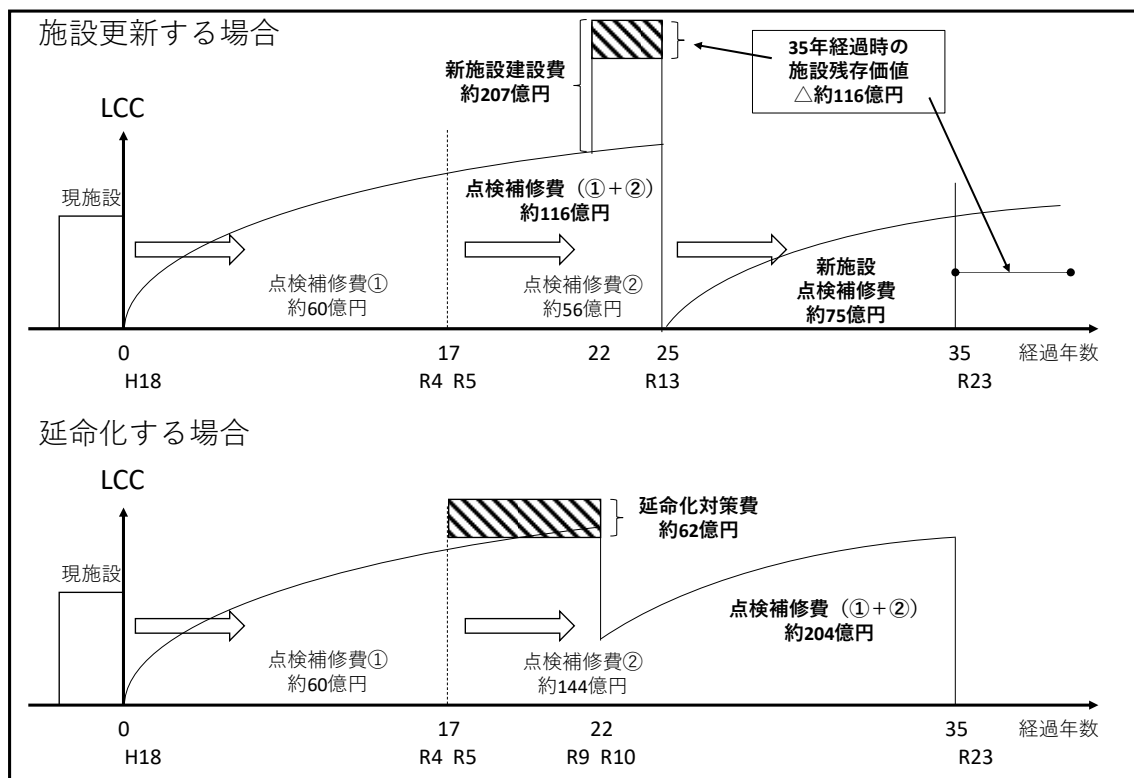


図 5 LCCの変化イメージ図

※1：経過年数とは、1年目を現施設竣工の平成18年度とする。

※2：竣工（平成18年度）から令和4年度までの点検補修費は実績より、約60億円と設定する。（ただし、令和4年度の点検補修費は見込み値とする）

表 7 延命化の効果のまとめ

			検討対象期間 (令和 5 年度～令和 23 年度)	
			延命化する場合	更新する場合
廃棄物処理 L C C 比較	社会的割引考慮前			
	点検補修費 建設費 改良工事費		約 144 億円 — 約 62 億円	約 131 億円 約 207 億円 —
	小計		約 206 億円	約 338 億円
	残存価値	現施設 新施設	0 円 —	— △約 116 億円
	合計 (残存価値控除後)		約 206 億円	約 222 億円
	社会的割引考慮後			
	点検補修費 建設費 改良工事費		約 100 億円 — 約 54 億円	約 87 億円 約 155 億円 —
	小計		約 154 億円	約 242 億円
	残存価値	現施設 新施設	0 円 —	— △約 55 億円
	合計 (残存価値控除後)		約 154 億円	約 187 億円
目標とする性能水準の比較	安定的な処理機能の回復		劣化が進行している又は、耐用年数に近い設備・機器の更新、整備により長期間の施設の安定稼働が見込まれる。	新施設のため、25 年程度の安定稼働が見込まれる。
	エネルギー回収向上		設備・機器の更新、整備に併せて高効率化を図ることにより、エネルギー回収の向上が見込まれる。	施設計画・設計段階で検討が可能である。
	二酸化炭素排出量の削減		高効率電動機やインバーターの導入により、省エネルギーが見込まれる。	施設計画・設計段階で検討が可能である。
総合評価			廃棄物処理 L C C 比較の観点から優位であることに加え、目標とする性能水準の比較の観点からは、延命化する場合と更新する場合で大きな差が見られないことから、延命化が総合的に優位であると考えられる。	

4.3 延命化対策による二酸化炭素排出量削減効果の検討

延命化対策に併せて、省エネルギー化やエネルギー回収対策を講ずることにより、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金の対象事業となり得る。

延命化対策事業における二酸化炭素排出量削減の効果について検討した結果を【資料 7】に示す。

4.4 延命化のまとめ

4.4.1 改良工事の内容

改良工事の内容及び延命化対策に伴う二酸化炭素排出量の削減効果は、表 8 のとおりである。

表 8 改良工事内容及び延命化対策による二酸化炭素排出量削減効果

工事実施時期	令和 5 年度～令和 9 年度	
改良範囲	受入供給設備、燃焼設備、燃焼ガス冷却設備、排ガス処理設備、余熱利用設備、通風設備、灰出し設備、給水設備、電気設備、計装設備、雑設備、建築設備	
改良の目的や効果	安定的な処理機能の回復	劣化が進行している設備・機器、近年、耐用年数に達する又は既に達しているものについて、整備・更新を実施することで、長期的な安定運転の継続を実現する。
	二酸化炭素排出量の削減	電動機の高効率化やインバーター等の採用により、二酸化炭素排出量の削減を図るものとする。
延命化対策に伴う二酸化炭素削減率	19.5%	
概算額	約 62 億円（工事費のみ）	

4.4.2 改良工事を踏まえた整備スケジュールの見直し

改良工事を実施するにあたり、設備・機器の整備時期などが変更になる場合があるが、都度適切に整備スケジュールを含めた施設保全計画を見直すこととする。

参考として、現状の維持管理実績を踏まえて検討した令和 23 年度までの施設整備スケジュールを【資料 8】に示す。

【資料 1】
施設整備履歴

令和 5 年 3 月

補修・改造状況

平成 19 年度～令和 3 年度の主な補修・改造状況は、(その 1～その 6) に示すとおりである。

補修・改造状況（その 1）					
設備名	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
受入供給設備			▲窓自動洗浄装置：清掃点検		▲窓自動洗浄装置：清掃点検、ロータリーエンコーダ・リミットスイッチ交換 ▲切断機：点検整備、刃物・ガイド等交換
燃焼設備	▲給じん装置：清掃点検(1号・2号) ▲燃焼装置：落じんホップシュート清掃点検(1号・2号) ▲耐火物：炉内清掃（クリンカ除去） ▲エキスパンションロープ詰め	●給じん装置：下部遮蔽板交換(1号・2号) ●燃焼装置：火格子交換(1号・2号) ▲耐火物：炉内清掃（クリンカ除去） ▲エキスパンションロープ詰め ▲駆動用油圧装置：清掃点検	●給じん装置：下部遮蔽板交換(1号・2号) ●燃焼装置：火格子交換(1号・2号) ●燃焼装置：台車ローラ交換(2号) ▲耐火物：炉内清掃（クリンカ除去） ▲エキスパンションロープ詰め	●給じん装置：投下ブロック、下部遮蔽板交換(1号・2号) ●燃焼装置：火格子交換(1号・2号) ●燃焼装置：台車ローラ交換(1号・2号) ▲耐火物：炉内清掃（クリンカ除去） ●耐火物：一部補修 ▲エキスパンションロープ詰め ▲駆動用油圧装置：清掃点検	▲給じん装置：シリンダ分解整備(1号・2号) ●給じん装置：下部遮蔽板交換(1号・2号) ▲燃焼装置：シリンダ分解整備(1号・2号) ●燃焼装置：火格子交換(1号・2号) ●燃焼装置：台車ローラ交換(1号・2号) ▲耐火物：炉内清掃（クリンカ除去） ●耐火物：一部補修、レンガ取替(1号燃焼段右側、2号燃焼段右側) ▲エキスパンションロープ詰め ▲助燃バーナー：点検整備(1号・2号) ▲再燃バーナー：点検整備(1号No.1・2、2号No.1・2)
燃焼ガス冷却設備	▲ボイラ：ドラム内部清掃点検 ▲ボイラ：水面計点検整備 ▲ボイラ：圧力計取替（ドラム、二次加熱器出口蒸気） ▲ボイラ：管寄せ内部点検（全箇所） ▲ボイラ：3パス・エコエアブロー清掃 ▲ボイラ：バルブ整備（安全弁、主蒸気給水逆止弁） ▲脱気器：清掃点検 ▲高圧蒸気だめ：主蒸気入口止め弁整備 ●純水装置：樹脂交換	▲ボイラ：ドラム内部清掃点検 ▲ボイラ：水面計点検整備 ▲ボイラ：圧力計取替（ドラム、二次加熱器出口蒸気） ▲ボイラ：管寄せ内部点検（全箇所） ▲ボイラ：2パス/3パス・エコエアブロー清掃 ▲ボイラ：バルブ整備（安全弁、主蒸気給水逆止弁、主蒸気給水止め弁、ブロー弁） ▲脱気器：清掃点検 ●ボイラ給水ポンプ：整備（1号No.2、2号No.1）	▲ボイラ：ドラム内部清掃点検 ▲ボイラ：水面計点検整備 ▲ボイラ：圧力計取替（ドラム、二次加熱器出口蒸気） ▲ボイラ：管寄せ内部点検（全箇所） ▲ボイラ：3パス・エコエアブロー清掃 ▲ボイラ：バルブ整備（安全弁、主蒸気給水逆止弁、主蒸気給水止め弁） ▲脱気器：清掃点検 ▲高圧蒸気だめ：主蒸気入口止め弁整備 ●純水装置：樹脂交換 ▲純水装置：流量計整備、pH計等清掃	▲ボイラ：ドラム内部清掃点検 ▲ボイラ：水面計点検整備 ▲ボイラ：圧力計取替（ドラム、二次加熱器出口蒸気） ▲ボイラ：管寄せ内部点検（全箇所） ▲ボイラ：3パス・エコエアブロー清掃 ▲ボイラ：バルブ整備（安全弁、主蒸気給水逆止弁、主蒸気給水止め弁、ブロー弁） ▲脱気器：清掃点検 ●純水装置：樹脂交換、 塩酸計量槽ゲージ管・サランネット取替 ●スートブロワ：No6.エレメントチューブ取替 ▲ボイラ給水ポンプ：点検整備（1号No.2、2号No.1） ▲脱気器給水ポンプ：点検整備 ▲純水移送ポンプ：点検整備	▲ボイラ：ドラム内部清掃点検 ▲ボイラ：水面計点検整備 ▲ボイラ：圧力計取替（ドラム、二次加熱器出口蒸気） ▲ボイラ：管寄せ内部点検（4箇所） ▲ボイラ：3パス・エコエアブロー清掃 ▲ボイラ：バルブ整備（安全弁、主蒸気給水逆止弁、主蒸気給水止め弁） ●ボイラ耐火物：補修(1号・2号) ▲脱気器：清掃点検 ▲高圧蒸気だめ：主蒸気入口止め弁整備 ●純水装置：樹脂交換▲純水装置：点検整備(流量計、導電率計、pH計、純水廃液移送ポンプ、混合用ブロワ) ●スートブロワ：No6.エレメントチューブ取替 ▲排気復水タンク：液面計整備
排ガス処理設備	▲減温塔：清掃点検、噴霧ノズル交換 ▲ろ過式集じん器：点検整備 ▲脱硝反応塔：触媒洗浄(1号・2号)	▲減温塔：清掃点検 ●ろ過式集じん器：スクリュウコンベア・ロータリーバルブ軸受交換、温風循環ファン整備(1段目) ▲脱硝反応塔：触媒洗浄(上段) ▲排ガス用空気圧縮機：点検整備(No.2)	▲減温塔：清掃点検 ●ろ過式集じん器：スクリュウコンベア・ロータリーバルブ軸受交換、温風循環ファン整備(1号1段目) ●ろ過式集じん器：ろ布交換(2号1段目) ▲脱硝反応塔：触媒洗浄(1号・2号)	▲減温塔：清掃点検 ●ろ過式集じん器：ろ布交換(1号1段目、2号1段目) ●脱硝反応塔：触媒交換(2号) ▲脱硝反応塔：触媒洗浄(1号上段) ●消石灰定量供給装置：オイルシール交換 ●特殊助剤定量供給装置：攪拌用インペラ・オイルシール交換 ▲排ガス用空気圧縮機：点検整備(No.1・No.2) ▲アンモニア供給装置：点検整備	▲減温塔：清掃点検 ▲ろ過式集じん器：点検整備(1号1・2段目、2号1・2段目) ●脱硝反応塔：無触媒脱硝装置(2号) ▲排ガス用空気圧縮機：点検整備(No.1) ▲アンモニア供給装置：点検整備
余熱利用設備	▲タービン油検査	▲タービン：軸受整備 ▲タービン：蒸気加減弁点検整備 ▲タービン：油タンク清掃 ▲タービン：油冷却器清掃点検 ▲タービンバイパス：注水弁整備	▲タービン：減速装置・主油ポンプ点検整備	▲タービン：本体開放点検 ▲タービン：主要弁整備 ▲タービン：サーボモーター整備 ▲タービン：オイルタンク清掃	▲タービン：軸位置計、軸振動計校正、後部軸受困付きカーボンブラシ交換 ▲タービン：グラント蒸気復水器用ファン、パッキン蒸気コントローラ開放点検 ▲タービン：主・非常用油ポンプ分解整備

▲：清掃、点検、整備 ●：一部更新（交換・取替） ◎更新

補修・改造状況（その2）

設備名	平成19年度	平成20年度	平成21年	平成22年	平成23年
通風設備			▲誘引通風機：清掃点検 ▲押込送風機：清掃点検 ▲二次送風機：清掃点検 ▲白煙防止用送風機：清掃点検	▲誘引通風機：清掃点検 ▲押込送風機：清掃点検 ▲二次送風機：清掃点検 ▲白煙防止用送風機：清掃点検 ●煙道：2号IDF出口伸縮継手交換	▲誘引通風機：清掃点検 ▲押込送風機：清掃点検 ▲二次送風機：清掃点検 ▲白煙防止用送風機：清掃点検
灰出設備	▲灰搬出装置：コンベア清掃点検（落下灰搬出装置、No.1・No.2焼却灰搬出装置） ▲混練機：スクリュウ硬化肉盛補修、ゴムのれん交換	▲混練機：スクリュウ硬化肉盛補修、ゴムのれん交換	▲混練機：スクリュウ硬化肉盛補修、オイルシール・グランドパッキン取替		▲灰搬出装置：No.2焼却灰搬出装置目視点検(1号・2号) ▲灰搬送装置：No.1～3焼却灰搬送装置A・B、灰パイパス搬出装置、磁性物搬出装置、不燃物搬出装置目視点検 ▲混練機：スクリュウ硬化肉盛補修、オイルシール取替
給水設備					◎再利用水揚水ポンプ：更新
排水処理設備	●ろ過塔/活性炭塔：ろ過砂、活性炭、支持砂利交換 ●RO膜交換 ●DXNs分解設備：触媒洗浄、支持砂利交換	●ろ過塔/活性炭塔：活性炭全量交換 ▲プロワ：点検		●DXNs分解設備：触媒洗浄、支持砂利交換	●ろ過塔/活性炭塔：ろ過砂、活性炭、支持砂利交換 ●DXNs分解設備：触媒洗浄、支持砂利交換
電気設備		●発電機：アースブラシ交換		▲直流電源装置：点検整備 ▲交流無停電電源装置：点検整備 ▲調節弁：点検整備	▲発電機：クーラー点検整備、エレメント等交換 ▲伝送器：点検 ▲調整弁：点検整備 ●現場中継盤/制御盤：シーケンサバッテリー交換
計装設備					●車両管制システム：No.5ごみ投入扉車両感知センサー交換
雑設備		▲計装用空気圧縮機：点検整備(No.2) ●計装用空気圧縮機：除湿器フィルター交換 ▲雑用空気圧縮機：点検整備(No.2)	▲計装用空気圧縮機：点検整備(No.1) ▲雑用空気圧縮機：点検整備(No.2)	▲計装用空気圧縮機：点検整備(No.2) ▲雑用空気圧縮機：点検整備(No.1)	▲計装用空気圧縮機：点検整備(No.1) ▲雑用空気圧縮機：点検整備(No.2)

▲：清掃、点検、整備 ●：一部更新（交換・取替） ◎更新

補修・改造状況（その3）

設備名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
受入供給設備		▲窓自動洗浄装置：走行軸、安定化電源、PLCバッテリー、追加噴射ノズル、レール清掃用ブラシ整備 ▲切断機：刃物反転、切断シリンダ分解整備 ▲脱臭装置：整備(フィルター交換)	▲ごみクレーン：各装置部品点検・整備 ●ごみクレーン：No.1ごみクレーン巻き上げ用INV、ロードセル交換 ●ごみクレーン：クレーンバケット更新(1基)	▲ごみ投入扉：上部軸受交換 ▲ダンピングボックス：モートルシリンダ更新 ▲脱臭装置：清掃点検、防振ゴム交換 ▲ごみクレーン：各装置部品点検・整備 ●ごみクレーン：横行車輪交換(No.1・No.2共通) ●ごみクレーン：クレーンバケット更新(2基)	▲ごみ投入扉：電動シリンダ交換（納入） ▲ごみクレーン：各装置部品点検・整備
燃焼設備	▲ブリッジ解除装置：油圧シリンダ分解整備(1号・2号) ●給じん装置：投下ブロック、ベースプレート、スライドベース、下部遮蔽板交換(1号) ●給じん装置：カバープレート当板補修、下部遮蔽板交換(2号) ●燃焼装置：火格子交換(1号・2号) ●燃焼装置：台車ローラ交換(1号・2号) ▲耐火物：炉内清掃（クリンカ除去） ●耐火物：レンガ取替(1号燃焼段左側) ●耐火物：1号耐火タイル交換、1号燃焼段落部耐火物補修 ▲エキスパンションロープ詰め ▲駆動用油圧装置：油交換、オイルクーラ清掃、配管フラッシング ▲助燃バーナー：点検整備(1号) ▲再燃バーナー：点検整備(1号No.1・2)	●投入ホッパシュート：傾斜部摩耗板取替(1号・2号) ●投入ホッパシュート：レベル計交換(1号) ●給じん装置：カバープレート、側面ガイド交換(1号) ●給じん装置：投下ブロック、カバープレート、側面ガイド、下部遮蔽板交換、ベースプレート、スライドプレート、スライドベース取替(2号) ▲給じん装置：連結ロッド取外整備(1号)、油圧シリンダ分解点検整備(1号・2号) ●燃焼装置：火格子交換(1号・2号) ●燃焼装置：台車ローラ交換(1号・2号) ▲燃焼装置：シリンダ分解整備(1号・2号) ▲耐火物：炉内清掃（クリンカ除去） ●耐火物：一部補修 ●耐火物：1号耐火タイル交換、2号燃焼段落部耐火物補修 ▲エキスパンションロープ詰め ▲助燃バーナー：点検整備(2号) ▲再燃バーナー：点検整備(2号No.1・2)	▲投入ホッパシュート：側面摩耗板取替(1号・2号) ●給じん装置：本体ガイドレール、下部遮蔽板交換(1号) ●給じん装置：下部遮蔽板、ガイドレール交換(2号) ●燃焼装置：火格子交換(1号・2号) ●燃焼装置：台車ローラ交換(1号・2号) ▲燃焼装置：シリンダ分解整備(1号・2号) ▲耐火物：炉内清掃（クリンカ除去）、乾燥段左右側壁レンガ取替(1号・2号) ▲エキスパンションロープ詰め ●助燃バーナー：Vベルト、ベアリング、スパークロッドウルトラビジョン等交換 ●再燃バーナー：Vベルト、ベアリング、スパークロッドウルトラビジョン等交換	▲ブリッジ解除装置：シリンダ分解整備(1号・2号) ●給じん装置：下部遮蔽板交換(1号・2号) ●給じん装置：油圧シリンダ分解点検整備(1号・2号) ●燃焼装置：火格子交換(1号・2号) ●燃焼装置：台車ローラ交換(1号・2号) ●燃焼装置：シリンダ交換(2号乾燥) ●燃焼装置：燃焼火格子No.1緊急修繕(1号) ▲燃焼装置：シリンダ分解整備(1号・2号) ▲耐火物：炉内清掃（クリンカ除去） ●耐火物：一部補修 ▲エキスパンションロープ詰め ●駆動用油圧装置：点検整備（油タンク内清掃、バルブユニット交換(1炉)） ●助燃バーナー：点検整備（油調量弁、ホース、CM円盤リングージ等交換） ●再燃バーナー：点検整備（油調量弁、ホース、CM円盤リングージ等交換）	▲ブリッジ解除装置：シリンダ分解整備(1号・2号) ●給じん装置：整備(1号・2号) ●燃焼装置：火格子交換(1号・2号) ●燃焼装置：台車ローラ交換(1号・2号) ●燃焼装置：シリンダ交換(1号乾燥・燃焼No.1・2・後燃焼、2号燃焼No.1・2・後燃焼) ▲燃焼装置：シリンダ分解整備(2号乾燥) ▲耐火物：炉内清掃（クリンカ除去） ●耐火物：一部補修 ▲エキスパンションロープ詰め ●駆動用油圧装置：点検整備（油タンク内清掃、バルブユニット交換(1炉)） ●助燃バーナー：点検整備（Vベルト、ベアリング、スパークロッド、ウルトラビジョン等交換） ●再燃バーナー：点検整備（Vベルト、ベアリング、スパークロッド、ウルトラビジョン等交換）
燃焼ガス冷却設備	▲ボイラ：ドラム内部清掃点検 ▲ボイラ：水面計点検整備 ▲ボイラ：圧力計取替（ドラム、二次加熱器出口蒸気） ▲ボイラ：管寄せ内部点検（全箇所） ▲ボイラ：2・3パス・エコエアブロー清掃 ▲ボイラ：バルブ整備（安全弁、主蒸気給水逆止弁、主蒸気給水止め弁） ▲ボイラ：配管肉厚測定 ●ボイラ：エコノマイザダスト搬出装置軸受交換 ▲ボイラ：ボイラダスト搬出装置点検整備 ●ボイラ：グラントバックキン取替 ●ボイラ耐火物：補修(1号・2号) ▲脱気器：清掃点検 ▲高圧蒸気だめ：主蒸気入口止め弁整備、付属弁交換 ●純水装置：樹脂、苛性ソーダ流量計ゲージ管交換 ●スートブロワ：1号No.6・8エレメントチューブ、2号No.5・6エレメントチューブ取替 ▲スートブロワ：パージ用送風機：清掃 ▲ボイラ用給水ポンプ：点検整備(1号No.2・2号No.1) ▲脱気器給水ポンプ：点検整備 ▲純水移送ポンプ：点検整備 ▲排気復水タンク：清掃 ▲低圧蒸気復水器：減速機、ファン、モータ点検	▲ボイラ：ドラム内部清掃点検 ▲ボイラ：水面計点検整備 ▲ボイラ：圧力計取替（ドラム、二次加熱器出口蒸気） ▲ボイラ：管寄せ内部点検（4箇所） ▲ボイラ：3パス・エコエアブロー清掃 ▲ボイラ：バルブ整備（安全弁、主蒸気給水逆止弁、主蒸気給水止め弁） ●ボイラ：ドレン弁交換(2号) ●ボイラ：ボイラ給水流量調整弁整備 ●ボイラ：ガス再加熱器スチームトラップバイパス弁交換(1号) ●ボイラ耐火物：補修(1号・2号) ▲脱気器：清掃点検 ▲高圧蒸気だめ：主蒸気入口止め弁整備 ●純水装置：樹脂、塩酸流量計ゲージ管、原水流量計測定部、サランネット交換 ●スートブロワ：1号No.5・6エレメントチューブ、2号No.6エレメントチューブ取替 ●スートブロワ：パージ用送風機モーター更新(1号)、パージ用送風機軸受交換(2号) ▲ボイラ用給水ポンプ：モーター整備(1号No.1・2号No.2) ●低圧蒸気復水器：抽気エゼクタスチームトラップ交換	▲ボイラ：ドラム内部清掃点検 ▲ボイラ：水面計点検整備 ▲ボイラ：圧力計取替（ドラム、二次加熱器出口蒸気） ▲ボイラ：管寄せ内部点検（7箇所） ▲ボイラ：2・3パス・エコエアブロー清掃 ▲ボイラ：バルブ整備（安全弁、主蒸気給水逆止弁、主蒸気給水止め弁、フロー弁） ●ボイラ耐火物：補修(1号・2号) ▲脱気器：清掃点検、水面計整備 ▲高圧蒸気だめ：主蒸気入口止め弁整備 ●純水装置：樹脂、亜硫酸ソーダ注入ポンプ入口・出口弁取替 ●スートブロワ：No.6エレメントチューブ取替(1号・2号) ▲ボイラ用給水ポンプ：モーター整備(1号No.2・2号No.1) ▲脱気器給水ポンプ：点検整備 ▲純水移送ポンプ：点検整備	▲ボイラ：ドラム内部清掃点検 ▲ボイラ：水面計点検整備 ▲ボイラ：圧力計取替（ドラム、二次加熱器出口蒸気） ▲ボイラ：管寄せ内部点検（7箇所） ▲ボイラ：3パス・エコエアブロー清掃 ▲ボイラ：バルブ整備（安全弁、主蒸気給水逆止弁、主蒸気給水止め弁） ●ボイラ耐火物：補修(1号・2号) ▲脱気器：清掃点検 ▲高圧蒸気だめ：主蒸気入口止め弁整備、蒸気だめ内部清掃点検 ●純水装置：樹脂、廃液槽レベル計、導電率計、廃液槽pH計、ボール逆止弁交換 ●スートブロワ：No.5・6エレメントチューブ取替(1号) ●スートブロワ：No.5・6エレメントプレート取替(1号・2号) ▲スートブロワ：パージ用送風機清掃点検、防振ゴム交換(1号・2号) ●ボイラ給水ポンプ：緊急修繕(2号No.1) ▲ボイラダスト搬出装置：防振ゴム交換 ▲フロータンク：タンク内、冷却装置清掃点検 ▲ボイラ給水ポンプ：点検整備(2台) ▲排気復水ポンプ：点検整備(2台)	▲ボイラ：ドラム内部清掃点検（内部装置取外し） ▲ボイラ：水面計点検整備 ▲ボイラ：圧力計取替（ドラム、二次加熱器出口蒸気） ▲ボイラ：管寄せ内部点検（7箇所） ▲ボイラ：2・3パス・エコエアブロー清掃 ▲ボイラ：バルブ整備（安全弁、主蒸気給水逆止弁、主蒸気給水止め弁、フロー弁） ●ボイラ：1号ボイラ水管右側壁一部更新 ●ボイラ：2号スクリーン管更新 ●ボイラ耐火物：補修(1号・2号) ▲脱気器：清掃点検 ▲高圧蒸気だめ：主蒸気入口止め弁整備、蒸気だめ内部清掃点検 ●純水装置：樹脂、サランネット、ストレーナ交換 ●スートブロワ：エレメントパイプ交換 ▲ボイラ給水ポンプ：点検整備(1号No.2、2号No.1) ▲脱気器給水ポンプ：点検整備 ▲純水移送ポンプ：点検整備 ▲ボイラダスト搬出装置：点検整備（ダブルフラップダンパ、スクリュコンベア） ▲低圧蒸気復水器：減速機分解整備、モーター点検整備カップリング点検
排ガス処理設備	▲減温塔：清掃点検 ▲ろ過式集じん器：点検整備 ●ろ過式集じん器：プラスター配管改造(1号1段目・2号1段目) ●消石灰定量供給装置：オイルシール交換 ●特殊助剤定量供給装置：オイルシール交換 ▲排ガス用空気圧縮機：点検整備(No.2) ▲アンモニア供給装置：点検整備	▲減温塔：清掃点検 ●減温塔：ノズル取替（噴霧用空気を圧縮空気へ変更） ●ろ過式集じん器：点検整備(1号・2号) ●消石灰定量供給装置：オイルシール、取付座交換 ●特殊助剤定量供給装置：オイルシール交換 ▲排ガス用空気圧縮機：点検整備(No.1) ▲アンモニア供給装置：点検整備	▲減温塔：清掃点検 ●ろ過式集じん器：1段目ろ布交換(1号・2号) ▲ろ過式集じん器：温風循環ファン点検整備 ▲脱硝反応塔：点検（サンプル触媒分析） ▲消石灰定量供給装置：オイルシール交換 ▲特殊助剤定量供給装置：オイルシール交換 ▲排ガス用空気圧縮機：点検整備(No.2) ▲アンモニア供給装置：点検整備 ▲減温水ポンプ：点検整備(1台)	▲減温塔：清掃点検 ●減温塔：ロータリースクレーパー交換 ▲ろ過式集じん器：1段目・2段目点検整備(1号・2号) ▲消石灰定量供給装置：オイルシール交換 ▲特殊助剤定量供給装置：オイルシール交換 ▲排ガス用空気圧縮機：点検整備(No.1) ▲アンモニア供給装置：点検整備 ▲アンモニア希釈用空気送風機：清掃点検、防振ゴム交換 ▲減温水ポンプ：点検整備(1台)	▲減温塔：清掃点検 ●減温塔：ロータリースクレーパー交換 ●ろ過式集じん器：1段目スクリュコンベヤ、2段目駆動側軸封交換1段目ろ布交換(1号・2号) ◎消石灰定量供給装置：更新 ◎特殊助剤定量供給装置：更新 ▲アンモニア供給装置：点検整備 ▲減温水ポンプ：点検整備(1台)
余熱利用設備	▲タービン：シーリングコントロール弁整備 ▲タービン：起動盤内光リンクユニット整備(交換) ▲タービン：補助油ポンプ点検 ▲タービン：蒸気加減弁、サーボモーター開放点検整備 ▲タービンバイパス：出口蒸気圧力調整弁分解整備	▲タービン：定期事業者検査、サーボモーター整備 ▲タービン：軸振動計、軸位置計校正 ▲タービン：油ポンプ整備 ▲タービン：油冷却器、グラント蒸気復水器清掃点検 ●タービン：タービン抽気蒸気流量計交換 タービンバイパス：抽気エゼクタスチームトラップ交換	▲タービン：点検整備（遮断弁トリップ用電磁弁交換、ドレンタンク用電磁弁交換、補助油ポンプ用モーター交換、モーニング装置用モーター交換）	▲タービン：点検整備（ガバナ更新、ターニング装置用電動機交換、補助油ポンプ用電動機交換） ▲タービンドレン回収ポンプ：点検整備(2台)	▲タービン：点検整備（油ポンプ、グラント蒸気復水器、グラント蒸気復水器ファン、ガスベンドファン）

▲：清掃、点検、整備 ●：一部更新（交換・取替） ◎更新

補修・改造状況（その4）

設備名	平成24年	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
通風設備	▲煙道：内部点検	▲誘引通風機：清掃点検 ▲押込送風機：清掃点検、ベアリング交換 ▲二次送風機：清掃点検、ベアリング交換 ▲白煙防止用送風機：清掃点検	▲誘引通風機：清掃点検、ベアリング交換 ▲押込送風機：清掃点検 ▲二次送風機：清掃点検 ▲白煙防止用送風機：清掃点検	▲誘引通風機：清掃点検 ▲押込送風機：清掃点検、防振ゴム交換 ▲二次送風機：清掃点検、防振ゴム交換 ▲白煙防止用送風機：清掃点検、防振ゴム交換 ▲空気予熱器：清掃点検 ▲風道ダンパ：点検整備 ▲煙道：エコノマイザ出口煙道部分補修(1号・2号)	▲誘引通風機：清掃点検 ▲二次送風機：清掃点検 ▲白煙防止用送風機：清掃点検 ▲風道ダンパ：点検整備 ●煙道：エコノマイザ出口煙道更新(1号・2号)
灰出設備	●灰搬出装置：減速機整備、内部肉厚測定、灰バイパス搬出装置チェーン・軸受交換振動飾フレキ交換 ●混練機：清掃点検、本体軸受交換 ●集じん灰搬送装置：グランドパッキン、軸受交換 ●クッションホッパ用定量供給装置：グランドパッキン、軸受交換 ▲各シュート・コンベア：点検、肉厚測定	●振分装置：シュート取替(1段目集じんダスト) ●混練機：混練パドル、スリーブ、戻しスクリーン、オイルシール交換 ●混練機：排出シュート補修 ●磁選機：ドラムシェル交換 ▲クッションホッパエアレーション：整備 ▲不燃物グリスリ：整備	●灰搬出装置：落下灰搬出装置ドラグチェーン、摩耗板交換 ●灰搬出装置：No.1焼却灰排出装置油圧シリンダ交換 ●灰搬送装置：1号エコノマイザダスト搬送装置スクリュコンベア交換 ●灰搬送装置：1段目集じんダスト搬送装置コンベアチェーン、フライト交換(1号・2号) ●振分装置：No.1焼却灰振分装置シュート更新(1号・2号) ▲混練機：スクリュ硬化肉盛補修 ▲搬出ホッパ：ゴムのれん交換 ▲積出しクレーン：各装置部品点検・整備	●灰搬出装置：No.2焼却灰搬出装置コンベアチェーン、軸受、スプロケット(2号)交換 ●灰搬送装置：No.2焼却灰搬送装置減速機、コンベアチェーン更新 ●灰搬送装置：磁性物搬出装置減速機整備、コンベアチェーン、軸受交換 ●灰搬送装置：集じんダスト搬送装置ヘッドユニット、コンベアチェーン、ヘッドユニット(1号・2号1段目)交換 ▲集じん灰定量供給装置：点検整備 ▲混練機：スクリュ硬化肉盛補修、駆動ベルト・出口側シュート交換 ▲養生コンベア：コンベアベルト交換 ▲積出しクレーン：各装置部品点検・整備 ●積出しクレーン：ロードセル交換(No.1・No.2共通)	●灰搬送装置：No.1焼却灰搬送装置Aライナー部分補修 ●灰搬送装置：不燃物搬出装置減速機整備、コンベアチェーン、軸受交換 ●灰搬送装置：集じんダスト搬送装置ヘッドユニット、コンベアチェーン、ヘッドユニット(1号・2号2段目、NO.1-2))交換 ▲混練機：スクリュ硬化肉盛補修、水・キレート配管更新 ●磁選機：ドラムシェル交換(A・B) ▲積出しクレーン：各装置部品点検・整備 ●積出しクレーン：クレーンバケット更新(3基)
給水設備			▲生活用水加圧給水ユニット：点検整備(2台) ▲生活系貯水槽送水ポンプ：点検整備(1台) ▲プラント用水揚水ポンプ：点検整備(1台) ▲プラント用水送水ポンプ：点検整備(1台) ▲再利用水揚水ポンプ：点検整備(1台) ▲純水装置送水ポンプ：点検整備(1台)	▲機器冷却塔：点検整備（充填材、ファン部品交換） ▲生活系貯水槽送水ポンプ：点検整備(1台) ▲機器冷却水揚水ポンプ：点検整備(2台) ▲洗車水ポンプ：点検整備(1台)	▲生活系貯水槽送水ポンプ：点検整備(1台) ▲プラント用水揚水ポンプ：点検整備(1台) ▲プラント用水送水ポンプ：点検整備(1台) ▲再利用水揚水ポンプ：点検整備(1台) ▲純水装置送水ポンプ：点検整備(1台) ▲洗車水ポンプ：点検整備(1台)
排水処理設備	●ろ過塔/活性炭塔：ろ過砂、活性炭、支持砂利交換 ●DXNs分解設備：触媒洗浄、支持砂利交換 ●DXNs分解設備：樹脂塔上部鏡部補修	●ろ過塔/活性炭塔：ろ過砂、活性炭、支持砂利交換 ●DXNs分解設備：触媒洗浄、支持砂利交換	●ろ過塔/活性炭塔：ろ過砂、活性炭、支持砂利交換 ●DXNs分解設備：触媒洗浄、支持砂利交換 ●攪拌機：シャフト、ベアリング、ギア等交換（有機系中和槽攪拌機、無機系中和槽攪拌機、反応槽第1室攪拌機、反応槽第2室攪拌機） ●塩酸配管：交換 ▲放流ポンプ：点検整備(1台)	●ろ過塔/活性炭塔：ろ過砂、活性炭、支持砂利交換 ●DXNs分解設備：触媒交換、支持砂利交換 ▲放流ポンプ：点検整備(1台) ▲排水設備汚泥ポンプ：点検整備(3台) ▲ダイオキシン類分解設備給水ポンプ：点検整備(2台) ▲循環ポンプ：点検整備(1台) ▲MF膜逆洗ポンプ：点検整備(1台)	●ろ過塔/活性炭塔：ろ過砂、活性炭、支持砂利交換 ●DXNs分解設備：支持砂利交換 ●ブロワ：曝気ブロワサイレンサ交換 ●掻き機：掻き機・減速機整備（有機系、無機系、汚泥濃縮槽） ●再曝気槽接触材交換 ●プラント用水配管一部更新（本館分岐～排水用キレート溶解槽） ●灰汚水配管更新（灰汚水槽～無機系スクリーン） ▲ろ液噴霧ポンプ：点検整備(1台) ▲MF膜原水ポンプ：点検整備(1台) ▲高圧ポンプ：点検整備(1台) ▲膜処理ろ過ポンプ：点検整備(1台)
電気設備	●交流無停電電源装置：電解コンデンサ交換 ▲伝送器：点検 ▲調整弁：ボイラ主蒸気止め弁点検整備(1号・2号) ●中央監視盤モニター：交換	▲調整弁：ボイラ主蒸気止め弁点検整備(1号・2号) ▲伝送器：点検	▲直流電源装置：点検整備 ▲交流無停電電源装置：点検整備 ▲調整弁：点検整備（1号・2号ボイラ主蒸気止め弁、1号・2号ボイラ純水張込弁）	▲直流電源装置：点検整備 ▲交流無停電電源装置：点検整備 ▲伝送器：点検 ▲調整弁：点検整備（1号・2号ボイラ主蒸気止め弁、2次加熱器出口放蒸弁、ボイラ給水流量調節弁、脱気器レベル調節弁） ●誘引通風機速度制御盤：インバータ基盤交換 ●現場中継盤：シーケンサ、通信カード交換	▲直流電源装置：点検整備 ▲交流無停電電源装置：点検整備（コンデンサ、冷却ファン交換） ▲調整弁：点検整備（1号・2号ボイラ主蒸気止め弁） ●誘引通風機速度制御盤：インバータ・コンバータ更新 ●低圧蒸気復水器速度制御盤：インバータ・コンバータ更新 ●現場中継盤・制御盤：シーケンサ更新
計装設備		●アンモニア希釈用空気流量計交換	●サイバープリンタ：更新		●上位計算機システム更新
雑設備	▲計装用空気圧縮機：点検整備(No.2) ▲雑用空気圧縮機：点検整備(No.1)	▲計装用空気圧縮機：点検整備(No.1) ▲雑用空気圧縮機：点検整備(No.2)	▲計装用空気圧縮機：点検整備(No.2) ▲雑用空気圧縮機：点検整備(No.1)	▲計装用空気圧縮機：点検整備(No.1) ▲雑用空気圧縮機：点検整備(No.2)	▲計装用空気圧縮機：点検整備(No.2) ▲雑用空気圧縮機：点検整備(No.1)

▲：清掃、点検、整備 ●：一部更新（交換・取替） ◎更新

補修・改造状況（その5）

設備名	平成29年度	平成30年度	平成31/令和元年度	令和2年度	令和3年度
受入供給設備	●ごみ投入扉(ダンピングボックス用含む)：電動シリンドラ更新 ▲ごみクレーン：各装置部品点検・整備	▲ごみクレーン：巻上モータ整備			▲切断機：点検整備
燃焼設備	●給じん装置：ロッドシール装置用部品、下部遮蔽板、投下ブロック、スライドプレート、シールプレート交換(1号・2号) ▲給じん装置：油圧シリンドラ整備(1号・2号) ●燃焼装置：火格子、台車ローラ交換(1号・2号) ▲燃焼装置：油圧シリンドラ整備(1号・2号) ▲耐火物：炉内清掃（クリンカ除去） ●耐火物：一部補修 ▲エキスパンションロープ詰め ●助燃バーナー：点検整備（Vベルト、ベアリング、スパークロッド等交換） ▲駆動用油圧装置：点検整備(1号) ●再燃バーナー：点検整備（Vベルト、ベアリング、スパークロッド等交換） ●灯油移送ポンプ：取替修繕(1台)	▲投入ホッパシュート：内部清掃 ●投入ホッパシュート：降水管保護板 ●給じん装置：ロッドシール装置用部品、下部遮蔽版、投下ブロック、ベースプレート、スライドベース、ガイドローラ ▲耐火物：炉内シリンドラ(1号・2号) ▲燃焼装置：油圧シリンドラ整備(1号・2号) ●燃焼装置：火格子、台車ローラ交換(1号・2号) ▲耐火物：炉内清掃（クリンカ除去）、エキスパンションロープ詰め ●耐火物：一部補修 ▲炉駆動用油圧装置：オイル補充、油圧配管ブラッシング ●炉駆動用油圧装置：消耗品、No.1焼却灰搬出装置用バルブユニット ●再燃バーナー：点検整備（Vベルト、ベアリング、パイロットバーナ等） ▲灰溶融設備；窒素制御装置、自動弁整備、電磁弁交換	●給じん装置：ロッドシール装置用部品、下部遮蔽版 ▲燃焼装置：油圧シリンドラ整備(1号・2号) ●燃焼装置：火格子、台車ローラ交換(1号・2号) ▲耐火物：炉内清掃（クリンカ除去）、エキスパンションロープ詰め ●耐火物：一部補修 ▲炉駆動用油圧装置：オイル補充、油圧配管ブラッシング ●炉駆動用油圧装置：消耗品 ●再燃バーナー：点検整備（Vベルト、ベアリング、パイロットバーナ等）	●受入ホッパ・水冷ジャケット：部分更新 ●給じん装置・燃焼装置：部分更新 ▲給じん装置・燃焼装置用油圧シリンドラ：点検整備 ▲炉駆動用油圧装置：点検整備 ▲炉内耐火物・レンガ：点検整備 ◎落じんホッパシュート：更新 ▲助燃バーナー：点検整備 ▲再燃バーナー：点検整備	▲ブリッジ解除装置：清掃点検 ▲給じん装置清掃：点検整備 ●燃焼装置：火格子 ▲燃焼装置：油圧シリンドラ整備（1・2号）、ホッパシュート清掃 ▲炉駆動用油圧装置：点検整備 ▲耐火物：炉内清掃 ●耐火物：一部補修 ◎二次空気ノズル内挿入管：更新 ◎落じんホッパシュート：更新 ▲助燃バーナ点検整備 ▲再燃バーナ点検整備
燃焼ガス冷却設備	▲ボイラ：ドラム内部清掃点検 ▲ボイラ：水面計点検整備 ▲ボイラ：圧力計取替（ドラム、加熱器、脱気器） ▲ボイラ：管寄せ内部点検 ▲ボイラ：2・3パス・エコエアブロー清掃 ▲ボイラ：バルブ整備（安全弁、主蒸気給水逆止弁、給水止め弁、給水逆止め弁） ●ボイラ：2号ボイラ左右側壁水管、第二仕切壁上部水管一部更新 ●ボイラ耐火物：補修(1号・2号) ●ボイラダスト搬出装置：減速機更新(1号・2号) ▲スートブロワ：点検整備(1号・2号) ▲スートブロワパージ用送風機：清掃点検(2台) ▲脱気器：清掃整備(1台) ●1号清污剤注入ポンプ：インバータ更新 ▲ブロータンク・ブロー水冷却装置：分解整備(1基) ▲高圧蒸気だめ：清掃点検(1台) ▲排気復水タンク：分解整備(1基) ▲純水装置：整備(1基) ▲低圧蒸気復水器：整備(1基) ▲ボイラ給水ポンプ：点検整備(2台)	▲ボイラ：ドラム内部清掃点検 ▲ボイラ：水面計点検整備 ▲ボイラ：圧力計取替（ドラム、加熱器、脱気器） ▲ボイラ：管寄せ内部点検 ▲ボイラ：2・3パス・エコエアブロー清掃 ▲ボイラ：バルブ整備（安全弁、主蒸気給水逆止弁、給水止め弁、給水逆止め弁、ブロー弁） ▲ボイラ：ボイラ用薬液注入装置制御盤整備 ●ボイラ：インバータ、部品点検交換 ●ボイラ耐火物：補修(1号・2号) ●脱気器：清掃整備 ▲高圧蒸気だめ：清掃整備 ▲純水装置：流量計、エゼクター分解清掃、混合用ブロー整備 ●純水装置：樹脂交換、純水移送ポンプ、PLC ▲スートブロワ：点検整備(1号・2号) ▲ボイラ給水ポンプ：点検整備 ▲脱気器給水ポンプ：点検整備(1号・2号) ●純水移送ポンプ：更新(1号・2号) ▲低圧蒸気復水器：減速機、モーター整備、カップリング、固定ファン点検	●ボイラ：エコノマイザダスト搬出装置・ロータリーバルブ減速機、ボイラ水管材注入ポンプ ▲ボイラ：ドラム内部清掃点検 ▲ボイラ：水面計点検整備 ▲ボイラ：圧力計取替（ドラム、加熱器、脱気器） ▲ボイラ：管寄せ内部点検 ▲ボイラ：2・3パス・エコエアブロー清掃 ▲ボイラ：バルブ整備（安全弁、主蒸気給水逆止弁、給水止め弁、給水逆止め弁、ブロー弁） ▲ボイラ：ボイラ用薬液注入装置制御盤整備 ●ボイラ：インバータ、部品点検交換 ●ボイラ耐火物：補修(1号・2号) ▲脱気器：清掃整備 ▲高圧蒸気だめ：清掃整備 ▲純水装置：流量計、エゼクター分解清掃 ●純水装置：樹脂交換、自動バタフライ弁 ▲スートブロワ：点検整備(1号・2号) ▲スートブロワパージ用送風機：清掃点検、2号炉電動機交換 ▲ボイラ給水ポンプ：点検整備、1号NO.2電動機持ち帰り整備 ▲排気復水タンク：内部清掃 ▲ブロータンク：タンク内、冷却装置点検清掃 ▲低圧蒸気復水器：減速機、モーター整備、カップリング、固定ファン点検	●ボイラ：本体、水管：部分更新 ●ボイラダスト搬出装置：部分更新 ●スートブロワ：部分更新 ▲ボイラ給水ポンプ：点検整備 ▲脱気器：清掃整備 ▲脱気器給水ポンプ：点検整備 ▲高圧蒸気だめ：清掃整備 ▲純水装置：イオン交換塔、各ポンプ・機器類整備	●スートブロワ：部分更新 ▲スートブロワパージ用送風機：点検整備 ▲ボイラ：本体：点検整備 ▲ボイラ：ボイラダストダブルフラップダンパ：点検整備 ▲ボイラ：ボイラダスト搬出装置冷却用送風機：点検整備 ▲ボイラ給水ポンプ：点検整備 ▲ボイラ：ドラム内部：点検整備 ▲ボイラ：液面計整備 ◎ボイラ：圧力計：更新 ▲ボイラ：水管：清掃点検 ▲脱気器：点検清掃 ▲ブロータンク内部：清掃点検 ▲ブロー水冷却装置内部：清掃点検 ▲高圧蒸気だめ：点検整備 ▲低圧蒸気復水器：点検整備 ▲低圧蒸気復水器伝熱管：点検清掃 ●純水装置：部分更新 ◎プラント用水配管：更新
排ガス処理設備	▲減温塔：清掃点検(1号・2号) ▲1段目・2段目ろ過式集じん器：点検整備(1号・2号) ▲No.1排ガス処理用空気圧縮機：点検整備 ▲消石灰サイロ：点検（レベル計） ▲特殊助剤サイロ：点検（レベル計） ▲ガス再加熱器：点検 ▲アンモニア供給設備：点検整備(2基) ▲パージ用空気加熱器：清掃点検(2基) ▲減温水ポンプ：点検整備(1台) ▲1段目用薬品供給ブロー：点検整備(3台) ▲2段目用薬品供給ブロー：点検整備(3台)	▲減温塔：清掃点検(1号・2号) ▲1段目・2段目ろ過式集じん器：点検整備(1号・2号) ●1段目・2段目ろ過式集じん器：ヒータ、PLC ▲排ガス用空気圧縮機：部品交換点検 ▲アンモニア供給設備：点検整備(2基) ●アンモニア供給設備：一・二次側安全弁等の交換、アンモニアフレキホース等交換、PLC交換 ●アンモニア希釈用空気送風機：電動機取替 ▲ガス再加熱器：清掃点検 ▲パージ用空気過熱器：エレメント交換	▲減温塔：清掃点検(1号・2号) ●減温塔：ロータリーバルブ更新 ▲1段目・2段目ろ過式集じん器：点検整備(1号・2号) ▲消石灰サイロ：内部清掃点検、吹込み配管更新 ▲特殊助剤定量供給装置：内部清掃点検、吹込み配管更新 ▲排ガス用空気圧縮機：部品交換点検 ▲アンモニア供給設備：点検整備(2基) ▲ガス再加熱器：清掃点検 ●ガス再加熱器：空気抜弁更新 ▲パージ用空気過熱器：清掃点検(2基)	▲減温塔：清掃点検（1号・2号） ▲1段目・2段目ろ過式集じん器：点検整備（1号・2号） ▲排ガス処理用空気圧縮機：点検整備 ▲消石灰定量供給装置：点検整備 ▲特殊助剤定量供給装置：点検整備 ▲ガス再加熱器：清掃点検（2基） ▲アンモニア供給設備：点検整備	●減温塔：部分更新（1号） ▲排ガス処理用空気圧縮機：点検整備 ▲消石灰定量供給装置：点検整備 ▲特殊助剤定量供給装置：点検整備 ▲ガス再加熱器：清掃点検 ▲パージ用空気加熱器：清掃点検 ▲1段目・2段目ろ過式集じん器：点検整備（1号・2号） ▲アンモニア供給設備：清掃点検 ●脱硝装置アンモニア調節弁入口配管更新
余熱利用設備	▲タービン：点検整備（本体、サーボモーター、油冷却器、グラント蒸気復水器）		▲タービン：点検整備（蒸気加減弁、サーボモーター、油冷却器、起動盤内部、油タンクガス抽出機用ファン、グラント蒸気復水器エキソスタ用ファン）		▲タービン：点検整備

▲：清掃、点検、整備 ●：一部更新（交換・取替） ◎更新

補修・改造状況（その6）

設備名	平成29年度	平成30年度	平成31/令和元年度	令和2年度	令和3年度
通風設備	▲押込送風機：清掃点検(2基) ▲煙道ダンパ：整備(4基) ▲誘引通風機：清掃点検(2基) ▲白煙防止用送風機：清掃点検(2基) ▲二次送風機：清掃点検(2基) ▲白煙防止用空気予熱器：清掃点検(2基) ▲燃烧用空気予熱器：清掃点検(2基)	▲押込送風機：清掃点検(2基) ▲誘引通風機：清掃点検(2基) ▲白煙防止用送風機：清掃点検(2基) ▲二次送風機：清掃点検(2基) ▲白煙防止用空気予熱器：清掃点検(2基) ▲燃烧用空気予熱器：清掃点検(2基)	▲押込送風機：清掃点検(2基) ▲誘引通風機：清掃点検(2基) ▲白煙防止用送風機：清掃点検(2基) ▲二次送風機：清掃点検(2基) ▲白煙防止用空気予熱器：清掃点検(2基) ▲燃烧用空気予熱器：清掃点検(2基)	▲押込送風機：清掃点検(2基) ▲二次送風機：清掃点検(2基) ▲燃烧用空気予熱器：清掃点検(2基) ▲誘引通風機：点検整備 ▲白煙防止用空気予熱器：点検整備 ▲白煙防止用押込送風機：点検整備	▲二次送風機入口ダンパ（1号）：点検整備 ▲エコノマイザバイパスダンパ：清掃点検(2基) ▲押込送風機：清掃点検(2基) ▲二次送風機：清掃点検(2基) ●燃烧用空気予熱器：部分更新(2基) ▲煙道：清掃点検 ▲誘引通風機：清掃点検(2基) ▲白煙防止用空気予熱器：清掃点検(2基) ▲白煙防止用押込送風機：清掃点検(2基)
灰出設備	▲積出しクレーン：各装置部品点検・整備 ●積出しクレーン：電動機更新(No.1・No.2共通) ▲磁選機：点検整備(2基) ▲集じんダスト搬送装置：整備(No.2-2段目、No.3-2段目、No.4-2段目、No.5-2段目) ▲混練機：清掃点検(2基)	●灰搬送装置：集じんダスト搬送装置（シュート改造） ▲振分装置：各装置部品点検・交換 ▲集じん灰定量供給装置：No.2サイクロン減速機、定量供給装置攪拌機 ▲混練機：清掃点検(2基)、硬化肉盛 ▲養生コンベヤ：温風発生装置整備 ▲磁選機：ドラムシェルライナー交換 ▲振動篩：整備 ▲エコノマイザダスト振分装置：シュート部整備	▲灰搬出装置：点検整備（落下灰搬出装置、No.1焼却灰搬出装置） ▲灰搬送装置：点検整備（灰バイパス搬出装置、エコノマイザダスト搬送装置） ▲混練機：清掃点検(2基)、硬化肉盛 ◎養生コンベヤ：温風発生装置本体更新 ▲搬出ホッパ：ゴムのれん、伸縮継手、ウインチ交換 ▲振動篩：整備 ▲クッションホッパ定量供給装置：整備	◎1段目集じんダスト搬送装置（1・2号）：更新 ●No.2焼却灰搬送装置A,B：部分更新 ◎エコノマイザダスト搬送装置：更新 ▲混練機：点検整備 ●養生コンベア：部分更新	▲No.3-1段目集じんダスト搬送装置：点検整備 ▲No.4-1段目集じんダスト搬送装置：点検整備 ▲混錬機（2基）：清掃点検 ▲キレート剤貯留槽：清掃点検 ▲No.1-1段目集じんダスト搬送装置B：点検整備 ●不燃物搬出装置：部分更新 ●環境集じんダスト搬送装置：部分更新 ●No.3溶融ダスト搬送装置：部分更新
給水設備	▲生活系貯水槽送水ポンプ：点検整備(1台) ▲プラント用水揚水ポンプ：点検整備(1台) ▲プラント用水送水ポンプ：点検整備(1台) ▲再利用水揚水ポンプ：点検整備(1台) ▲純水装置送水ポンプ：点検整備(1台)		●純水装置送水ポンプ：整備、更新		◎生活系貯水槽送水ポンプ：更新 ◎洗車水ポンプ：更新 ●プラント用水配管：部分更新
排水処理設備	▲ろ液噴霧ポンプ：点検整備(1台) ▲排水設備汚泥ポンプ：点検整備(3台)	▲ろ過塔、活性炭塔：ろ過砂、活性炭、支持砂利交換 ▲ダイオキシン分解設備：支持砂利交換 ●プラント用水配管更新	▲ろ過塔、活性炭塔：ろ過砂、活性炭、支持砂利交換 ▲ダイオキシン分解設備：支持砂利交換 ●プラント用水配管更新	◎プラント用水揚水ポンプ：更新 ◎プラント用水送水ポンプ：更新 ▲ダイオキシン分解設備：支持砂利交換、各所配管点検	▲有機・無機系排水処理設備：支持砂利交換 ▲ダイオキシン類分散設備：支持砂利交換
電気設備	▲直流電源装置：点検整備 ▲無停電電源装置：点検整備 ▲非常用発電装置：点検整備 ●特高受電盤：シーケンサ交換 ●有害ガス除去装置制御盤：シーケンサ交換 ●集じん灰処理装置制御盤：シーケンサ交換 ●誘引通風機速度制御盤：インバータ・コンバータ更新 ●低圧蒸気復水器速度制御盤：インバータ・コンバータ更新 ●低圧動力盤：シーケンサ交換 ▲蒸気タービン発電機：点検整備	▲直流電源装置：バッテリー交換 ▲無停電電源装置：バッテリー交換 ●現場中継盤：制御盤：シーケンサ更新、集じん灰処理装置制御盤 インバータ取替 ▲レーザーO ₂ 計：部品取替	▲発電機：空気冷却器清掃 ▲非常用発電機：点検整備 ▲直流電源装置：部品交換 ▲無停電電源装置：点検整備 ●現場中継盤：制御盤：シーケンサ更新、ごみクレーン制御盤 インバータ取替 ▲レーザーO ₂ 計：部品取替	▲発電機盤：点検整備 ▲非常用発電機：点検整備 ▲直流電源装置：点検整備 ▲無停電電源装置：点検整備	◎二次送風機用CV変換機：取替（1号） ▲ごみ投入扉車両検知器収納盤：点検整備 ●集じん灰処理装置制御盤：部品取替 ▲蒸気タービン発電機：点検整備 ▲蒸気タービン発電機盤：点検整備 ▲非常用発電装置：点検整備 ▲直流電源装置：点検整備 ▲交流無停電電源装置：点検整備
計装設備	▲伝送器：点検(35台) ▲ガス再加熱器出口排ガス温度調整弁：整備(1号・2号) ▲燃烧用空気予熱器行蒸気止弁(1号・2号) ▲電油操作機：清掃点検(1号・2号)	▲電油操作器：点検整備 ▲工業計器：圧力伝送器取替 ▲調節弁：ボイラ給水流量調節詭弁整備	▲電油操作器：点検整備 ▲工業計器：伝送器取替 ▲調節弁：ボイラ主蒸気止弁整備	◎計量・車両管制自動運転システム：更新 ●クレーン自動運システム：部分更新 ▲工業計器：点検整備 ▲調節弁：点検整備 ▲レーザーO ₂ 計：点検整備 ●環境測定装置：部分更新	▲工業計器：点検整備 ▲調節弁：点検整備 ▲ボイラ主蒸気止弁：点検整備 ●分散形プロセス制御システム（DCS）：部分更新
雑設備	▲No1.計装用空気圧縮機：点検整備 ▲No.1・No.2雑用空気圧縮機：点検整備	▲No1.計装用空気圧縮機：点検整備 ▲No.1雑用空気圧縮機：点検整備	▲No1.計装用空気圧縮機：点検整備 ▲No.2雑用空気圧縮機：点検整備	▲計装用空気圧縮機：点検整備 ▲雑用空気圧縮機：点検整備	▲No.1計装用空気圧縮機：点検整備 ▲ヒートレスドライヤー：点検整備 ▲No.2雑用空気圧縮機：点検整備 ▲環境集じん器：点検整備

▲：清掃、点検、整備 ●：一部更新（交換・取替） ◎更新

【資料 2】

主要設備・機器リスト

令和 5 年 3 月

設備仕様の概略及びその重要度は、（その１～９）に示すとおりである。

設備仕様の概略（その１）

設備名称	機器名称	重要度	数量	設置場所		要 目
				階	室名等	
受入供給設備	ごみ計量機(受入用)	B	2	別棟	管理棟1F	マルチロードセル(低床式)、ビットレスタイプ、最大秤量25t(検定済) 最小自重:10kg、横載台寸法:3.0mW×8.0mL、精度±15kg 表示方式:デジタル表示
	プラットホーム	B	1	1F	プラットホーム	ごみビット直接投入方式、屋内式、19mW、車止めより37mL、(柱芯部)高圧洗浄装置
	プラットホーム出入口扉	B	2	1F	プラットホーム	電動式高速シャッター、4.6mW×4.0mH、自動開10秒・自動閉15秒
	エアカーテン	B	1	1F	プラットホーム	片吹出し式、入口用7枚・出口用各4枚、100m/h、基:0.36kW、2P
	ごみ投入扉	B	4	1F	プラットホーム	縦音開き式、3.0mW×7.0mL、Q235SS400、板厚3mm 開閉時間:各15秒、電動シリンダ駆動式 車間検知方式:ルーブコイル式光電管式(0.75kW、4P) 電動機:0.75kW-4P、1.5kW-4P
	ごみ投入扉 (ダンピングボックス用)	B	1	1F	プラットホーム	縦音開き式、3.0mW×7.85mL、Q235SS400、板厚3mm 開閉時間:各15秒、電動シリンダ駆動式 車間検知方式:超音波式光電管式(1.5kW、4P)
	ダンピングボックス	B	1	1F	プラットホーム	横断形、2.8mW×3.6mL×1.0mH、Q235SS400、板厚6mm・20mm 昇降各約30秒、電動シリンダ駆動式(2.2kW×2台、4P)
	不適物取出機込装置	B	1	1F	ストックヤード	自走式、(エンジン駆動)クローラ式全駆動、吊上げ能力100kg以上 最大作業半径4.350mm
	切断機	B	1	1F	プラットホーム	油圧せん断式、2t/5t、使用圧力21MPa 供給口寸法:12mW×3.0mL×0.7mH、本体SS400、送り装置SS400 切断部SKT4相当品、油圧シリンダ駆動式(切断機)、チェーンブッシャー(送り装置)
	ごみビット	B	1			鉄筋コンクリート造、5,000㎡ 11.9mW×25.7mL×16.2mH(プラットホームレベルより)
	ごみビット消火用放水銃	B	2	5F	ごみビット	キヤーク放水銃0.37mL/h、0.2MPa
	ごみクリーン	B	2	6F	ごみビット上部	油圧開閉式、バケット付天井走行クレーン、径陸:17.5mW、揚程38.5m 横行距離:13.8m、走行距離:36.79 m吊上重量4.98t、定格荷重2.28t バケット:ボリウム形状7.6m×3.8m、切り取り7.6t、本体SS400、ボスSCM440 巻上装置:巻上55m/min、巻下65m/min、55kW×1台、ブレーキ形式:電磁式、速度制御方式VVVF 開閉装置:開8秒、閉12秒、15kW×1台、ブレーキ形式:電磁ディスク式(電動機内蔵)、速度制御方式VVVF 横行装置:40m/min、15kW×2台、ブレーキ形式:電磁ディスク式(電動機内蔵)、速度制御方式VVVF 走行装置:60m/min、5.5kW×2台、ブレーキ形式:電磁ディスク式(電動機内蔵)、速度制御方式VVVF 走行レール:37kg/m、移動率:手動運転時70%程度 給電方式:横行キャタイヤケーブルカーテンハンガ方式・走行キャタイヤケーブルカーテンハンガ方式・開閉キャタイヤケーブルリール巻方式
	窓自動洗浄装置	B	1	2F	窓自動洗浄装置/ごみクリーン 操作室	エアサクションバキューム式 フランチャポンプSUS304、吐出量:12ℓ/min、2.2kW、薬液タンク容量:10ℓ 洗浄ユニット:駆動用0.4kW、旋回用0.1kW、ブロー3.4kW
燃焼設備	脱臭装置	B	1	4F	脱臭装置 /真空排除装置室	活性炭吸着式、液体ごみビット内空気、処理風量28.300m³/h 吸着剤:活性炭、主要部材質SS400 圧力損失:500Pa、プレフィルタ:2700×760×25 3セット ユニセフィルタ:脱臭性ガス 552本 脱臭性ガス 552本
	脱臭用送風機	B	1	4F	脱臭装置 /真空排除装置室	片吸込ターボ形、28.300m³/h、500 Pa ケーシングSS400、インペラSS400、インペラボス: FCD450
	脱臭用送風機 電動機	B	1	4F	脱臭装置 /真空排除装置室	STW、4P 片吸込ターボ形、28.300m³/h
	消臭剤噴霧装置	B	1	1F	薬液噴霧装置 スペース	一流体噴霧式、噴霧流量0.1ℓ/min(ノズル1本あたり)、 ノズル材質:SUS303、ノズル本数:7本 供給ポンプ:立形多段渦巻ポンプ、2台、吐出量:48ℓ/min、材質:SUS304、1.5kW、2P 希釈槽:有効500ℓ、材質:FRP
	殺虫剤噴霧装置	B	1	1F	薬液噴霧装置 スペース	一流体噴霧式、噴霧流量4.9ℓ/min(ノズル1本あたり)、ノズル材質:SUS303ノズル本数6本、供給ポンプ:立形多段渦巻ポンプ、2台、 吐出量:48ℓ/min、材質:SUS304、1.1kW、2P、希釈槽:有効500ℓ、材質:FRP
	ごみ投入ホッパ・シュート	B	2	5F	ホッパステージ	鋼板溶接製、容量有効25㎡、開口部5.1mW×5.03mL、SS400主要部板厚本体9mm、磨耗板6mm、シュート腕下部25mm 水冷シャケット付、レバー検出方式:超音波式・温度検出式 ブリッジ解除装置:スイング形(ホッパー)ート兼用タイプ電動油圧シリンダ、電動機:7.5kW-4P 440V
	給じん装置	B	2	3F	炉室	ブッシャ式、120t/d、2.48mW×1.58mL、ブッシャ本体:SUS304 テール先端部25Cr耐熱鋼焼、油重調節弁による連続制御、油圧シリンダ駆動式
	燃焼装置	B	2	2・3F	炉室	横形往復動式 乾燥火格子2.48mW×2.00mL、4.96㎡、油重調整弁による連続制御燃焼火格子2.48mW、4.47mL、11.09㎡、油重調整弁による連続制御後燃焼火格子2.48mW、3.64mL、9.03㎡、タイマによる停止時間制御 火格子面積:合計25.08㎡、火格子燃焼率:199kg/㎡/h 火格子ブロック25Cr耐熱鋼焼相当品、支持ケーシングSS400、サイドシール金物25Cr耐熱鋼焼相当品、油圧シリンダ駆動式
	炉駆動用油圧装置	B	2	1F	炉駆動用油圧装置室	油圧ユニット式、油圧ポンプ:ベーンポンプ、2台、吐出量52ℓ/min、吐出圧力:最高14MPa・常用12MPa 油タンク:角形鋼板製、250ℓ、SS400
	炉駆動用油圧装置 電動機	B	2	1F	炉駆動用油圧装置室	18.5kW、6P
	焼却炉	A	2	2・3F	炉室	水冷壁構造、火炉容積:189㎡、燃焼室熱負荷89.5kW/㎡(高負荷ごみ時) 外壁表面温度70℃以下 前壁:SC-85 230mm、B-1 114mm、ケイ酸カルシウム保温板約60mm 給じん装置側壁(ごみ側):SC-85 230mm、B-1 230mm、ケイ酸カルシウム保温板約80mm 給じん装置側壁(下部):SK-30 230mm、B-1 230mm、ロックワール約80mm 乾燥火格子側壁:AL-60C 230mm、B-2 114mm、B-1 114mm、 ロックワール燃焼火格子側壁(ごみ側):SC-85 114mm、耐火キャスタブル約67mm、 水冷壁、ロックワール 燃焼火格子側壁(上部):耐火タイルSC系耐火物約40mm、 水冷壁、ロックワール 後燃焼火格子側壁(ごみ側):SC-85 114mm、耐火キャスタブル約67mm、 水冷壁、ロックワール 後燃焼火格子側壁(上部):耐火タイルAl2O3系耐火物約40mm、水冷壁、 ロックワール後壁:プラスチック耐火物約300mm、ケイ酸カルシウム保温板約115mm
	炉ケーシング	B	2		炉室	全溶接密閉式、鋼板溶接構造SS400、主要部板厚4.5mm 外壁表面温度70℃以下
	落じんホッパシュート	B	2		落じん下火格子下	鋼板溶接製、SS400、主要部板厚:ホッパ9mm・シュート6mm・灰簾下管12mm シール方式:ダンパ方式 ダンパ:フラッパ型、空気圧シリンダ駆動
燃焼ガス冷却設備	灯油ストレージタンク	B	1	別棟		地下式円筒形、円筒鋼板製(地下埋設式)、容量有効20㎡ 2.35mD×5.73mL、SS400、主要部板厚6mm
	灯油移送ポンプ	B	2	別棟		キヤポンプ、2.160ℓ/h、0.7MPa、ケーシングFC250、キヤSCM415H(浸炭処理)
	助燃バーナ	B	2	3F	炉室	シャフトSCM415H(浸炭処理)、2.2kW、6P 強制通風式ロータリバーナー、190ℓ/h、燃料灯油、2.2kW、4P
	助燃バーナ 用送風機	B	2	3F	炉室	片吸込ターボ形、2.700m³/h、2.550Pa、ケーシングSS400 インペラ:SS400、ボス: FC200 5.5kW、2P
	No.1再燃バーナ	B	2	4F	炉室	強制通風式ロータリバーナー、355ℓ/h、燃料灯油、3.7kW、4P
	No.2再燃バーナ	B	2	3F	炉室	強制通風式ロータリバーナー、355ℓ/h、燃料灯油、3.7kW、4P
	窒素製造装置	B	1	1F	窒素発生装置置場	PSA式、80m³/h、純度99%、0.49MPa
	ボイラ本体	B	2	2～6F	炉室	水管式単相自然循環式串列型内型排熱ボイラ、過熱器付 蒸気圧力:最高3.65MPa・常用3.0MPa(過熱器出口にて) 蒸気温度:300℃(過熱器出口にて)、給水温度:130℃(脱気器出口にて)蒸気発生量:高負荷ごみ時21.09t/h、基準ごみ時17.36t/h、低負荷ごみ時15.50t/h 伝熱面積:放射伝熱面積370㎡、導熱伝熱面積699㎡ 蒸気ドラムSB450、伝熱管STB340-E、STB340-S、管寄せSTPT370-S 降水管:STPT370-S、連絡管STPT370-S・STPG370-S 耐火材SiC耐火材及び耐火タイル(水管壁保護用) 主要部寸法:蒸気ドラム 内径1.3m×長さ5.7m液面制御方式:三要素制 伝熱面積:本体:1065㎡、過熱器:270㎡ 最高使用温度:310℃、出口温度:300℃ 過熱伝熱面積:170㎡、水圧試験圧力:5.475MPa
	ボイラドラム安全弁	B	2		炉室	型式:NS255FYS、呼び径:65×125、のど部の径:49mm、弁座口の径:61mm、吐出し圧力:3.65MPa、吸下り圧力:0.255MPa、公称吐出し量: 3199kg/h、リフト:2.3m、弁座径:200mm、製造年月:2005年7月
	ボイラ-過熱器安全弁	B	2		炉室	型式:NS255FYS、呼び径:25×50、のど部の径:19mm、弁座口の径:24mm、吐出し圧力:3.3MPa、吸下り圧力:0.231MPa、公称吐出し量:4136kg/h、リフト:4.8mm、弁座径:111、製造番号:05FY002-1、製造年月:2005年7月
	過熱器	A	2	4・5F	炉室	水平蛇行管式、蒸気圧力:最高3.65MPa・常用3.0MPa、 蒸気温度:最高310℃・常用300℃、蒸気量:最大21.09t/h過熱面積:1次過熱器94㎡、2次過熱器76㎡ 伝熱管:STB340-S、管寄せ:STPT370-S、連絡管:STPG370-S

設備仕様の概略（その2）

設備名称	機器名称	重要度	数量	設置場所		要 目
				階	室名等	
燃 焼 ガ ス 冷 却 設 備	エコノマイザ	B	2	5・6F	炉室	水平蛇行管式、3.4MPa、給水量21.3t/h、給水温度130℃(脱気器出口にて)伝熱面積270㎡、伝熱管STB340-E、管寄せSTPT370-S 連絡管STPG370-S、ケーシングSS400 ダストホッパシュート：溶接鋼板製 ダスト搬出装置：スクリュウコンベア、0.2t/h、0.4kW-4P 搬出装置：ロータリーバルブ、0.2t/h、0.4kW-4P 溶接鋼板製、Q235(SS400)、主要部板厚4.5mm
	エコノマイザダストホッパシュート	B	2	4F	排ガスヤード	
	エコノマイザダスト搬出装置（スクリュウコンベヤ）	B	2	4F	排ガスヤード	スクリュウコンベア、0.2t/h、0.24mD×3.0mL、SS400、0.4kW、4P
	エコノマイザダスト搬出装置（ロータリーバルブ）	B	2	4F	排ガスヤード	0.2t/h、0.4kW、4P
	ボイラケーシング	B	2	2～6F	炉室	角渡カラー鉄板、塗装溶融亜鉛めっき鋼板、主要部板厚0.4mm 外壁表面温度70℃以下
	ボイラダストホッパシュート	B	2	3・4F	炉室	ボイラ水管壁構造、ボイラ本体構造、ホッパ(壁)STB340-E(水管壁)
	ボイラダスト搬出装置	B	2	3F	炉室	強制空冷式、スクリュウコンベア、0.5t/h、0.3mD×4.46mL ケーシングSS400(内面キャスタブルライニング)、ハドルSUS310S スクリュー軸SUS310S、チェーン駆動式、2.2kW、4P タナバダブルフラップ板、0.4kW、4P
	ボイラダスト搬出装置冷却用送風機	B	2	1F	炉室	片吸込ターボ形、950mN/h、4.2kPa、吸気サイレンサ0.32kPa含む ケーシングSS400、インペラSS400、インペラボス：SS400
	ボイラダスト搬出装置 冷却用送風機電動機	B	2	1F	炉室	3.7kW、2P
	ボイラ用安全弁消音器	B	2	6F	炉室	膨張吸音式、30cB(A)以上、本体Q235(SS400)、吸音材ロックウール
	No.1スートブロワ	B	2	4F	炉室	電動形蒸気噴射式、長板差形、蒸気噴射圧力0.8MPa、蒸気消費量2.1t/h 噴射管材質SUS304TP、作動時間6min/回、基、0.4kW、4P、5m24s
	No.2スートブロワ	B	2	4F	炉室	電動形蒸気噴射式、長板差形、蒸気噴射圧力0.8MPa、蒸気消費量2.1t/h 噴射管材質SUS304TP、作動時間6min/回、基、0.4kW、4P、5m24s
	No.3スートブロワ	B	2	4F	炉室	電動形蒸気噴射式、長板差形、蒸気噴射圧力0.8MPa、蒸気消費量2.1t/h 噴射管材質SUS304TP、作動時間6min/回、基、0.4kW、4P、5m33s
	No.4スートブロワ	B	2	4F	炉室	電動形蒸気噴射式、長板差形、蒸気噴射圧力0.8MPa、蒸気消費量2.1t/h 噴射管材質SUS304TP、作動時間6min/回、基、0.4kW、4P、5m33s
	No.5スートブロワ	B	2	4F	炉室	電動形蒸気噴射式、定置形、蒸気噴射圧力0.7MPa、蒸気消費量3.5t/h 噴射管材質SUS310STP、作動時間1min/回、基、0.2kW、4P、38s
	No.6スートブロワ	B	2	4F	炉室	電動形蒸気噴射式、定置形、蒸気噴射圧力0.7MPa、蒸気消費量3.5t/h 噴射管材質SUS310STP、作動時間1min/回、基、0.2kW、4P、38s
	No.7スートブロワ	B	2	5F	炉室	電動形蒸気噴射式、定置形、蒸気噴射圧力0.7MPa、蒸気消費量4.0t/h 噴射管材質SUS310STP、作動時間1min/回、基、0.2kW、4P、18s
	No.8スートブロワ	B	2	5F	炉室	電動形蒸気噴射式、定置形、蒸気噴射圧力0.7MPa、蒸気消費量4.0t/h 噴射管材質SUS310STP、作動時間1min/回、基、0.2kW、4P、18s
	No.9スートブロワ	B	2	5F	炉室	電動形蒸気噴射式、定置形、蒸気噴射圧力0.7MPa、蒸気消費量4.0t/h 噴射管材質SUS310STP、作動時間1min/回、基、0.2kW、4P、18s
	No.10スートブロワ	B	2	5F	炉室	電動形蒸気噴射式、定置形、蒸気噴射圧力0.7MPa、蒸気消費量4.0t/h 噴射管材質SUS310STP、作動時間1min/回、基、0.2kW、4P、18s
	No.11スートブロワ	B	2	6F	炉室	電動形蒸気噴射式、定置形、蒸気噴射圧力0.7MPa、蒸気消費量4.0t/h 噴射管材質SUS310STP、作動時間1min/回、基、0.2kW、4P、18s
	No.12スートブロワ	B	2	6F	炉室	電動形蒸気噴射式、定置形、蒸気噴射圧力0.7MPa、蒸気消費量4.0t/h 噴射管材質SUS310STP、作動時間1min/回、基、0.2kW、4P、18s
	No.13スートブロワ	B	2	6F	炉室	電動形蒸気噴射式、定置形、蒸気噴射圧力0.7MPa、蒸気消費量2.8t/h 噴射管材質SUS304TP、作動時間1min/回、基、0.2kW、4P、40s
	No.14スートブロワ	B	2	5F	炉室	電動形蒸気噴射式、定置形、蒸気噴射圧力0.7MPa、蒸気消費量2.8t/h 噴射管材質SUS304TP、作動時間1min/回、基、0.2kW、4P、40s
	スートブロワバージ用送風機	B	2	3F	炉室	片吸込ターボ形、185mN/h、2650 Pa、ケーシングSS400 インペラSS400、シャフトS45C
	スートブロワバージ用	B	2	3F	炉室	1.5kW、2P
	No.1ボイラ給水ポンプ	B	2	B1F	ポンプ室	横軸片吸込多段タービン形、34m ³ /h、ケーシングSCPH22FC250 インペラSUS1、シャフトSUS420J2HCメッキ
	No.1ボイラ給水ポンプ 電動機	B	2	B1F	ポンプ室	75kW、2P
	No.2ボイラ給水ポンプ	B	2	B1F	ポンプ室	横軸片吸込多段タービン形、34m ³ /h、ケーシングSCPH22FC250 インペラSUS1、シャフトSUS420J2HCメッキ
	No.2ボイラ給水ポンプ 電動機	B	2	B1F	ポンプ室	75kW、2P
	脱気器	B	1	4F	炉室	蒸気加熱スプレー式、給水タンク一体形、鋼板製円筒縦置形処理水量42.6t/h(脱気器出口にて) 使用圧力最高0.3MPa・常用0.17MPa 入口温度70℃、水温度130℃(脱気器出口にて) 脱気水飽和者量0.03mg/l以下、給水タンク容量2.3m ³ 2mφ×8.2mH、本体SS400、スプレーノズルSCS13
	脱気器用安全弁	B	1		炉室	定規（銘板無し）型式：NS256FY、管径：125×200、のど径：95mm、弁座口の径：116mm、吐出し圧力：0.3MPa、吸下り圧力：0.03MPa、公称 吐出し量：13167kg/h、リフト：23.8mm、弁番号：-、製造番号：04FY125、製造年月：2004年12月
	脱気器用安全弁消音器	B	1	5F	炉室	膨張吸音式、30cB(A)以上、本体Q235(SS400)、吸音材ロックウール
	脱気器給水ポンプ	B	2	B1F	送風機/ 空気圧縮機室	横軸片吸込多段タービン形、49.3m ³ /h、液体温度80℃ ケーシングFC250、インペラFC200、シャフトSUS420J2、脱気器用安全弁：3530min ⁻¹
	脱気器給水ポンプ 電動機	B	2	B1F	送風機/ 空気圧縮機室	22kW、2P
	清濁剤注入装置	B	1	1F	炉室	連続ポンプ注入式 注入ポンプ：可変容量形プランジャポンプ、3台(内1台交互運転) 吐出量0～2.4ℓ/h、吐出圧力4.8MPa、接液部SUS304、0.2kW、4P 薬液タンク：角型、有効400ℓ、貯留日数7日、SUS304、攪拌機0.2kW
	脱酸剤注入装置	B	1	1F	炉室	連続ポンプ注入式 注入ポンプ：可変容量形プランジャポンプ、2台(内1台交互運転) 吐出量0～2.94ℓ/h、吐出圧力1.4MPa、接液部SUS304、0.2kW、4P 薬液タンク：角型、有効400ℓ、貯留日数7日、SUS304、攪拌機0.2kW
	復水処理剤注入装置	B	1	1F	炉室	連続ポンプ注入式 注入ポンプ：可変容量形プランジャポンプ、2台(内1台交互運転) 吐出量0～2.94ℓ/h、吐出圧力1.4MPa、接液部SUS304、0.2kW、4P 薬液タンク：角型、有効400ℓ、貯留日数7日、SUS304、攪拌機0.2kW
	ボイラ水保管剤注入装置	B	1	1F	炉室	連続ポンプ注入式 注入ポンプ：可変容量形プランジャポンプ、1台、吐出量0～10.38ℓ/h吐出圧力0.5MPa、接液部SUS304、0.2kW、4P 薬液タンク：角型、有効100ℓ、SUS304、攪拌機0.2kW、4P
	連続ブロー装置	B	2	1F	炉室	連続手動、現場手動、フロー水量：最大 0.63t/h使用圧力最高 4.57MPa・常用3.3MPa ブロー水温度：入口 241℃・出口 45℃以下、測定項目pH・電気伝導率 型式：非熱交換流型
	ブロータンク	B	1	1F	炉室	円筒立形、使用圧力大気圧、使用温度99℃、容量3m ³ 、1.5mφ、Q235(SS400)
	ブロー水冷却装置	B	1	1F	炉室	水冷式、ブロー水量：最大1.26t/h、ブロー水温度：入口99℃・出口45℃ 伝熱面積371m ² 、900A、2.66mL、胴体SGP、冷却管STB340
	缶水用サンプリングクーラ	B	2	1F	炉室	水冷式、試料採取量60ℓ/h、ブロー水温度：入口241℃・出口45℃以下 測定項目：pH・電気伝導率、冷却水量2.7m ³ /h
	給水用サンプリングクーラ	B	1	B1F	送風機/ 空気圧縮機室	水冷式、試料採取量60ℓ/h 試料温度：入口最高144℃・常用130℃・出口45℃以下測定項目pH・電気伝導率、冷却水量1.27m ³ /h サンプル水圧力：最高 0.3MPa、常用 0.17MPa
	復水用サンプリングクーラ	B	1	B1F	送風機/ 空気圧縮機室	水冷式、試料採取量60ℓ/h 試料温度：入口最高99℃・常用80℃・出口45℃以下測定項目pH・電気伝導率、冷却水量0.7m ³ /h サンプル水圧力：最高 1.0MPa、常用 0.9MPa
	高圧蒸気だめ	B	1	4F	炉室	円筒立形、蒸気圧力最高3.65MPa・常用3.0MPa、蒸気温度最高310℃・常用300℃
	低圧蒸気復水器	A	1	3F	低圧蒸気復水器置場	強制通風式、低騒音形 熱交換機：フィンチューブ式、交換熱量81.9GJ/h、蒸気処理量38.2t/h蒸気圧力：復湯-73.8kPa、冬湯-88.9kPa 蒸気温度：最高120℃・常用67.2℃、復水温度66.0℃空気温度：入口33℃・出口57.2℃ 伝熱面積：37,181.2m ² 、6.6mW×26.72mL、伝熱管STB340E ファンアルミニウム、ファン及び駆動装置：羽根アルミニウム、減速機：駆動式、流量調整方式：回転数制御(VVVF) 最高使用圧力：0.09MPa
	低圧蒸気復水器ファン電動機	A	4	3F	低圧蒸気復水器置場	90kW、6P
	吸気サイレンサ	B	1	3F	低圧蒸気復水器置場	2.8mW×3mL×7.4mH、スプリッター型 敷設境界線以上1.5m以下使用圧力最高47cB(A)以下 騒音：・外側：高減性めっき鋼板、アクリル保付塗装品、内側：高減性めっき鋼板、内部フレーム材亜鉛めっき鋼板 吸音パネル：表面材：高減性めっき鋼板、内部フレーム材亜鉛めっき鋼板、 吸音材(外側)：排水性グラスウール、表面：排水性グラスクロス貼、フローティングウール、吸音材(内部充填材)：グラスウール
	排気復水タンク	B	1	1F	炉室	円筒横形、使用圧力最高90kPa → 0.09Mpa・常用 -0.0738MPa 使用温度：最高120℃・常用67.2℃、容量：有効7m ³ 、1.8mφ×42mL、SUS304
	排気復水ポンプ	B	2	1F	炉室	横軸片吸込渦巻形、42m ³ /h、ケーシングFC250、インペラFC250 シャフトSUS420J2 全行程：36m、回転速度：3510min ⁻¹
	排気復水ポンプ電動機	B	2	3F	炉室	75kW、2P

設備仕様の概略（その3）

設備名称	機器名称	重要度	数量	設置場所		要 目
				階	室名等	
燃焼ガス冷却設備	復水タンク	B	1	1F	炉室	角形、パネルタンク、使用温度最高99℃ 容量有効44t、4.0mW×6.5mL×2.5mH、SUS444
	純水装置	B	1	B1F	ポンプ室	混流式、5m ³ /h、100m/サイクル、20時間連続、4時間再生、原水市水処理水水質電気伝導率5μs/cm以下(25℃において)、イオン交換リシカ2.0ppm以下(SiO2としで)
	亜硫酸ソーダ溶解槽	B	1	B1F	ポンプ室	PVC製、攪拌機付、容量有効50ℓ、0.37mW×0.37mL×0.45mH PVC、攪拌機0.06kW、4P
	亜硫酸ソーダ注入ポンプ	B	2	B1F	ポンプ室	ダイヤフラムポンプ(電磁駆動式)、5m ³ /h、0.5MPa ポンプヘッドPVDF、ダイヤフラムPTFE、OSM、ボールバルブセラミック、19W(単相)
	イオン交換塔	B	1	B1F	ポンプ室	円筒立形、圧力容器、鋼板製溶接構造、0.8mD×2.8mH、SS400 内面、ゴムライニング(3mm厚)、充填材濃イオン交換樹脂265ℓ、稀イオン交換樹脂530ℓ
	塩酸計量槽	B	1	B1F	ポンプ室	円筒立形、FRP製、容量有効90ℓ、貯留容量再生1回分、0.5mD×1.0mH
	ガスシール槽	B	1	B1F	ポンプ室	円筒形、0.25mD×0.75mH
	苛性ソーダ計量槽	B	1	B1F	ポンプ室	円筒立形、FRP製、容量有効192ℓ、貯留容量再生1回分、0.7mD
	純水廃液移送ポンプ	B	2	B1F	ポンプ室	横軸片吸込渦巻形(自吸込)、6m ³ /h、15m、ケーシングSCS13 インベラスSCS13、シャフトSUS304、2.2kW、2P
	混合用ブロウ	B	2	B1F	ポンプ室	ルーツブロウ、0.8m ³ /min、40kPa、ケーシングFC200、ロータFC0500 シャフトFC0500、1.5kW、4P
	純水廃液槽	B	1	B1F	ポンプ室	角形、鉄筋コンクリート造、耐酸剤薬品仕上、27m ³ 有効
	純水装置用 塩酸移送ポンプ	B	2	B1F	ポンプ室	マグネットポンプ、20ℓ/min、ケーシングCFR/TFE、インベラスCFR/TFE シャフトセラミック、電動機直結式、0.75kW、2P
	純水装置用 苛性ソーダ移送ポンプ	B	2	B1F	ポンプ室	マグネットポンプ、20ℓ/min、ケーシングCFR/TFE、インベラスCFR/TFE シャフトセラミック、電動機直結式、0.75kW、2P
	純水タンク	B	1	B1F	ポンプ室	角形、パネルタンク、容量有効44・43m ³ 、3.5mW×7.0mL×2.5mH、SUS444
排ガス処理設備	純水移送ポンプ	B	2	B1F	ポンプ室	横軸片吸込渦巻形、42m ³ /h、50m、ケーシングFC200、インベラスFC200 シャフトSUS420J2
	純水移送ポンプ電動機	B	2	B1F	ポンプ室	3.7kW、2P
	減温塔	B	2	4F	排ガスヤード	二流体噴霧式(並流式)、鋼板溶接構造、処理ガス量25,870m ³ /h(排ガス温度入口220℃以下・出口160℃、温度一定制御) φ3.0m×10mH(直胴部)、有効容積70m ³ 、滞留時間5秒以上(蒸発熱負荷31,460kJ/m ³ h、SS400、主要部板厚6mm以上) ノズルSUS316L、ロータリスクレーパコンベヤ0.75kW・4P、ロータリーバルブ0.4kW・4P 循環水量5.4m ³ /h、ポンプ出力3.3kW
	No.1減温塔用噴霧ノズル	B	2	6F	排ガスヤード	二流体ノズル、330ℓ/h、ノズルチップSUS316L
	No.2減温塔用噴霧ノズル	B	2	6F	排ガスヤード	二流体ノズル、330ℓ/h、ノズルチップSUS317L
	No.3減温塔用噴霧ノズル	B	2	6F	排ガスヤード	二流体ノズル、330ℓ/h、ノズルチップSUS318L
	No.4減温塔用噴霧ノズル	B	2	6F	排ガスヤード	二流体ノズル、330ℓ/h、ノズルチップSUS319L
	減温水ポンプ	B	3	B1F	前処理設備室	立型多段渦巻形、1.25m ³ /h、150m、ケーシングチタン、インベラスチタン、シャフトチタン、3.0kW、2P
	1段目ろ過式集じん器	A	2	4F	排ガスヤード	パルス式、バグフィルタ式、機・気密構造、処理ガス量：30,820m ³ /h 排ガス温度160℃以下、前熱設計温度本体350℃・ろ布250℃(瞬間)ばいじん量入口2.6g/m ³ (乾き基準) ・出口0.01g/m ³ 以下(乾き基準)(O2 12%換算) ろ過速度1m/min、ろ過面積828m ² 、ろ布本数276本 ろ布寸法φ164mm×6,000mL、差圧制御及びタイマ制御、本体Q235、要部板厚4.5mm以上、ろ布：ガラス繊維二重織布 スクリュウコンベヤ0.75kW・4P、ロータリーバルブ0.4kW、ホッパーヒータ2.7kW 集じん灰排出装置ヒータ3.15kW・4P、温風循環送風機5.5kW・4P、温風循環ヒータ2.7kW、制御盤
	排ガス処理用空気圧縮機	B	2	B1F	送風機/ 空気圧縮機室	スクリュウ式、給油式、パッケージ形、6.1m ³ /min、常用0.69MPa 圧縮方式：吸気閉鎖アンロード式、水冷式、3.7kW、2P、除塵部：冷凍式(機体内蔵)
	消石灰サイロ	B	1	4F	炉室	円筒立形下部円錐式、容量有効70t(満員こみ7日分)、Q235(SS400)
	消石灰定量供給装置	B	2	3F	薬品供給ブロウ室	主要部板厚円筒部4.5mm、円錐部6mm、集じん装置、バイブレータ チーフライアー式、2分間切出し形、切出し量30～150kg/h(主要部材質SS400) 切出し制御方式：排ガス入口温度水系及び積算酸化温度による自動制御(攪拌機0.75kW、4P、1台) 切出し機0.4kW、4P
	特殊助剤サイロ	B	1	4F	炉室	円筒立形下部円錐式、容量有効25t(満員こみ7日分)、Q235(SS400)
	特殊助剤定量供給装置	B	4	3F	薬品供給ブロウ室	主要部板厚円筒部4.5mm、円錐部6mm、集じん装置 チーフライアー式、SS400 切出し量1段目ろ過式集じん器3～15kg/h ・2段目ろ過式集じん器 2～10kg/h 切り出し量制御方式：排ガス量による自動制御(攪拌機1.5kW、4P、1台) 切出し機0.4kW、4P
	1段目用薬品供給ブロウ	B	3	3F	薬品供給ブロウ室	ルーツブロウ、180m ³ /h、20kPa、ケーシングFC250、ロータFC0450
	2段目用薬品供給ブロウ	B	3	3F	薬品供給ブロウ室	ルーツブロウ、480m ³ /h、20kPa、ケーシングFC250、ロータFC300
	2段目ろ過式集じん器	A	2	4F	排ガスヤード	パルス式、バグフィルタ式、機密構造、設計処理ガス量：38,460m ³ /h 排ガス温度166℃以下、前熱設計温度本体350℃・ろ布250℃(瞬間)ばいじん量入口3.8g/m ³ (乾き基準) ・出口0.01g/m ³ 以下(乾き基準)(O2 12%換算) ろ過速度1m/min、ろ過面積1,008m ² 、ろ布本数336本ろ布寸法φ164mm×6,000mL、差圧制御及びタイマ制御、本体Q235、ろ布：ガラス繊維二重織布、主要部板厚4.5mm スクリュウコンベヤ1.5kW・4P、ロータリーバルブ0.4kW、バイブレータ0.12kW×4台 ホッパーヒータ3.3kW、集じん灰排出装置ヒータ4.05kW、温風循環送風機3.7kW・4P、温風循環ヒータ2.7kW
	脱硝反応塔	B	2	4F	排ガスヤード	角型、鋼板溶接、処理ガス量35,420m ³ /h、処理ガス温度210℃室素酸化物濃度入口150ppm(乾き基準)(O2 12%換算) ・出口30ppm(乾き基準)(O2 12%換算)・除去率80%以上 使用薬品アンモニアガス、Q235(SS400)、リークアンモニア濃度5ppm以下
	脱硝触媒	A	2	4F	排ガスヤード	ハニカム形、729m ³ /基、排ガス温度210℃、T02-V205
	ガス再加热器	B	2	6F	排ガスヤード	ヘアチューブ式、入口151℃・出口210℃、風量38,460m ³ /h 蒸気圧力常用2.85MPa、蒸気温度常用295℃、蒸気使用量1.44t/h 伝熱面積169m ² 、ケーシングSS400、伝熱管STB340 最高使用圧力3.65MPa
	アンモニア注入器	B	2	6F	排ガスヤード	多点同時注入式、470m ³ /h、OCr18Ni9(SUS304)
	アンモニアポンプ(アンモニア供給設備)	B	1	別棟	アンモニアポンプ室	ガスポンベ式、100%アンモニアガス、500kg/本×3本(満員こみ2分7日分以上)
	アンモニア希釈用空気送風機	B	2	4F	排ガスヤード	片吸込ターボ形、1,200m ³ /h、3.390kPa、ケーシングSS400、インベラスSS400
	アンモニア希釈用空気送風機電動機	B	2	4F	排ガスヤード	3.7kW、4P
	バーゾ用空気加熱器	B	2	4F	排ガスヤード	フィンチューブ式、入口20℃・出口180℃、風量750m ³ /h 蒸気圧力常用2.85MPa、蒸気温度常用295℃、蒸気使用量0.03t/h ケーシングSS400、加熱管STB340、フィンC1220R 最高使用圧力3.65MPa 最高使用温度310℃
	無触媒脱硝装置 1号、2号	B	2		排ガスヤード	炉内直接噴霧、蒸気噴射式、アンモニア圧力0.18MPa、蒸気圧力0.1MPa

設備仕様の概略（その4）

設備名称	機器名称	重要度	数量	設置場所		要 目	
				階	室名等		
余熱利用設備	蒸気タービン	B	1	1F	蒸気タービン発電機室	衝動機油気復水タービン、4,900kW(発電機端にて) 回転数 タービン7,490min ⁻¹ 、発電機1,800min ⁻¹ 主蒸気圧力2.85MPa、主蒸気温度295℃(主蒸気止め弁入口にて) 油圧力0.75MPa、排気圧力<71.9kPa、油圧力制御方式/外部制御 排気温度68.7℃、蒸気消費量33.6t/h(定格出力時) 車室SCPH2・SM400B、車輪3%Cr-Mo鋼、鋼 SUS410J1	
	调速装置	B	1	1F	蒸気タービン発電機室	自己作動式、電子油圧式	
	ターニング装置	B	1	1F	蒸気タービン発電機室	電動式、自動巻揚、2.2kW、4P	
	減速装置	B	1	1F	蒸気タービン発電機室	1段減速、やまば衝車式、回転数：ピニオン7,490min ⁻¹ 、ホイール1,800min ⁻¹ 減速比1/4.16、強制潤滑式、ケーシングFC250、ピニオンSCNM420、ホイールSCM420、シャフトSCM440	
	潤滑装置	B	1	1F	蒸気タービン発電機室	強制潤滑式、主油ポンプ、ギヤポンプ、512ℓ/min、1.1MPa、減速機軸端駆動式、JIS追加タービン油、補助油ポンプ、ギヤポンプ、480ℓ/min、1.1MPa、1,180min ⁻¹ 電動機直結式、油圧検出による自動・手動、18.5kW、6P 非常用油ポンプ、ギヤポンプ、6.0m ³ /h、0.1MPa、電動機直結式、0.75kW(DC100V) 油タンク角型、鋼板溶接製、油タンクガス吐出器0.4kW-2P、加熱ヒータ3kW 油冷却器板型、シェルアンドチューブ、冷却水量30m ³ /h、冷却水温度入口32℃、油こし器板式、2基(潤滑油用、制御油用)、こし網金網200メッシュ/ペーパー20μm	
	蒸気タービン调速機	B	1	1F	蒸気タービン発電機室	1段減速、やまば衝車式、回転数：ピニオン7,490min ⁻¹ 、ホイール1,800min ⁻¹ 、減速比1/4.16、強制潤滑式、ケーシングFC250、ピニオンSCNM420、ホイールSCM420、シャフトSCM440 定格(銘板等)し型式：1段減速、やまば衝車式、減速比1/4.16、材質：ケーシング FC250、ピニオン SCNM420、ホイール SCM420、シャフトSCM440	
	蒸気タービン潤滑装置	B	2	1F	蒸気タービン発電機室	強制潤滑式、主油ポンプ、ギヤポンプ、512ℓ/min、1.1MPa、減速機軸端駆動式、JIS追加タービン油、補助油ポンプ、ギヤポンプ、480ℓ/min、1.1MPa、1,180min ⁻¹ 電動機直結式、油圧検出による自動・手動、18.5kW、6P、非常用油ポンプ、ギヤポンプ、6.0m ³ /h、0.1MPa、電動機直結式、0.75kW(DC100V)、定格(銘板等)し型式：HASE、強制潤滑式、主油ポンプ：ギヤポンプ減速機軸端駆動式、512ℓ/min、1.1MPa、補助油ポンプ：ギヤポンプ電動機直結式、480ℓ/min、1.1MPa、18.5kW-6P、非常用油ポンプ：ギヤポンプ電動機直結式、6.0m ³ /h、0.1MPa、0.75kW(DC100V)、油タンク：角型、鋼板溶接製、油タンクガス吐出器0.4kW-2P、加熱ヒータ3kW、油冷却器：板型、シェルアンドチューブ、冷却水量30m ³ /h、冷却水温度：入口32℃、油こし器：板式、2基(潤滑油用、制御油用)、こし網金網200メッシュ/ペーパー20μm、油圧調整弁：パネ式調整弁、3台(潤滑油用1台、制御油用2台)	
	グラント蒸気復水器	B	1	1F	蒸気タービン発電機室	シェルアンドチューブ式、エキゾスタ付、処理量蒸気31kg/h(空気24kg/h) 冷却水機器冷却水、冷却水量1.0m ³ /h、冷却水温度入口32℃・出口34℃ エキゾスタ電動ファン式、1.5kW、2P、冷却面積：3m ²	
	タービンドレン回収ポンプ	B	2	1F	蒸気タービン発電機室	横軸片吸込渦巻形、6m ³ /h、25m、ケーシングFC250、インペラFC250 インペラボスSUS420J2、電動機直結式	
	タービンドレン回収ポンプ電動機	B	2	1F	蒸気タービン発電機室	1.5kW、2P	
通風設備	タービンバイパス装置	B	1	3F	低圧蒸気復水器置場	蒸気変換弁式、35.92t/h、蒸気圧力入口2.85MPa・出口52kPa 蒸気温度入口295℃・出口100℃、注水量4.67t/h	
	タービンバイパス消音器	B	1	3F	低圧蒸気復水器置場	膨張吸音式、鋼板溶接構造、30℃(BA)以上、本体Q235(S400)吸音材SUS304ワール	
	発電室用天井走行クレーン	B	1	1F	蒸気タービン発電機室	電動式、天井走行ホイストクレーン、径間7.0m、昇降7.466m、横行距離6.2m 走行距離12.925m、定格荷重4.9t 巻上装置：4.98m/min、5.5kW、4P、横行装置1.5m/min、0.75kW、4P 走行装置：19.8m/min、0.75kW×2台、4P、操作方式ペンダントスイッチ方式	
	押込送風機	A	2	4F	送風機室	片吸込ターボ形、24,200m ³ /h、3,250Pa、ケーシングSS400 インペラSS400、シャフトS45C、電動機直結式	
	押込送風機 電動機	A	2	4F	送風機室	45kW、4P	
	二次送風機	A	2	4F	送風機室	片吸込ターボ形、9,400m ³ /h、6,000Pa、ケーシングSS400 インペラSS400、シャフトS45C、電動機直結式	
	二次送風機 電動機	A	2	4F	送風機室	30kW、2P	
	燃焼用空気予熱器	B	2	2F	炉室	バタチューブ式、蒸気式、交換熱量2,977MJ/h 空気温度入口20℃・出口200℃、風量1,261m ³ /h 蒸気圧力常用2.85MPa、蒸気温度常用295℃、蒸気使用量1.5t/h(伝熱面積777m ² 、ケーシングSS400、伝熱管STB340) 温度制御方式/バイパス風量調整ダンパによる自動 最高使用圧力：3.65MPa、最高使用温度310℃	
	風道	2	2~6F	炉室等	鋼板溶接製、12m/sec以下、SS400、主要部板厚32mm(外壁表面温度70℃以下)		
	風道ダンパ	2	2・4F	炉室及び排ガスヤード	バタフライ形、密閉形、SS400、電動式/空気圧式、手動式		
	煙道	2	1~6F	炉室等	鋼板溶接製、15m/sec以下、SS400、主要部板厚4.5mm 外壁表面温度70℃以下		
	煙道ダンパ	2	3・5F	炉室等	バタフライ形、ルーバー形、SS400、電動式、電油式		
	誘引通風機	A	2	1F	誘引通風機室	片吸込ターボ形、46,100m ³ /h、8,070Pa、流体温度205℃、ケーシングSS400 インペラHT590、シャフトS45C、電動機直結式 軸受形式：軸がり軸受(水冷式、油冷式) 風量調節方式/回転数制御(VVVF)、自動ダンパ制御	
	誘引通風機 電動機	A	2	1F	誘引通風機室	29kW、6P	
	白煙防止用空気予熱器	A	2	4F	排ガスヤード	フィンチューブ式、蒸気式、交換熱量4,830MJ/h 空気温度入口20℃・出口200℃、風量20,400m ³ /h 蒸気圧力常用2.85MPa、蒸気温度常用295℃、蒸気使用量3.49t/h(伝熱面積332m ² 、ケーシングSS400、伝熱管STB340、フィンC1220R) ケーシング板厚4.5mm、伝熱管厚さ2.0mm、温度制御方式自動ダンパ制御 最高使用圧力：3.65MPa、最高使用温度310℃	
	白煙防止用押込送風機	B	2	3F	白煙防止用送風機室	片吸込ターボ形、20,400m ³ /h、2,59kPa、本体SS400、羽根車SS400 軸S45C、電動機直結式、風量調節方式自動ダンパ制御	
	白煙防止用押込送風機 電動機	B	2	3F	白煙防止用送風機室	30kW、4P	
	煙突	B	1			鉄骨製外筒、鋼製内筒形2本、GL+59m	
	灰出し設備	落下灰搬出装置	A	2	1F	炉室	ドラッグチェーンコンベヤ、0.3t/h、0.4mW×11.1mL、SS400、チェーン駆動式0.75kW、4P
		NO.1焼却灰搬出装置	B	2	1F	炉室	ダブルフラップダンパ式、1.1t/h、SS400、1.6mW×1.2mL×3.05mH ケーシングSS400、ダンパ羽根SS400、油圧シリンダ駆動式
		NO.2焼却灰搬出装置	B	2	1F	炉室	スクレーパコンベヤ、1.1t/h、1.3mW×5.8mL、ケーシングSS400 スクレーパSS400、チェーン駆動式、0.4kW、4P
		NO.1焼却灰振分装置	B	2	B1F	前処理設備室	ダンパ式、1.1t/h、シュート開口部0.65mW×1.05mL、SS400、電動シリンダ駆動式0.4kW、4P
NO.1焼却灰搬送装置		B	2	B1F	前処理設備室	スクレーパコンベヤ、2.2t/h、0.65m×1.05mL×5.6mH、SS400、チェーン駆動式、2.2kW、4P	
NO.2焼却灰搬送装置		B	2	B1F	前処理設備室	連続バケットコンベヤ、2.2t/h、0.78mW×25.3mL×12.4mH、SS400、チェーン駆動式、2.2kW、4P	
磁選機		B	2	1F	前処理設備室	ドラム永磁式、2.2t/h、0.965mW×1.414mL×1.725mH ケーシングSUS304、SS400、チェーン駆動式、0.75kW、4P	
振動機		B	2	1F	前処理設備室	振動式スリットスクリーン付、2.2t/h、0.45mW×6.9mL、SS400、Vベルト駆動式3.7kW、4P	
NO.2焼却灰振分装置		B	2	2F	前処理設備室	ダンパ式、2.2t/h、シュート開口部0.5m×1.17m、SS400、電動シリンダ駆動式0.13kW、4P	
不燃物排出装置		A	1	B1F	前処理設備室	溜式、スクレーパコンベヤ、0.2t/h、0.9mW×10.8mL×3.3mH、SS400、チェーン駆動式、1.5kW、4P、スラム除去装置スプレーノズル式	
磁性物排出装置		A	1	B1F	前処理設備室	溜式、スクレーパコンベヤ、0.4t/h、0.8mW×10.4mL×3.1mH、SS400、チェーン駆動式、0.75kW、4P、スラム除去装置スプレーノズル式	
灰バイパス搬送装置		A	1	1F	前処理設備室	スクレーパコンベヤ、3.4t/h、0.6mW×4.2mL、SS400、チェーン駆動式、1.5kW、4P	
灰バイパス搬出装置		A	1	1F	前処理設備室	溜式、スクレーパコンベヤ、3.4t/h、0.8mW×8.2mL×3.3mH、SS400、チェーン駆動式、0.75kW、4P、スラム除去装置スプレーノズル式	
エコノマイザダスト搬送装置		A	2	4F	排ガスヤード(エコ下)	スクリューコンベヤ、0.2t/h、0.24mD×3.5mL、SS400、チェーン駆動式0.4kW、4P	
エコノマイザダスト振分装置		A	2	4F	排ガスヤード(エコ下)	ダンパ式、シュート開口部0.25mW×0.25mL、SS400、電動シリンダ駆動式0.4kW、4P	
1段目集じんダスト搬送装置		A	2	4F	排ガスヤード	ケースコンベヤ、0.2t/h、0.24mW×11.7m×3.1mH、SS400、チェーン駆動式、1.5kW、4P	
1段目集じんダスト振分装置		A	2	4F	排ガスヤード(エコ下)	ダンパ式、シュート開口部0.244mW×0.4mL、SS400、電動シリンダ駆動式0.4kW、4P	
NO.1-1段目集じんダスト搬送装置B		A	1	4F	排ガスヤード	ケースコンベヤ、0.2t/h、0.24mW×28.5m×0.9mH、SS400、チェーン駆動式1.5kW、4P	
NO.2-1段目集じんダスト搬送装置		A	1	4F	排ガスヤード	ケースコンベヤ、0.2t/h、0.24mW×13.4m×0.9mH、SS400、チェーン駆動式1.5kW、4P	
NO.3-1段目集じんダスト搬送装置	A	1	4F	排ガスヤード	ケースコンベヤ、0.2t/h、0.24mW×14.8m×2.8mH、SS400、チェーン駆動式1.5kW、4P		
NO.1異物除去装置	A	1	4F	集じん灰処理装置室	スクリュースクリーン式、0.4t/h、SS400、2.2kW、4P		
NO.2異物除去装置	A	1	4F	集じん灰処理装置室	スクリュースクリーン式、0.4t/h、SS400、2.2kW、4P		

設備仕様の概略（その5）

設備名称	機器名称	重要度	数量	設置場所		要 目
				階	室名等	
灰出し設備	No.4-1段目集じんダスト搬送装置	A	1	3F	排ガスヤード(I-J/9-11)	ケースコンベヤ、0.4t/h、0.24mW、11.0mL、3.6mH、SS400、チェーン駆動、1.5kW、4P 定格（銘板等し）型式：NFV160T、ケースコンベヤ、0.2t/h、減速機：住友 CHM2-6145-87、1.5kW-4P 440V
	2段目集じんダスト搬送装置	A	2	3F	排ガスヤード	定格（銘板等し）型式：NFV160T、ケースコンベヤ、0.4t/h、減速機：住友 CHM2-6145-87、1.5kW-4P 440V
	No.1-2段目集じんダスト搬送装置	A	1	3F	排ガスヤード(E-F/2-6)	ケースコンベヤ、0.8t/h、0.24mW、23.4mL、2.7mH、SS400、チェーン駆動、1.5kW、4P
	No.2-2段目集じんダスト搬送装置	A	1	3F	排ガスヤード(D-K/5-6)	ケースコンベヤ、0.8t/h、0.24mW、25.8mL、0.9mH、SS400、チェーン駆動、1.5kW、4P
	No.3-2段目集じんダスト搬送装置	A	1	3F	排ガスヤード(J-K/5-8)	ケースコンベヤ、0.8t/h、0.24mW、12.9mL、0.9mH、SS400、チェーン駆動、1.5kW、4P
	No.4-2段目集じんダスト搬送装置	A	1	3F	排ガスヤード(I-J-K/7-10)	ケースコンベヤ、0.8t/h、0.24mW、17.5mL、2.8mH、SS400、チェーン駆動、1.5kW、4P
	No.5-2段目集じんダスト搬送装置	A	1	3F	排ガスヤード(J-K/9-11)	ケースコンベヤ、0.8t/h、0.24mW、10.1mL、3.6mH、SS400、チェーン駆動、1.5kW、4P
	環境集じんダスト搬送装置	B	1	1F	灰消融設備室	ケースコンベヤ、0.8t/h、0.24mW4.8m×0.9mHSS400チェーン駆動式 1.5kW、4P
	集じん灰貯留槽	B	2	3F	集じん灰処理装置室	円筒立形、11m、2.0mD×4.0mH、SS400、加温用ヒータ5.28kW
	集じん灰定量供給装置	B	2	3F	集じん灰処理装置室	パイプレータ0.25kW2P(2台) サークルフィーダ式、0.25t/h、SS400、潤滑用3.7kW、4P、加温用ヒータ2.87kW、4P 供給用0.75kW、4P
	集じん灰搬送装置	B	1	3F	集じん灰処理装置室	スクリュコンベヤ、0.5t/h、SS400、0.4kW、4P
	クッションホッパ	B	1	2F	集じん灰処理装置室	角形、2.0m、G235(SS400)、0.5t/h、3.9kW、パイプレータ0.25kW、2P(2台) スクリュフィーダ式、0.5t/h、SS400、0.4kW、4P
	選別機	B	2	2F	集じん灰処理装置室	2輪バドル式、0.5t/h、本体SS400、スクリュSS400+硬化肉盛 バドルSS400+超硬合金、37kW、6P、パイプレータ0.075kW
	養生コンベヤ	B	2	1F	集じん灰処理装置室	ベルトコンベヤ、0.7t/h、トラフSS400、ベルト合成ゴム、0.55kW、4P 直線昇降装置形式、電気加熱式、ヒータ容量4.5kW
	キレート剤貯留槽	B	1	1F	集じん灰処理装置室	円筒立形、5m、2.0mD×2.4mH、ポリエチレン
	混合灰田キレート剤注入ポンプ	B	2	1F	集じん灰処理装置室	ダイヤフラムポンプ、0.56ℓ/min、0.5MPa、ポンプヘッドPVC、0.2kW、4P
	脱塩灰田キレート剤注入ポンプ	B	2	1F	集じん灰処理装置室	ダイヤフラムポンプ、0.05ℓ/min、0.5MPa、ポンプヘッドPVC、0.2kW、4P
	加濃水貯留槽	B	1	1F	集じん灰処理装置室	円筒立形、0.2m、0.7mD×0.9mH、ポリエチレン
	加濃水注入ポンプ	B	2	1F	集じん灰処理装置室	ダイヤフラムポンプ、2.9ℓ/min、0.5MPa、ポンプヘッドPVC、0.4kW、4P
	灰ビット	B	1	B2～B1F	灰ビット部	鉄粉コンクリート造、100ml最大排出量の3日分、1t/ml 3.3mW×4.2mL×10.95mH
	不燃物ビット	B	1	B2～B1F	灰ビット部	鉄粉コンクリート造、11ml最大排出量の3日分、1t/ml 3.3mW×2.1mL×6.55mH
	磁性物ビット	B	1	B2～B1F	灰ビット部	鉄粉コンクリート造、11ml最大排出量の3日分、0.4t/ml 3.3mW×2.0mL×6.55mH
	集じん灰処理物ビット	B	1	B2～B1F	灰ビット部	鉄粉コンクリート造、34m、1t/ml 3.3mW×2.0mL×5.5mH
	積出しクレーン	A	2	2F	灰ビット等上部	油圧開閉式、1/クレーン天井走行クレーン、径間：2.7mW、揚程：13.9m、走行距離30.44m、吊上荷重4.35t、定格荷重2.25t 1/バケット油圧開閉式、クラムシエル形、防水形、容量：1.5mL本体：SS400、爪：SCM440、ワイヤロープ4本吊 巻上装置1台：速度40m/min、3.7kW、6P、プリーキ形式：電磁式速度制御方式VVVF 開閉装置1台：速度調節・戻り1秒、11kW、4P プリーキ形式電磁ディスク式（電動機内蔵）、速度制御方式VVVF稼働率33%以下、搬出のみ、 給電方式走行キャブタイカケーブルカーテンハンガー方式、開閉キャブタイカケーブルリール巻方式 搬出量計量装置4点ロードセル式
	灰積出し機	B	1	B1F	灰ビット部	コンクリート舗装、灰積出し出入口扉（ステンレス製電動シャッター） ロードセル式（4点支持）、ビット型、最大容量：25t、最小目盛：20kg
	搬出用計量機	B	1	B1F	灰ビット部	積出し装置1台：3mW×9mL、表示内蔵、デジタル表示 開閉装置1台：角形、角形形、開閉装置1台、開口部：3.7mW×2.3mL G235(SS400)、主要部板厚：4mm以上
	搬出ホッパ	B	1	B1F	灰ビット部	角形、FRP製、250t
給水設備	市水受水槽	B	1	別棟	別棟	角形、FRP製、250t
	生活系貯水槽	B	1	B1F	生活系貯水槽室	角形、FRP製、3mL有効
	プラント系貯水槽	B	1	B1F	プラント系貯水槽室	角形、鉄筋コンクリート造、507mL有効
	機器冷却水槽	B	1	B1F	機器冷却水槽室	角形、鉄筋コンクリート造、211mL有効
	再利用水槽	B	1	B1F	再利用水槽室	角形、鉄筋コンクリート造、内蔵工ボキシ樹脂仕上、39mL有効
	洗車水槽	B	1	別棟	排水処理設備水槽スペース	角形、鉄筋コンクリート造、60mL有効
	洗車排水槽	B	1	別棟	排水処理設備水槽スペース	角形、鉄筋コンクリート造、2mL有効
	雨水貯留槽	B	1	別棟	別棟	角形、鉄筋コンクリート造、20m3有効
	プラント系高梁水槽	B	1	5F	高梁水槽置換室	角形、ハネルタンク、有効1m、1mW×1mL×1.5mH、FRP
	機器冷却高梁水槽	B	1	5F	高梁水槽置換室	角形、ハネルタンク、有効4.2m、5mW×5mL×2.5mH、FRP
	再利用高梁水槽	B	1	5F	高梁水槽置換室	角形、ハネルタンク、有効7m、2mW×2mL×2.5mH、FRP
	減温水槽	B	1	B1F	前処理設備室	角形、ハネルタンク、有効2m、1mW×2mL×1.5mH、FRP
	生活用水加圧給水ユニット	B	1	B1F	生活系貯水槽室	加圧給水ユニット、18mL/h、50m、SUS304、SUS304、3.7kW、2P
	生活系貯水槽送水ポンプ	B	2	B1F	生活系貯水槽室	横軸片吸込渦巻形、25mL/h、20m、ケーシングSCS13、インペラSCS13 シャフトSUS304、電動機直結式、3.7kW、2P
	リサイクルプラザ送水ポンプ	B	1	別棟	別棟ポンプ室	加圧給水ユニット、14m3/h、26m、ケーシングSUS304、インペラSUS304、メカニカルシール、電動機直結式、AC200V、1.1kW、2P
	プラント用水揚水ポンプ	B	2	B1F	ポンプ室	横軸片吸込渦巻形、3mL/h、45m、ケーシングFC200、インペラFC200 シャフトSUS420J2、電動機直結式、2.2kW、2P
	プラント用水送水ポンプ	B	2	B1F	ポンプ室	横軸片吸込渦巻形、3mL/h、45m、ケーシングFC200、インペラFC200 シャフトSUS420J2、電動機直結式、0.75kW、4P
	機器冷却水揚水ポンプ	B	2	B1F	送風機/空気圧縮機室	横軸片吸込渦巻形、565mL/h、50m、ケーシングFC200、インペラCAC402(BC2) シャフトSCM440、電動機直結式、110kW、4P
	再利用水揚水ポンプ	B	2	B1F	排水処理設備室	横軸片吸込渦巻形、4mL/h、45m、ケーシングSCS13、インペラSCS13 シャフトSUS304、電動機直結式、3.7kW、2P
	洗車水ポンプ	B	2	別棟	別棟ポンプ室	横軸片吸込渦巻形、9mL/h、32m、ケーシングFC200、インペラFC200 シャフトSUS420J2、電動機直結式、AC200V、2.2kW、2P
	純水装置送水ポンプ	B	2	B1F	ポンプ室	横軸片吸込渦巻形、6mL/h、40m、ケーシングFC200、インペラFC200 シャフトSUS420J2、電動機直結式、3.7kW、2P
	放水銃ポンプ	B	1	B1F	ポンプ室	横軸片吸込渦巻形、45mL/h、58m、ケーシングFC250、インペラFC250 シャフトSUS420J2、電動機直結式、15kW、2P
	消火栓ポンプ	B	1	B1F	ポンプ室	横軸片吸込渦巻形、1,820ℓ/min、90m、FC200、CAC406、SUS403、 45kW、4P
	散水ポンプ	B	1	B1F	ポンプ室	加圧給水ユニット、3.6mL/h、40m、SUS304、SUS304、SUS304、1.1kW、2P
	洗車排水ポンプ	B	2	別棟	別棟ポンプ室	水中汚水ポンプ、脱着装置付、6mL/h、20m、ケーシングFC200、インペラFC200 シャフトSUS420J2、AC200、5.5kW、4P
	機器冷却水冷却塔	B	1	6F	冷却塔置換	強制通風式、超低騒音形、冷却能力3285kW、処理能力565mL/h冷却水温度入口37℃・出口32℃、本体FRP、充填材PVC ファン及び駆動装置（3台）軸流式、7.5kW、4P
	冷却水薬注器	B	1	B1F	送風機/空気圧縮機室	ポンプ注入式、薬注ポンプ1台：ダイヤフラムポンプ、最大1.8ℓ/h、0.7MPa、接液部PVC/PTFE、電磁駆動方式 薬液貯槽：角形、有効100ℓ、PVC、100V×15W

設備仕様の概略（その6）

設備名称	機器名称	重要度	数量	設置場所		要 目
				階	室名等	
排水処理設備	ごみビット汚水貯留槽	B	1	B2F	ごみビット汚水処理室下	角形、鉄筋コンクリート造、内面エポキシ樹脂仕上、24m ³ 有効
	ごみビット汚水移送ポンプ	B	1	B2F	ごみビット汚水処理室下	水中汚水ポンプ、脱着装置付、2m ³ /h、30m、ケーシングSCS14 インベラSCS14、シャフトSUS316、3.7kW、2P
	ごみ水ろ過器	B	1	B1F	ごみビット汚水処理室	オートストレープ、2m ³ /h、本体SUS304、スクリーンSUS304
	ろ液貯留槽	B	1	B2F	ごみビット汚水処理室下	角形、ハネルタンク、容量有効2m ³ 、1mW×1.5mL×2.0mH、FRP
	ろ液噴霧ポンプ	B	2	B2F	ごみビット汚水処理室下	一輪軸心バルブポンプ、1m ³ /h、65m、ケーシングSCS13、ロータSUS304 スチータNER、Vバルブ駆動式、0.75kW、4P
	ろ液噴霧器	B	2	3F	炉室	二流体噴霧式、1.0m ³ /h、噴霧圧力0.3MPa、ノズルSUS316 ノズルチップSUS316OS、空気圧シリンダ駆動
	灰汚水沈殿槽	B	1	B2F	汚水排水 ポンプ室下	角形、鉄筋コンクリート造、8m ³ 有効
	灰汚水槽	B	1	B2F	汚水排水 ポンプ室下	角形、鉄筋コンクリート造、67m ³ 有効
	灰汚水排水ポンプ	B	1	B2F	汚水排水 ポンプ室下	水中汚水ポンプ、脱着装置付、1.0m ³ /h、20m、FCC250、SUS304 2.6kW、2P
	有機系スクリーン	B	1	B1F	排水処理設備室	自動スクリーン、45m ³ /h、スクリーン目開き2.0mm、SUS304、0.025kW、4P 流量計付
	有機系原水槽	B	1	B1F	排水処理設備室	角形、鉄筋コンクリート造内面エポキシ樹脂仕上、有効57m ³ 散気管・レベル計・pH計付
	有機系原水ポンプ	B	2	B1F	排水処理設備室下	水中汚水ポンプ、脱着装置付、4m ³ /h、10m、ケーシングFC200、インベラFC200 シャフトSUS420J2、0.75 0.4kW、2P
	有機系計量槽	B	1	B1F	排水処理設備室	Vノッチ水位調整式、0~10m ³ /h、FRP
	有機系中和槽	B	1	B1F	排水処理設備室	角形、縦板型内面FRPライニング、有効0.9m ³ 、攪拌機0.2kW、4P
	生物処理水槽	B	1	B1F	排水処理設備室下	角形、鉄筋コンクリート造、内面エポキシ樹脂仕上、BOD酸化 硝化槽有効3.9m ³ 、脱氮槽有効2.3m ³ /h、再曝気槽有効1.5m ³ 接触材・散気管・逆洗管・消泡装置付、脱窒槽攪拌機1.5kW、4P、pH計
	有機系沈殿槽	B	1	B1F	排水処理設備室	円筒立形下部円錐式、鉄筋コンクリート造、内面エポキシ樹脂仕上 有効1.9m ³ 、攪拌機0.4kW、4P、センターコーン越流堰付
	有機系中間槽	B	1	B1F	排水処理設備室	角形、鉄筋コンクリート造内面エポキシ樹脂仕上、有効11m ³ 散気管・レベル計付
	有機系処理水移送ポンプ	B	2	B1F	排水処理設備室下	水中汚水ポンプ、脱着装置付、4m ³ /h、10m、ケーシングFC200、インベラFC200 シャフトSUS420J2、0.75kW、2P
	有機系凝集汚泥引抜ポンプ	B	2	B1F	排水処理設備室	一輪軸心バルブポンプ、0.6m ³ /h、20m、ケーシングFC200、ロータSUS304+HC スチータ合成ゴム、0.4kW、4P
	消泡ポンプ	B	2	B1F	排水処理設備室下	水中汚水ポンプ、脱着装置付、2.4m ³ /h、5m、ケーシングFC200、インベラFC200 シャフトSUS420J2、0.4kW、2P
	曝気ブロウ	B	2	B1F	ブロウ室	ルーツブロウ、2.6m ³ /min、49.0kPa、ケーシングFC200、ロータFC200 シャフトS45C、5.5kW、2P
	無機系スクリーン	B	1	B1F	排水処理設備室	自動スクリーン、2.3m ³ /h、スクリーン目開き2.0mm、SUS304、0.025kW、4P 流量計付
	無機系原水槽	B	1	B1F	排水処理設備室	角形、鉄筋コンクリート造、内面エポキシ樹脂仕上、有効106m ³ 散気管・レベル計・pH計付
	無機系計量槽	B	1	B1F	排水処理設備室	Vノッチ水位調整式、0~10m ³ /h、FRP
	無機系原水ポンプ	B	2	B1F	排水処理設備室下	水中汚水ポンプ、脱着装置付、5.4 4m ³ /h、10m、ケーシングFC200、インベラFC200 シャフトSUS420J2、0.75kW、2P
	反応槽	B	1	B1F	排水処理設備室排水処理設備室下	第1室角形、縦板型内面FRPライニング、1.6m ³ 、攪拌機0.4kW、4P、pH計付 第2室角形、縦板型内面FRPライニング、1.6m ³ 、攪拌機0.4kW、4P、pH計付 第3室角形、鉄筋コンクリート造（内面ビニルエステル樹脂仕上）、1.8m ³ 、攪拌機0.4kW、4P、pH計付
	無機系沈殿槽	B	1	B1F	排水処理設備室	円筒立形下部円錐式、鉄筋コンクリート造、内面エポキシ樹脂仕上 攪拌機付、有効2.6m ³ 、0.4kW、4P、センターコーン越流堰付
	無機系中和槽	B	1	B1F	排水処理設備室	角形、鉄筋コンクリート造、内面ビニルエステル樹脂仕上、有効1.5m ³ 攪拌機0.4kW、4P、pH計付
	ろ過塔送水槽	B	1	B1F	排水処理設備室	角形、鉄筋コンクリート造、内面エポキシ樹脂仕上、有効8.6m ³ 、レベル計付
	膜処理送水槽	B	1	B1F	排水処理設備室	角形、鉄筋コンクリート造、内面エポキシ樹脂仕上、有効17m ³ 、レベル計付
	処理水槽	B	1	B1F	排水処理設備室	角形、鉄筋コンクリート造、内面エポキシ樹脂仕上、有効9.2m ³ 、レベル計付
	汚泥濃縮槽	B	1	B1F	排水処理設備室	流量計付 円筒立形下部円錐式、鉄筋コンクリート造、内面エポキシ樹脂仕上 攪拌機付、有効9.0m ³ 、0.4kW、4P、センターコーン越流堰付
	ろ過塔送水ポンプ	B	2	B1F	排水処理設備室下	水中汚水ポンプ、脱着装置付、5.4m ³ /h、20m、ケーシングFC200、インベラFC200 シャフトSUS420J2、1.5kW、2P
	膜処理原水送水ポンプ	B	2	B1F	排水処理設備室下	水中汚水ポンプ、脱着装置付、4.2m ³ /h、15m、ケーシングFC200、インベラFC200 シャフトSUS420J2、5.5kW、4P
	処理水移送ポンプ	B	2	B1F	排水処理設備室下	水中汚水ポンプ、5.4m ³ /h、30m、ケーシングFC200、インベラFC200 シャフトSUS304、3.7kW、2P、自動弁2基、流量計付
	無機系凝集汚泥引抜ポンプ	B	2	B1F	排水処理設備室	水中汚水ポンプ、0.6m ³ /h、20m、ケーシングFC200、ロータSUS304+HC スチータ合成ゴム、0.4kW、4P
	濃縮汚泥移送ポンプ	B	2	B1F	排水処理設備室	水中汚水ポンプ、0.6m ³ /h、20m、ケーシングFC200、ロータSUS304+HC スチータ合成ゴム、0.4kW、4P、流量計付
	砂ろ過塔	B	2	B1F	排水処理設備室	圧力式、急速ろ過、5m ³ /h、ろ過速度8m/h、SS400内面ライニング 充填材ろ過砂、アンスラサイト、自動弁・差圧計付
	活性炭吸着塔	B	2	B1F	排水処理設備室	圧力式、急速ろ過、5m ³ /h、ろ過速度5m/h、SS400内面ライニング 充填材活性炭、自動弁・差圧計付
	攪拌ブロウ	B	2	B1F	ブロウ室	ルーツブロウ、2.6m ³ /min、49.0kPa、ケーシングFC200、インベラFC200 シャフトS45C、5.5kW、2P
	逆洗ブロウ	B	1	B1F	ブロウ室	ルーツブロウ、1.0m ³ /min、29.4kPa、ケーシングFC200、インベラFC200 シャフトS45C、1.5kW、4P
	排気ファン	B	2	B1F	排水処理設備室	多翼式ファン、2.3m ³ /min、294Pa、1.880min、ケーシングFRP、インベラFC200 FRP、シャフトS35C、0.75kW、4P
	液体キレート溶解槽	B	1	B1F	排水処理設備室	円筒立形、液体キレート、有効0.3m ³ 、FRP、攪拌機0.1kW、4P レベル計・自動弁付
	塩酸貯槽	B	1	B1F	排水処理設備室	円筒立形、35%塩酸、有効4m ³ 、FRP、レベル計・ガスクラバー・自動弁付
	苛性ソーダ貯槽	B	1	B1F	排水処理設備室	円筒立形、24%苛性ソーダ、有効4m ³ 、FRP、レベル計付
	凝集剤貯槽	B	1	B1F	排水処理設備室	円筒立形、38%塩化第二鉄、有効4m ³ 、FRP、レベル計付
	凝集助剤溶解槽	B	1	B1F	排水処理設備室	角形密閉、攪拌機・給粉機付、0.1%高分子凝集剤、有効0.1m ³ 、FRP 攪拌機0.09kW、4P、給粉機0.025kW
	メタノール貯槽	B	1	B1F	排水処理設備室	円筒立形、50%メタノール、有効0.3m ³ 、FRP、レベル計付
	無機系液体キレート注入ポンプ	B	2	B1F	排水処理設備室	ダイヤフラムポンプ、0.07ℓ/min、1.0MPa、ポンプヘッドPVC ダイヤフラムPTFE-FKM、ボールバルブセラミック、0.07kW、4P
	有機系塩酸注入ポンプ	B	2	B1F	排水処理設備室	ダイヤフラムポンプ、0.3ℓ/min、1.0MPa、ポンプヘッドPVC ダイヤフラムPTFE-FKM、ボールバルブセラミック、0.07kW、4P
	無機系塩酸注入ポンプ(1)	B	2	B1F	排水処理設備室	ダイヤフラムポンプ、0.3ℓ/min、1.0MPa、ポンプヘッドPVC ダイヤフラムPTFE-FKM、ボールバルブセラミック、0.07kW、4P
	無機系塩酸注入ポンプ(2)	B	2	B1F	排水処理設備室	ダイヤフラムPTFE-FKM、ボールバルブセラミック、0.07kW、4P

設備仕様の概略（その 7）

設備名称	機器名称	重要度	数量	設置場所		要 目
				階	室名等	
排水処理設備	スラグ冷却水処理水移送ポンプ №1、2	B	2	B1F	排水処理設備室	No.1スラグ冷却水処理水移送ポンプ：横軸片吸込渦巻形、0.9m3/h、15m、ケーシング：炭素繊維強化フッ素樹脂、インペラ：炭素繊維強化フッ素樹脂、シャフト：アルミセラミクス、2.2kW、2P、流量計付 No.2スラグ冷却水処理水移送ポンプ：横軸片吸込渦巻形、0.9m3/h、15m、ケーシング：炭素繊維強化フッ素樹脂、インペラ：炭素繊維強化フッ素樹脂、シャフト：アルミセラミクス、2.2kW、2P
	膜処理原水槽	B	1	B1F	排水処理設備室	角形、鉄筋コンクリート造、内面エポキシ樹脂仕上、53㎡(有効)、レベル計付
	膜処理給水ポンプ	B	1	B1F	排水処理設備室下	水中汚水ポンプ、脱着装置付、6m ³ /h、13m、ケーシングFC200、インペラFC200 シャフトSUS420J2、0.75kW、2P
	RO膜給水槽	B	1	B1F	排水処理設備室	角形立形、SUS316L、有効10m ³ 、ヒータ(10kW) 温度センサ・レベル計・pH計付、RO膜給水槽
	膜処理ろ過ポンプ	B	1	B1F	排水処理設備室	立形多段渦巻型、6.6m ³ /h、35m、ケーシングSUS316、インペラSUS316 シャフトSUS316、2.2kW、2P
	高圧ポンプ	B	1	B1F	排水処理設備室	立形多段渦巻型、6.6m ³ /h、180m、ケーシングSUS316、インペラSUS316 シャフトSUS316、7.5kW、2P
	RO膜	B	1	B1F	排水処理設備室	ス/ハイラル型逆浸透膜、909m ² /日、7本
	ダイオキシン類分解設備	B	1	B1F	排水処理設備室	MF(精密ろ過)膜、触媒促進酸化式、62.4m ² /日
	ダイオキシン類分解設備給水ポンプ	B	1	B1F	排水処理設備室	横軸片吸込渦巻形、4.5m ³ /h、18m、ケーシングSUS14、インペラSUS14 シャフトSUS316、0.75kW、2P
	MF膜	B	1	B1F	排水処理設備室	精密ろ過膜、3m ² /h、MF膜排水ポンプ75ℓ/min、3.7kW、2P 逆洗ポンプ6m ³ /h、30m、2.2kW、2P、次亜塩素酸ソーダポンプ：0.019ℓ/min、1.0MPa、0.015kW
	オゾン発生装置	B	1	B1F	排水処理設備室	電解式オゾン発生装置、オゾン発生量120g/h、15kW、オゾン発生装置 チラー排オゾンガス分解器
	触媒反応塔	B	1	B1F	排水処理設備室	円筒立形、2.6m ³ /h、通水速度6m/h、触媒量0.65m ³ 、鋼板式(内面FRPライニング) 散水管・集水管・レベル計付
	循環ポンプ	B	1	B1F	排水処理設備室	横軸片吸込渦巻形、6.6m ³ /h、20m、ケーシングSUS14、インペラSUS316 シャフトSUS316、3.7kW、4P
電気・計装設備	放流ポンプ	B	2	1F	管理棟ポンプ室	横軸片吸込渦巻形、3m ³ /h、20m、ケーシングSCS13、インペラSCS13 シャフトSUS304、1.5kW、2P
	特別高圧受電盤	B	1	1F	受電室	キュービクル形絶縁開閉装置、適用規格JEM1425CW、3φ、3W、22kV、60Hz受電方式ケーブル引込式、1回線受電 受電用真空しゃ断器(1台)電動バネ操作式、3サイクル、24kV、600A、25kA 接地開閉器(2台)手動操作式、3極単段式、遮断容量強化型鉛形、28kV、10kA接地形計器用変圧器モールド形、22kV-110V-110/3/V 計器用変圧器モールド形、1P級、表示灯、電圧検出器(録電器容量式)
	特別高圧受電盤 ZCT	B	1	1F	受電室	定格(銘板写し)型式：ECZS-100A、定格電圧：23kV、定格電流100A
	特別高圧受電盤 CT	B	1	1F	受電室	定格(銘板写し)型式：CE1-20A、定格電圧：23kV、定格電流：150A、定格容量：40VA
	特別高圧受電盤 89R1、89R2	B	1	1F	受電室	定格(銘板写し)型式：V3-20/600GWZ、定格電圧：24kV、定格電流：600A、ヒューズ容量：25kA
	特別高圧受電盤 89F1、89F0	B	1	1F	受電室	定格(銘板写し)型式：V3-20/600GWZ、定格電圧：24kV、定格電流：24kV、定格電流：600A、ヒューズ容量：25kA
	特別高圧受電盤 52R	B	1	1F	受電室	定格(銘板写し)型式：HS2520X-06MF-C、定格電圧：24kV、定格電流：600A、定格遮断電流：5kA、定格遮断時間：3Hz
	特別高圧受電盤 1A・EVT盤 1A	B	1	1F	受電室	定格(銘板写し)型式：ZLA-125S、定格電圧：28kV、定格電流：10A
	1A・EVT盤 EVT	B	1	1F	受電室	定格(銘板写し)型式：GPE12-20、定格電圧：Pr1 22000/√3V、定格電流：Sec 110/√3V、Ter 110/√3V、定格容量：200VA
	特別高圧変圧器	B	1	1F	受電室	油入自冷式密着カス封入形、4.000kVA、1次22kV、2次6.6kV、60Hz、3φ経絡1次Y2次Δ、タップ切換方式/倍時電圧タップ切換方式 端子接続方式1次 ケーブル接続式2次 ケーブル接続式
	特別高圧変圧器2次盤	B	1	1F	受電室	鋼板製単位間鎖垂直自立形、キュービクル形絶縁開閉装置、適用規格JEM1425CW、3φ、3W 6.6kV、60Hz 断路器/手動リンク操作式、3極単段式、計器用変流器モールド式1.0級
	特別高圧変圧器2次盤 CT	B	1	1F	受電室	定格(銘板写し)形式：ELH-63-C、定格電圧：6.9kV、定格電流：500A、定格容量：40VA
	特別高圧変圧器2次盤 89S	B	1	1F	受電室	定格(銘板写し)形式：V3-6W、定格電圧：7.2kV、定格電流：600A、ヒューズ容量：25VA
	高圧受電盤	B	1	2F	高圧電気室	鋼板製単位間鎖垂直自立形、適用規格JEM1425CW、2面、3φ、3W 6.6kV、60Hz 真空しゃ断器電動バネ操作式、3サイクル、引出形、7.2kV、600A、12.5kA遮断容量強化型鉛形、引出型計器用変流器モールド式1.0級 計器用変圧器モールド式、引出形
	高圧受電盤 VTS	B	1	2F	高圧電気室	定格(銘板写し)型式：PTU-V1、定格電圧：6.6kV、定格容量：200VA
	高圧受電盤 CT	B	1	2F	高圧電気室	定格(銘板写し)型式：CD-40NA、定格電圧：6.9kV、定格電流：500/5A、定格容量：40VA
	高圧受電盤 52S	B	1	2F	高圧電気室	定格(銘板写し)型式：VF-13CM-CG、定格電圧：7.2kV、定格電流：600A、遮断容量：12.5kA、遮断速度：3Hz
	EVT盤 EVT	B	1	2F	高圧電気室	定格(銘板写し)型式：PTU-P2、定格電圧：Pr1 6.6kV/√3、Sec 110V/√3、Ter 190v/3、定格容量：200VA
	高圧配電盤	B	1	2F	高圧電気室	鋼板製単位間鎖垂直自立形、適用規格JEM1425CW、2段箱、6面 3φ、3W、6.6kV、60Hz 真空しゃ断器電動バネ操作式、3サイクル、引出形、7.2kV、600A、12.5kA、7.2kV、1.200A、12.5kA 計器用変圧器モールド式、設置形計器用変圧器モールド式 ヒューズ付、引出形、計器用変圧器モールド式1P級、引出形 真空しゃ断器、保護継電器、計器用変流器、計器用変圧器操作開閉器、表示灯、電圧変流器、各種計器
	高圧配電盤 CT	B	1	2F	高圧電気室	定格(銘板写し)形式：CD-40NA、定格電圧：6.9kV、定格容量：40A 【配電盤】 定格電流：非常用動力変圧器一次盤 150/5A、プラント動力変圧器一次盤 150/5A、プラント共通動力変圧器一次盤 150/5A、建築一般動力変圧器一次盤 100/5A、一般照明動力変圧器一次盤 75/5A、炭溶融設備動力変圧器一次盤 50/5A
	高圧配電盤(蒸気タービン発電機連絡盤) ZCT	B	1	2F	高圧電気室	定格(銘板写し)形式：ZCE5A/3000、定格電圧：6.9kV、定格電流：3000A
	高圧配電盤 52T11、52T01、52T02、52T03、52T04、52T05	B	1	2F	高圧電気室	定格(銘板写し)形式：VF-13CM-CG、定格電圧：7.2kV、定格電流：600A、遮断容量：12.5kA、遮断速度：3Hz 【遮断器】52T11 非常用動力変圧器一次盤、52T01 プラント動力変圧器一次盤、52T02 プラント共通動力変圧器一次盤、52T03 建築一般動力変圧器一次盤、52T04 一般照明動力変圧器一次盤、52T05 炭溶融設備動力変圧器一次盤
	高圧配電盤 52STS	B	1	2F	高圧電気室	定格(銘板写し)形式：VF-20CM-CG、定格電圧：7.2kV、定格電流：1200A、遮断容量：20kA、遮断速度：3Hz 【遮断器】52STS 蒸気タービン発電機連絡盤
	高圧配電盤 42C1、2、3	B	1	2F	高圧電気室	定格(銘板写し)形式：VZ2-CE-D、定格電圧：6.6kV、定格電流：200A、短絡遮断電流：40kA 【VCS】42C1 №1連相コンデンサ盤、42C2 №2連相コンデンサ盤、42C3 №3連相コンデンサ盤
	プラント動力変圧器 01F	B	1	2F	高圧電気室	乾式モールド変圧器、簡易保護ケース収納形、適用規格JEC 2200、モールド式、自冷式、1,000kVA、1次 6.6kV、2次 460V、60Hz、3φ、経絡1次 Δ、2次 Y(中性点接地端子付)、タップ切換方式：1次側電圧タップ切換方式、ダイヤル温度計(監視接点付) 定格(銘板写し)形式：FM-CF 1000kVA、1次 6.6kV、2次 460V、60Hz、3φ

設備仕様の概略（その 8）

設備名称	機器名称	重要度	数量	設置場所		要 目
				階	室名等	
電気・計装設備	プラント共通動力変圧器 O2F	B	1	2F	高圧電気室	乾式モールド変圧器、簡易保護ケース収納形、適用規格 JEC 2200、モールド式、自冷式、1,000kVA、1次 6.6kV、2次 460V、60Hz、3φ、 結線：1次 Δ、2次 Y（中性点接地端子付）、 タップ切換方式：1次側無電圧タップ切換方式、ダイヤル温度計（警報接点付） 定格（銘板等し）形式：FM-CF 1000kVA、1次 6.6kV、2次 460V、60Hz、3φ
	建築一般動力変圧器 O3F	B	1	2F	高圧電気室	乾式モールド変圧器、簡易保護ケース収納形、適用規格 JEC2200、モールド式、自冷式、750kVA、1次 6.6kV、2次 230V、60Hz、3φ 結線：1次 Δ、2次 Y（中性点接地端子付）、 タップ切換方式：1次側無電圧タップ切換方式、ダイヤル温度計（警報接点付） 定格（銘板等し）形式：FM-CF 750kVA、1次 6.6kV、2次 230V、60Hz、1φ
	一般照明変圧器 O4F	B	1	2F	高圧電気室	乾式モールド変圧器、簡易保護ケース収納形、適用規格 JEC2200、モールド式、自冷式、300kVA、1次 6.6kV、2次 210-105V、60Hz、1φ 結線：1次 Δ、2次 Y（中性点接地端子付）、 タップ切換方式：1次側無電圧タップ切換方式、ダイヤル温度計（警報接点付） 定格（銘板等し）形式：FM-KF 300kVA、1次 6.6kV、2次 210-105V、60Hz、1φ
	非常用動力変圧器 11F	B	1	2F	高圧電気室	乾式モールド変圧器、簡易保護ケース収納形、適用規格 JEC2200、モールド式、自冷式、1,000kVA、1次 6.6kV、2次 460V、60Hz、3φ 結線：1次 Δ、2次 Y（中性点接地端子付）、 タップ切換方式：1次側無電圧タップ切換方式、ダイヤル温度計（警報接点付） 定格（銘板等し）形式：FM-CF 1000kVA、1次 6.6kV、2次 460V、60Hz、3φ
	灰溶融設備動力変圧器 O5F	B	1	2F	高圧電気室	乾式モールド変圧器、簡易保護ケース収納形、適用規格 JEC2200、モールド式、自冷式、300kVA、1次 6.6kV、2次 460V、60Hz、3φ 結線：1次 Δ、2次 Y（中性点接地端子付）、 タップ切換方式：1次側無電圧タップ切換方式、ダイヤル温度計（警報接点付） 定格（銘板等し）形式：FM-CF 1000kVA、1次 6.6kV、2次 460V、60Hz、3φ
	変圧器	B	1	2F	高圧電気室	乾式モールド変圧器、簡易保護ケース収納形、適用規格 JEC2200
	進相コンデンサ盤	B	1	2F	高圧電気室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、3相、適用規格 JEM1225 S4、6.6kV、200A、4kA
	進相コンデンサ盤 CT	B	1	2F	高圧電気室	定格（銘板等し）形式：CD-40NA、定格電圧：6.9kV、定格電流：200A、定格容量：40A
	進相コンデンサ盤 52C	B	1	2F	高圧電気室	定格（銘板等し）形式：VF-13CM-CG、定格電圧：7.2kV、定格電流：600A、遅延容量：12.5kA、遅延速度：3Hz
	進相コンデンサ盤 42C1、2、3	B	1	2F	高圧電気室	定格（銘板等し）形式：V22-C-E-D、定格電圧：6.6kV、定格電流：200A 【VCS】 42C1 №1進相コンデンサ盤、42C2 №2進相コンデンサ盤、42C3 №3進相コンデンサ盤
	配電盤	B	1	3F	低圧電気室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、適用規格 JEM1265E
	低圧配電盤 （プラント動力配電盤）	B	1	3F	低圧電気室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、適用規格 JEM 1265 E、3φ、3W、460V、60Hz、3φ、3W、230V、60Hz、1φ、3W、210-105V、60Hz、 気中しゃ断器、電動/手操作式、引出形、配線用しゃ断器 外部トリップコイル付、トリップ警報接点付、 3相変圧器：モールド式、自冷式、440V/220V、100kVA、用途 非常用操業動力、 単相変圧器：モールド式、自冷式、440V/210-105V、75kVA、用途 非常用建築照明、 気中しゃ断器、配線用しゃ断器、計器用変圧器（モールド式）、計器用変流器（モールド式）、電圧変流器（モールド式）、地絡継電器、操作開閉器、押ボタン開閉器、表示灯、計器
	低圧配電盤 （建築動力配電盤）	B	1	3F	低圧電気室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、適用規格 JEM 1265 E、3φ、3W、230V、60Hz、 気中しゃ断器、電動/手操作式、引出形、配線用しゃ断器 外部トリップコイル付、トリップ警報接点付、 気中しゃ断器、配線用しゃ断器、計器用変圧器（モールド式）、計器用変流器（モールド式）、電圧変流器（モールド式）、地絡継電器、操作開閉器、押ボタン開閉器、表示灯、計器
	低圧配電盤 （照明配電盤）	B	1	3F	低圧電気室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、適用規格 JEM 1265 E、1φ、3W、210-105V、60Hz、 気中しゃ断器、電動/手操作式、引出形、配線用しゃ断器 外部トリップコイル付、トリップ警報接点付、 気中しゃ断器、配線用しゃ断器、計器用変圧器（モールド式）、計器用変流器（モールド式）、電圧変流器（モールド式）、地絡継電器、操作開閉器、押ボタン開閉器、表示灯、計器
	動力盤	B	1	3F	低圧電気室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、多段階ユニット引出し式、垂直式、 適用規格 JEM 1195 D2、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器 外部トリップコイル付、トリップ警報接点付）、電磁接触器、計器用変流器（モールド式）、制御用変圧器（440V/100V）、補助継電器、地絡保護装置、表示灯、サーマルリレー
	低圧動力盤（コントロールセンタ）	B	1	3F	低圧電気室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器、漏電しゃ断器、制御用変圧器、電磁接触器、サーマルリレー、補助継電器、計器、押ボタン開閉器、切換開閉器、表示灯、計器用変流器
	現場制御盤	B	1			鋼板製単位閉鎖垂直自立形、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器、漏電しゃ断器、制御用変圧器、電磁接触器、サーマルリレー、補助継電器、計器、押ボタン開閉器、切換開閉器、表示灯、計器用変流器
	現場制御盤（ごみ投入扉用制御盤）	B	1	1F	プラントホーム監視室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器、漏電しゃ断器、制御用変圧器、電磁接触器、サーマルリレー、補助継電器、計器、押ボタン開閉器、切換開閉器、表示灯、計器用変流器
	現場制御盤（n号ブリッジ解除装置現場制御盤（n=1～2））	B	2	4F	炉室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器、漏電しゃ断器、制御用変圧器、電磁接触器、サーマルリレー、補助継電器、計器、押ボタン開閉器、切換開閉器、表示灯、計器用変流器
	現場制御盤（n号溶融炉用減速塔用制御盤（n=1～2））	B	1	B1F	灰溶融設備室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器、漏電しゃ断器、制御用変圧器、電磁接触器、サーマルリレー、補助継電器、計器、押ボタン開閉器、切換開閉器、表示灯、計器用変流器
	現場制御盤（エアシャワー・点検補修ホイス分電盤）	B	1	3F	低圧電気室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器、漏電しゃ断器、制御用変圧器、電磁接触器、サーマルリレー、補助継電器、計器、押ボタン開閉器、切換開閉器、表示灯、計器用変流器
	現場制御盤（n号減速塔現場制御盤（n=1～2））	B	2	4F	排ガスヤード	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器、漏電しゃ断器、制御用変圧器、電磁接触器、サーマルリレー、補助継電器、計器、押ボタン開閉器、切換開閉器、表示灯、計器用変流器
	現場制御盤（集じんダスト貯留槽制御盤）	B	1	3F	灰溶融設備室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器、漏電しゃ断器、制御用変圧器、電磁接触器、サーマルリレー、補助継電器、計器、押ボタン開閉器、切換開閉器、表示灯、計器用変流器
	現場制御盤（集じん灰処理装置制御盤）	B	1	2F	集じん灰処理装置室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器、漏電しゃ断器、制御用変圧器、電磁接触器、サーマルリレー、補助継電器、計器、押ボタン開閉器、切換開閉器、表示灯、計器用変流器
	現場制御盤（n号ボイラダスト搬出装置制御盤（n=1～2））	B	2	3F	炉室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器、漏電しゃ断器、制御用変圧器、電磁接触器、サーマルリレー、補助継電器、計器、押ボタン開閉器、切換開閉器、表示灯、計器用変流器
	現場制御盤（n号ろ液噴霧器現場制御盤（n=1～2））	B	2	3F	炉室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器、漏電しゃ断器、制御用変圧器、電磁接触器、サーマルリレー、補助継電器、計器、押ボタン開閉器、切換開閉器、表示灯、計器用変流器
	現場制御盤（n号炉駆動用油圧装置現場制御盤（n=1～2））	B	1	1F	炉駆動用油圧装置室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器、漏電しゃ断器、制御用変圧器、電磁接触器、サーマルリレー、補助継電器、計器、押ボタン開閉器、切換開閉器、表示灯、計器用変流器
	現場制御盤（電動弁分電盤）	B	1	3F	低圧電気室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器、漏電しゃ断器、制御用変圧器、電磁接触器、サーマルリレー、補助継電器、計器、押ボタン開閉器、切換開閉器、表示灯、計器用変流器
	現場制御盤（装置付属制御盤（低圧蒸気復水器速度制御盤） №1/2、3/4	B	1	3F	低圧電気室	鋼板製内閉鎖垂直自立形、440V、60Hz、90kW×4、正弦波VVVF
	現場制御盤（装置付属制御盤（誘引送風機速度制御盤） 1、2号	B	1	3F	低圧電気室	鋼板製内閉鎖垂直自立形、440V、60Hz、290kW×2、正弦波VVVF
	現場操作盤	B	1			自立スタンド形、壁掛形、1φ、100V、60Hz
	現場制御盤（ごみクレーン制御盤および操作盤）	B	1	6F	クレーン電気室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器、漏電しゃ断器、制御用変圧器、電磁接触器、サーマルリレー、補助継電器、計器、押ボタン開閉器、切換開閉器、表示灯、計器用変流器
	現場制御盤（積出しクレーン制御盤および操作盤）	B	1	1F	積出しクレーン電気室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz、 配線用しゃ断器、漏電しゃ断器、制御用変圧器、電磁接触器、サーマルリレー、補助継電器、計器、押ボタン開閉器、切換開閉器、表示灯、計器用変流器
	溶接機用電源盤	B	1			鋼板製開閉壁型形、3φ、3W、210V、60Hz

設備仕様の概略（その9）

設備名称	機器名称	重要度	数量	設置場所		要 目
				階	室名等	
電 気 ・ 計 装 設 備	蒸気タービン発電機	B	1	1F	蒸気タービン発電機室	全室内冷房、三相交流同期発電機、制動巻線付 定格6,125kVA、出力4,300kW、力率80%（遅れ）、定格電圧6.6kV 60Hz 3φ、4P、回転数1,800rpm 絶縁・固定子仕様、回転子仕様、励磁方式ブラシレス励磁方式 冷却方式：水冷式、潤滑方式：強制潤滑方式
	タービン起動盤	B	1	1F	蒸気タービン発電機室	鋼板製閉鎖垂直自立形 主蒸気圧力計、第1段油圧力計、油気圧力計、排気圧力計、バックシ、蒸気圧力計、潤滑油圧力計、制御油圧力計、作動油圧力計、潤滑油こし器差圧計、制御油こし器差圧計、主蒸気温度計、クーリング温度計、排気温度計、排気温度計、潤滑油温度計、軸受温度計、回転計 軸位置計、軸振動計、補機稼働スイッチ、補機電流計、補助油ポンプ切替スイッチ（テスト・常時）、非常用油ポンプ切替スイッチ（テスト・常時） 状態及び警報表示灯、非常停止ボタン、警報停止ボタン、故障復帰ボタン AC440V、60Hz
	発電機盤	B	1	1F	蒸気タービン発電機室	鋼板製単位閉鎖垂直自立形、適用規格：JEM1425CW、3φ、3W、6.6kV 60Hz 真空しゃ断器・電動ハネ操作式、3サイクル、5引出、7.2kV、1,200A、20kA サージアブソーバ（定格電圧8.4kV、5kA、コンデンサ7.2kV） 真空中しゃ断器、配線用しゃ断器、計測用変圧器（モールド式）、 励磁装置：励磁用変圧器、変圧器用変流器、自動電圧調整装置真空しゃ断器、計測用変流器、計測用変圧器、サージアブソーバ 励磁装置、自動力率調整装置、操作開閉器、切換開閉器、表示灯
	発電機盤 52ST	B	1	1F	蒸気タービン発電機室	定格（銘板等）型式：HS2006X12MF-E、定格電圧：7.2kV、定格電流：1,200A、遮断容量：20kA
	発電機盤 CT	B	1	1F	蒸気タービン発電機室	定格（銘板等）型式：CEA2-6K/750、750/5A、40VA
	発電機盤 VT	B	1	1F	蒸気タービン発電機室	定格（銘板等）【計器用変圧器】型式：PEC1-6FA/100、定格電圧：6600/110V、100VA【変圧器】型式：NPE12-6/50、定格電圧：6600/110V、50VA
	発電機盤 AVR	B	1	1F	蒸気タービン発電機室	定格（銘板等）【AVR】型式：HIFEX-DS-6C、110V/15A【90R（電圧設定器）】型式：HIFEX-DS-B
	非常用発電機	B	1	1F	非常用発電機室	60Hz、440V、1000kVA、燃料灯油
	非常用発電機稼働作盤	B	1	1F	非常用発電機室	定格（銘板等）型式：ACP-24D、鋼板製閉鎖形（本体搭載型）、壁掛形、3φ、3W、440V、60Hz
	直流電源装置盤	B	1	2F	高圧電気室	入力3φ、60Hz、440V、18kVA、出力120.4V、100A 鋼板製閉鎖垂直自立形、入力：3φ、3W、440V、60Hz、出力：DC100V、30分放電準備
	無停電電源装置	B	1	2F	高圧電気室	入力3φ、60Hz、200V、52kVA、出力3φ、60Hz、200V、40kVA 鋼板製閉鎖垂直自立形、入力：3φ、3W、440V、60Hz、出力：DC100V、30分放電準備
	分散形計算機制御システム	B	1	2F	中央制御室	
	計装盤	B	2	2F	中央制御室	定格（銘板等）中央監視盤：鋼板製閉鎖垂直自立形、I.T.Vモニタ、警報表示灯、プザー、記録計、映像切替機、映像分配器、灯油吸入警報機、ビデオプロジェクタ：55インチプロジェクタ、中央操作盤：鋼板製コンソールデスク形、非常停止、灰溶融監視盤：鋼板製閉鎖垂直自立形、I.T.Vモニタ、警報表示灯、プザー、映像切替機、映像分配器、灰溶融操作盤：鋼板製コンソールデスク形、I.T.Vモニタ操作盤、非常停止制
	計装盤	B	2	2F	中央制御室	定格（銘板等）監視盤：監視盤、監視盤、監視盤
	上位計算機システム	B	2	2F	中央制御室	定格（銘板等）データベースステーション：デスクトップ形、LCD方式、キーボード方式、処理装置：演算処理装置 32ビット、1台、データベースステーション用拡張用プリンタ：電子写真方式、600ドット/インチ
	計量・車両管制自動運転システム	B	1		管理棟計量室	定格（銘板等）計量・車両管制コンソール：デスクトップ形、32ビット演算処理装置 計量・車両管制用拡張用プリンタ：電子写真方式、240ドット/インチ カードリーダー/ライター：磁気記録/磁気読取方式、A4
	ごみクレーン自動運転システム	B	1	2F	ごみクレーン操作室	定格（銘板等）ごみクレーン自動運転制御盤：鋼板製閉鎖垂直自立形、32ビット演算処理装置、ごみクレーンコンソール：デスクトップ形、32ビット演算処理装置、メッセージプリンタ：インクジェット方式、A4
	積出クレーン自動運転システム	B	1		積出しクレーン操作室	定格（銘板等）積出しクレーン自動運転制御盤：鋼板製閉鎖垂直自立形、32ビット演算処理装置、積出しクレーンコンソール：デスクトップ形、32ビット演算処理装置、メッセージプリンタ：インクジェット方式、A4
	工業用テレビ装置		1	2F	中央制御室	監視盤用映像表示方式
	環境測定装置	B	1	3F、5F		4成分分析装置 表示項目：硫酸化合物、窒素化合物、塩化水素、一酸化炭素、アンモニア、ばいじん濃度、炉内温度、発電電力
雑 設 備	排ガス分析計（4成分分析装置） 1、2号	B	2		白煙防止用送風機室	一酸化炭素分析装置：赤外線吸収方式（O2換算式）、硫酸化合物：赤外線吸収方式（O2換算式）、一酸化炭素：赤外線吸収方式（O2換算式）、酸素：磁気風式
	排ガス分析計（一酸化炭素分析装置） 1、2号	B	2		排ガスヤード	一酸化炭素分析装置：赤外線吸収方式（O2換算式）、酸素：磁気風式
	排ガス分析計（塩化水素、ばいじん分析装置） 1、2号	B	4		白煙防止用送風機室	塩化水素分析装置：イオン電極方式（O2換算式）、ばいじん分析装置：光散乱式
	排ガス分析計（ばいじん分析計） 1、2号	B	2		排ガスヤード	ばいじん分析装置：光散乱式、トリボ式
	排ガス分析計（アンモニア分析装置） 1、2号	B	2		白煙防止用送風機室	アンモニア分析装置：イオン電極方式（O2換算式）
	気象観測計	B	1	FF		南向エンコーダ式、風速/ハリス式、気圧・測定抵抗式、湿度・静電容量式 雨量・観測式型
	工業計器	B	1	FF		
	環境監視データ表示装置	B		1F 2F	管理棟玄関ホール 見学通路	室内壁掛型、表示方式：LED、 表示項目：硫酸化合物、窒素化合物、塩化水素、一酸化炭素、アンモニア、ばいじん濃度、炉内温度、発電電力
	計装用空気圧総機	B	2	B1F	送風機/ 空気圧総機室	スクリープ式、無給油式、パッケージ形、6.0m³/min（吸込状態換算） 除塵機出口では5.0m³/min、常用0.69MPa圧力調整方式吸気配線アンロード式、水冷式 駆動方式：巻掛式、37kW、2P 空気タンク：2式、除塵部：冷凍式（機室内設置）、吸着式、自動減圧再生方式
	雑用空気圧総機	B	2	B1F	送風機/ 空気圧総機室	スクリープ式、給油式、パッケージ形、9.1m³/min（吸込状態換算）常用0.69MPa、水冷式、55kW、2P 空気タンク2式、除塵部：冷凍式（機室内設置）
	真空増設装置	B	1	4F	脱臭装置/真空増設装置室	真空増設式、ろ布：ポリエチレン、ダスト払出し装置、外気導入逆流式、6.0m³/min、-24kPa、7.5kW、2P、同時使用箇所：3箇所
	手動洗車装置	B	1	屋外	洗車場	高圧水噴射式、固定式、同時洗車台数：5台、4.9MPa、106.2・/min、11kW、4P
	説明用ビデオ及びDVD装置 説明用音響装置	B	2	2F	管理棟研修室	定格（銘板等）型式：演習プロジェクター：TH-LB30NT、スピーカーシステム：WS-AT80、オーディオミキサー：WR-XS3、ビデオスイッチャー：WJ-SW20B、ワイヤレス受信機：WX-4020B、DVDプレーヤー一体型BS内蔵ハイファイビデオ：NV-VP41B、DVDプレーヤー：DVD-S39、ステレオカセットデッキ：RS-BX4010、グラフィックコイラプター：WZ-AE15Z、4チャンネルパワーアンプ：WP-C104、電源制御ユニット：WU-L67
	環境集じん器	B	1	1F	灰溶融設備室（F-G/4-5）	パワフィルタ式、処理風量：13,000m³/h、ろ過速度：1.42m/min、ろ過面積：164m²、ダスト払出し装置：ハリス式、主要部材質：SS400
	環境集じん器用送風機	B	1	1F	灰溶融設備室（F-G/4-5）	片取込ターボ形、13,000m³/h、7,200Pa、クーリング：SS400、インペラ：SS400、インペラボス：FGD450
	環境集じん器用消音機	B			灰溶融設備室（F-G/4-5）	静電吸着式、鋼板製吸着機、30dB(A)以上、本体：Q235（SS400）、吸着材：ロックワール
	エアシャワー No.1～3	B	3	1～3F	灰溶融設備室 炉室	一人用三方吹き型タイプ、19m³/min、720Pa、1.1kW、2P
	前処理設備室用ホイス	B	1	B1F	灰溶融設備室	1.0t、電気チェーンブロック 定格（銘板等）型式：1t、EFSG形、巻上：0.9kW、440V
	灰溶融設備室用ホイス	B	1	1F	灰溶融設備室	2.8t、電気チェーンブロック 定格（銘板等）型式：2.8t、EFM形、巻上：4.6kW、横行：0.4kW、440V
	作業室用ホイス	B	1	1F	作業室・資材倉庫	2.8t、電気チェーンブロック 定格（銘板等）型式：2.8t、EFM形、巻上：4.6kW、横行：0.4kW、440V
	No.2炉室用ホイス	B	1	FF	炉室	1.0t、無綫式、電気チェーンブロック 定格（銘板等）型式：1t、EFM形、巻上：1.8kW、横行：0.4kW、440V
	排ガス処理設備用ホイス	B	1	4F	排ガスヤード	1.0t、無綫式、電気チェーンブロック 定格（銘板等）型式：1t、EFM形、巻上：1.8kW、横行：0.4kW、440V
	アンモニアポンプ電動ホイス	B	1		アンモニアポンプ室	定格（銘板等）型式：2t、2SH
	洗車機ホイス	B	1		排ガスヤード	定格（銘板等）型式：0.5t、MAF型、電気トロリ、0.4kW、220V（60Hz）
	小動物焼却設備	B	7	B1F	小動物焼却炉室	定格（銘板等）燃焼用送風機：横式録電機 KF-7L、5.5kW-2P、200V、横置真空輸送装置：横式録電機 1600DN、0.4kW-4P、200V、エゼクタプロブ：横式録電機 ML-R-503、3.7kW-4P、200V、冷凍車（2台）：黒ミツツカ、冷凍車（2台）：黒ミツツカ、冷凍車（2台）：黒ミツツカ

【資料 3】

機器別管理基準

令和 5 年 3 月

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
受入・供給設備	2-2	ごみ計量機（受入用）	計量機本体	2基			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・法定検査	・著しい左記の状態がないこと ・検定公差が計量法基準値内であること	・目視判断 ・検定公差	1年/回	15～20年
	2-3-1	ごみ投入扉	ごみ投入扉本体	5基			○		・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断		15～20年
			駆動用シリンダ	5本			○		・摺動部の摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断		10年
	2-3-2	ダンピングボックス	ボックス本体	1基			○		・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断		15～20年
			駆動用シリンダ	1本			○		・摺動部の摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断		10年
	2-3-3	不適物取出積込装置	油圧シリンダ	1式			○		・摺動部の摩耗、損傷、亀裂 ・油漏れの有無 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
	2-4-1	切断機	破碎機本体	1基			○		・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断		10～15年
			油圧シリンダ	1基			○		・摺動部の摩耗、損傷、亀裂 ・油漏れの有無 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			油圧ポンプ	1台			○		・油漏れの有無 ・振動、温度	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下		5～10年
			電動機	1台			○		・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準		15～20年
			油タンク	1台			○		・腐食、発錆 ・油漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断		15～20年
			油冷却器	1台			○		・腐食 ・管束の詰まり	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断		5～10年
	2-6	ごみクレーン	クレーン本体	2基			○		・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと ・法定点検	・目視判断	1年/回	15～20年
			クラブバケット	2基	1基		○		・摩耗、破損、断裂	・著しい左記の状態がないこと ・ワイヤーの断線がクレーン構造規格内	・素線の破断したものが総素線数の10%未満	1年/回	5～10年
			走行レール	1式			○		・腐食、摩耗、たわみ ・ブレーキ作動状況	・著しい左記の状態がないこと	・クレーンの年次定期自主検査実施要領	1年/回	15～20年
			電動機	2台			○		・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
	2-7	窓自動洗浄装置	洗浄装置本体	1基		○			・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	2年/回	10～15年
			ポンプ	1台		○			・油漏れの有無 ・振動、温度	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	1年/回	5～10年
			電動機	1台		○			・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
			ブロワ本体	1台		○			・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
受入・供給設備	2-8-1	脱臭装置	脱臭装置本体	1基			○		・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断		15～20年
	2-8-2	脱臭用送風機	送風機本体	1基			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・振動値90μm以下		15～20年
			電動機	1台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準		15～20年
	2-9	薬液噴霧装置	防臭剤タンク	1基		○			・腐食、発錆 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断		15～20年
			供給ポンプ	2台		○			・水漏れの有無 ・振動、温度	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下		5～10年
			電動機	2台		○			・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準		15～20年
燃焼設備	3-1	ごみ投入ホッパ・シュート	ホッパ・シュート本体	2基			○		・摩耗、損傷、亀裂、燃損	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
			ブリッジ解除装置	2基			○		・摩耗、損傷、亀裂、燃損	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
			油圧シリンダ	2台				○	・摺動部の摩耗、損傷、亀裂 ・油漏れの有無 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
	3-2-1	給じん装置	給じん装置本体	2基			○		・摩耗、損傷、亀裂、燃損	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
			駆動用シリンダ	2本			○		・摺動部の摩耗、損傷、亀裂 ・油漏れの有無 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
	3-2-2	燃焼装置	火格子	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと ・残存板厚が管理値以上であること	・前面カバー:9mm以下(元板厚16mm) ・側面～可動間隙:5mm以上(図面寸法:0.5mm) ・スライドピース:15mm以下(元板厚25mm)	1年/回	1～3年
			ホッパシュート本体	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂、燃損	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
			支持架台／火格子梁	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・たわみ量:10mm以下	1年/回	10～15年
			駆動用油圧シリンダ	2式				○	・摺動部の摩耗、損傷、亀裂 ・油漏れの有無 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			ロッドシール装置	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・灰、タール漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	5～10年
	3-2-3	炉駆動用油圧装置	油圧ポンプ	4台				○	・油漏れの有無 ・振動、温度	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	1年/回	5～10年
			電動機	4台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
			オイルタンク	2基				○	・腐食、発錆 ・油漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
			オイルクーラー	2基				○	・腐食 ・管束の詰まり	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	5～10年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
燃焼設備	3-3-1	焼却炉	焼却炉本体	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂、燃損	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
			耐火物築炉	2式			○		・膨出、脱落、損耗、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・築炉:セリ出しが40mm以上 ・耐火物:スタットの先端部が露出	1年/回	1～5年
	3-3-2 3-3-3	焼却炉・ボイラ点検架構 及びケーシング	炉体鉄骨	2式				○	・損傷	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
			ケーシング	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂、燃損	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
	3-3-4	落じんホッパシュート	ホッパ・シュート	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂、燃損	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
			灰落下管本体	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂、燃損	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
	3-4-1	灯油ストレージタンク	貯留槽本体	1基				○	・腐食、発錆 ・油漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
	3-4-2	灯油移送ポンプ	ポンプ	1台	1台			○	・油漏れの有無 ・振動、温度	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	1年/回	5～10年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
	3-4-3-1	助燃バーナ	バーナ本体	2基				○	・摩耗、腐食 ・燃料漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
			着火装置	2台				○	・摩耗、腐食 ・作動異常の有無(点火状況)	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
	3-4-3-2	助燃バーナ用送風機	送風機本体	2基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・振動値104μm以下	4年/回	15～20年
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	4年/回	15～20年
	3-4-4-1	再燃バーナ	バーナ本体	4基				○	・摩耗、腐食 ・燃料漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
			電動機	4台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
			着火装置	4台				○	・摩耗、腐食 ・作動異常の有無(点火状況)	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
燃焼ガス冷却設備	5-1-1	ボイラ本体	ボイラドラム	2基				○	・腐食、摩耗	・著しい左記の状態がないこと ・残存板厚が管理値以上であること	・目視判断 ・銅板:18.30mm以下(図面寸法23.0mm) ・鏡板:20.25mm以下(図面寸法24.0mm)	1年/回	15～20年
			ボイラ水管	2炉				○	・腐食、摩耗	・著しい左記の状態がないこと ・残存板厚が管理値以上であること	・目視判断 ・発電用火力設備に関する技術基準	1年/回	5～10年
			過熱器	2炉				○	・腐食、摩耗	・著しい左記の状態がないこと ・残存板厚が管理値以上であること	・目視判断 ・発電用火力設備に関する技術基準	1年/回	5～10年
			エコノマイザ	2炉				○	・腐食、摩耗	・著しい左記の状態がないこと ・残存板厚が管理値以上であること	・目視判断 ・発電用火力設備に関する技術基準	1年/回	5～10年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
燃焼ガス冷却設備	5-1-3	ボイラ鉄骨及びケーシング ホッパシュート	鉄骨	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂、燃損	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
			ケーシング	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂、燃損	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
			ホッパ・シュート	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂、燃損	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
	5-1	ダスト灰搬出装置 (エコノマイザ・ボイラ)	コンベア本体	4台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			電動機	4台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
			スクレ-コンベア・ダクト	4台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			電動機	4台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	5-1-7	ボイラダスト搬出装置 冷却用送風機	送風機本体	2基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・振動値104μm以下	4年/回	15～20年
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	4年/回	15～20年
	5-1-8	ボイラ安全弁消音器	消音器本体	2基		○			・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
	5-2-1	スートブロワ	長拔差型	4台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・蒸気漏れの有無 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
			定置型	10台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・蒸気漏れの有無 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
	5-2-2	スートブロワバージ用送風機	送風機本体	2基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・振動値104μm以下	4年/回	15～20年
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	4年/回	15～20年
	5-3	ボイラ給水ポンプ	ポンプ本体	2台	2台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	2年/回	10～15年
			電動機	2台	2台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	2年/回	15～20年
	5-4	脱気器	脱気器本体	1基				○	・腐食、摩耗 ・残存板厚が管理値以上であること	・著しい左記の状態がないこと ・压力容器構造規格	・目視判断	2年/回	15～20年
	5-5	脱気器用給水ポンプ	ポンプ本体	1台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	2年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	2年/回	15～20年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
燃 焼 ガ ス 冷 却 設 備	5-6-1	清缶剤注入装置	タンク	1式				○	・腐食、発錆 ・液漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	3年/回	15～20年
			ポンプ	1式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・液漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1式				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
			攪拌機	1式				○	・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	3年/回	15～20年
	5-6-2	脱酸剤注入装置	タンク	1式				○	・腐食、発錆 ・液漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	3年/回	15～20年
			ポンプ	1式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・液漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1式				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
			攪拌機	1式				○	・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	3年/回	15～20年
	5-6-3	復水処理剤注入装置	タンク	1式				○	・腐食、発錆 ・液漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	3年/回	15～20年
			ポンプ	1式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・液漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1式				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
			攪拌機	1式				○	・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	3年/回	15～20年
	4-8-4	ボイラ水保管剤注入装置	タンク	1式				○	・腐食、発錆 ・液漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	3年/回	15～20年
			ポンプ	1式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・液漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1式				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
			攪拌機	1式				○	・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	3年/回	15～20年
	5-7-1	連続ブロー装置	ブロー装置本体	2台				○	・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
	5-7-2	ブロータンク	タンク本体	1基				○	・腐食、発錆 ・蒸気漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	2年/回	15～20年
	5-7-3	ブロー水冷却装置	クーラ本体	1台				○	・腐食 ・管束の詰まり	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	2年/回	5～10年
	5-7-4	サンプリングクーラ	クーラ本体	2台				○	・腐食 ・管束の詰まり	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	5～10年
	5-8	高圧蒸気だめ	本体	1基				○	・腐食、摩耗	・著しい左記の状態がないこと ・残存板厚が管理値以上であること	・目視判断 ・压力容器構造規格	1年/回	15～20年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
燃焼ガス冷却設備	5-9	低圧蒸気復水器	フィンチューブ	1基				○	・腐食、摩耗 ・蒸気漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
			フィン	4台				○	・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
			駆動装置	4台			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・油漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
			電動機	4台			○		・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
	5-10	排気復水タンク	タンク本体	1基				○	・腐食、摩耗	・著しい左記の状態がないこと ・残存板厚が管理値以上であること	・目視判断 ・圧力容器構造規格	2年/回	15～20年
	5-11	排気復水ポンプ	ポンプ本体	1台	1台		○		・摩耗、損傷、亀裂 ・液漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	4年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	4年/回	15～20年
	5-12	復水タンク	タンク本体	1基				○	・腐食、摩耗	・著しい左記の状態がないこと ・残存板厚が管理値以上であること	・目視判断 ・圧力容器構造規格	2年/回	15～20年
	5-13	純水装置	ポンプ等本体	1式			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・液漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	1年/回	10～15年
			電動機	1式				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
排ガス処理設備	6-1-1	減温塔	調温塔本体	2基				○	・腐食、摩耗、損傷、変形	・著しい左記の状態がないこと ・残存板厚が管理値以上であること	・目視判断 ・ケーシング:3mm以下(図面寸法6mm)	1年/回	10～15年
			各コンベア	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:チェーン
			電動機	2式				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	6-1-2	減温水ポンプ	ポンプ本体	2台	1台		○		・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	2台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	6-2-1	1段目ろ過式集じん器	バグフィルタ本体	2基				○	・腐食、摩耗、損傷、変形	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			ろ布	276本				○	・劣化 ・クリーンルームへの吹き漏れ	・著しい左記の状態がないこと ・サンプリングによる物性試験	・目視判断 ・排ガス分析値が管理基準値以下であること	1年/回	3～5年
			パルス配管	2式				○	・腐食 ・エア－漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	5～10年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
排ガス 処理設備	6-2-1	1段目ろ過式集じん器	温風循環ファン	2台			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
			スクリーコンベア	2台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
			ロータリーバルブ	2台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
			各ダンパ	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	5～10年
	6-2-2	排ガス処理用空気圧縮機	圧縮機	1台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・異音、温度 ・定格電流	・著しい左記の状態が無いこと ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・目視判断	2年/回	10～12年
			空気槽	1基	1基			○	・摩耗、腐食	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・压力容器構造規格	1年/回	10～12年
	6-3-2	消石灰サイロ	塔本体	1基				○	・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～20年
	6-3-3	消石灰定量供給装置	テーブルフィーダー本体	1基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	2年/回	10年
			電動機	3台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	2年/回	15～20年
	6-3-4	特殊助剤サイロ	塔本体	1基				○	・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～20年
	6-3-5	特殊助剤定量供給装置	テーブルフィーダー本体	1台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	2年/回	10年
			電動機	6台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	2年/回	15～20年
	6-3-6	1段目用薬品供給ブロフ	ブロフ本体	2台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・振動値35μm以下	5年/回	10年
			電動機	2台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	5年/回	15～20年
	6-3-7	2段目用薬品供給ブロフ	ブロフ本体	2台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・振動値35μm以下	5年/回	10年
			電動機	2台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	5年/回	15～20年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
排ガス 処理設備	6-3-9	2段目ろ過式集じん器	バグフィルタ本体	2基			○		・腐食、摩耗、損傷、変形	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			ろ布	336本			○		・劣化 ・クリーンルームへの吹き漏れ	・著しい左記の状態がないこと ・サンプリングによる物性試験	・目視判断 ・排ガス分析値が管理基準値以下であること	1年/回	3～5年
			パルス配管	2式			○		・腐食 ・エア－漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	5～10年
			温風循環ファン	2台			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
			電動機	2台			○		・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
			スクリューコンベア	2台			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			電動機	2台			○		・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
			ロータリーバルブ	2台			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			電動機	2台			○		・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
			各ダンパ	2式			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	5～10年
	6-4-1	脱硝反応塔	塔本体	2基			○		・腐食、摩耗、損傷、変形 ・触媒の劣化	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・NOxが管理基準値以下であること	1年/回	15～20年:ケーシング 4～7年:触媒
	6-4-3	ガス再加热器	加热器本体	2基			○		・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
			伝熱管	2式			○		・腐食 ・蒸気漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	5～10年
	6-4-4	アンモニア注入器	本体	2台			○		・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
	6-4-5	アンモニアポンペ	本体	3本			○		・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
	6-4-6	アンモニア希釈用空気送風機	送風機本体	2台			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・振動値22μm以下	1年/回	15～20年
			電動機	2台			○		・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
	6-4-7	バージ用空気加热器	加热器本体	2基			○		・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	3年/回	10～15年
			伝熱管	2式			○		・腐食 ・蒸気漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	3年/回	5～10年
			ノズル本体 (アンモニア水噴霧ノズル(触媒脱硝装置用))	2台			○		・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
余熱 利用設備	7-1-1	蒸気タービン	タービン本体	1基			○		・腐食、摩耗、損傷、変形 ・蒸気漏れの有無 ・振動、異音	・著しい左記の状態がないこと ・各種計測結果が管理値以内であること	・目視判断 ・発電用火力行設備に関する技術基準	2年/回	15～20年
			減速装置	1式			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・油漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	2年/回	15～20年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
余熱利用設備	7-1-1	蒸気タービン	調速装置	1式			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・油漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	2年/回	15～20年
			保安装置	1式			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・油漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	2年/回	15～20年
			油タンク	1基			○		・腐食、発錆 ・油漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	2年/回	15～20年
			蒸気タービン発電機	1基			○		・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・著しい左記の状態がないこと ・各種試験結果が管理値以内であること	・目視判断 ・発電用火力設備に関する技術基準	2年/回	15～20年
	7-1-3	潤滑装置	ポンプ類	1台			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・油漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	2年/回	10～15年
			電動機	1台			○		・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	2年/回	15～20年
			油タンク	1基			○		・腐食、発錆 ・油漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	2年/回	15～20年
			油冷却器	1台			○		・腐食 ・管束の詰まり	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	2年/回	5～10年
	7-1-4	グラント蒸気復水器	復水器本体	1基			○		・腐食 ・管束の詰まり	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	2年/回	5～10年
	7-1-5	タービンドレン回収ポンプ	ポンプ本体	1台	1台		○		・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	7-1-6-1	タービンバイパス装置	装置本体	1式				○	・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
	7-1-6-2	タービンバイパス消音器	消音器本体	1式		○			・腐食 ・管束の詰まり	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	5～10年
	7-1-7	発電機室天井走行ホイスト	ホイスト本体	1基			○		・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと ・法定点検	・目視判断	1年/回	15～20年
通風設備	8-1	押込送風機	送風機本体	2基			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・振動値90μm以下	1年/回	15～20年
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
	8-2	二次送風機	送風機本体	2基			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・振動値90μm以下	1年/回	15～20年
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
	8-3	燃焼用空気予熱器	空気予熱器本体	2基			○		・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
			伝熱管	2式				○	・腐食 ・蒸気漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	7～10年
	8-4	風道	風道	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・保温材不良、結露跡	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	2年/回	10～15年
	8-5	風道ダンパ	風道ダンパ	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・空気漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1～2年/回	15～20年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
通風設備	8-6	煙道	煙道	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・保温材不良、結露跡	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	2年/回	10～15年
	8-7	煙道ダンパ	煙道ダンパ	2式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・空気漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1～2年/回	15～20年
	8-8	誘引通風機	送風機本体	2基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・振動値65μm以下	1年/回	15～20年
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
	8-9-1	白煙防止用空気予熱器	空気予熱器本体	2基				○	・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	15～20年
			伝熱管	2式				○	・腐食 ・蒸気漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	7～10年
	8-9-2	白煙防止用押込送風機	送風機本体	2基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・振動値65μm以下	1年/回	15～20年
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
灰出し設備	9-1-1	落下灰搬出装置	コンベア本体	2基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:チェーン
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-1-2-1	No.1焼却灰搬出装置	フラッパダンパ	2台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-1-2-2	No.2焼却灰搬出装置	コンベア本体	2基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:チェーン
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-1-3	No.1焼却灰振分装置	フラッパダンパ	2台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-1-4	No.1焼却灰搬送装置A/B	コンベア本体	2基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:チェーン
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
灰出し設備	9-1-4	No. 2焼却灰搬送装置A/B	コンベア本体	2基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:チェーン
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-1-4	No. 3焼却灰搬送装置A/B	コンベア本体	2基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:チェーン
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-1-5	磁選機	コンベア本体	1台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:ベルト
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-1-6	振動篩	コンベア本体	1台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:チェーン
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-1-7	No. 2焼却灰振分装置	フラップダンパ	1台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-1-8-3	No. 2細粒灰搬送装置	コンベア本体	1基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:チェーン
			電動機	1台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-1-9	不燃物排出装置	コンベア本体	1基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:チェーン
			電動機	1台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-1-10	磁性物排出装置	コンベア本体	1基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:チェーン
			電動機	1台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
灰出し設備	9-2-1	灰バイパス搬送装置	コンベア本体	1基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:チェーン
			電動機	1台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-2-2	灰バイパス排出装置	コンベア本体	1基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:チェーン
			電動機	1台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-3-1-1	エコノマイザダスト搬送装置	コンベア本体	2基				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:チェーン
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-3-1-2	エコノマイザダスト振分装置	フラツパダンパ	2台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-4-1-1,3	1/2号1段目集じんダスト搬送装置	コンベア本体	2台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:ベルト
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-4-1-2,4	1/2号1段目集じんダスト振分装置	バグフィルタ本体	1式				○	・腐食、摩耗、損傷、変形	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
	9-4-1-5	No. 1-1/2段目集じんダスト搬送装置A	コンベア本体	2台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:ベルト
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-4-1-7	No. 2-1/2段目集じんダスト搬送装置	コンベア本体	2台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:ベルト
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-4-1-8	No. 3-1/2段目集じんダスト搬送装置	コンベア本体	2台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:ベルト
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
灰出し設備	9-4-1-9	No. 1/2異物除去装置	コンベア本体	2台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-4-1-10	No. 4-1/2段目集じんダスト搬送装置	コンベア本体	2台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:ベルト
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-4-2-8	No. 5-1段目集じんダスト搬送装置	コンベア本体	1台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:ベルト
			電動機	1台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-6-1, 2	No. 1/No. 2集じん灰貯留槽	槽本体	1基				○	・腐食、発錆 ・ダスト漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～20年
	9-6-3, 4	No. 1/2集じん灰定量供給装置	テーブルフィーダー本体	1台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	2年/回	10年
			電動機	3台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	2年/回	15～20年
	9-6-5	集じん灰搬送装置	コンベア本体	1台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:ベルト
			電動機	1台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-6-6	クッションホッパ	槽本体	1基				○	・腐食、発錆 ・ダスト漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～20年
	9-6-7	混練機	混練機本体	1台	1台			○	・腐食、摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと ・パドル摩耗量が管理値以内であること	・目視判断 ・スクリー: 図面寸法162.5mm ・パドル: 図面寸法: 162mm	1年/回	10～15年
			減速機	1台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・油漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
	9-6-8	養生コンベヤ	コンベア本体	2台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年:ケーシング 5年:ベルト
			電動機	2台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	10年
	9-6-9	キレート剤貯留槽	槽本体	1基				○	・腐食、発錆 ・ダスト漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～20年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
灰出し設備	9-6-10	キレート剤注入ポンプ	ポンプ本体	2台	2台		○		・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	2台	2台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	9-6-12	加湿水貯留槽	槽本体	1基				○	・腐食、発錆 ・ダスト漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～20年
	9-6-13	加湿水注入ポンプ	ポンプ本体	1台	1台		○		・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	9-7-7	積出しクレーン	クレーン本体	2基			○		・摩耗、損傷、亀裂	・著しい左記の状態がないこと ・法定点検	・目視判断	1年/回	15～20年
			クラブケット	2基	1基		○		・摩耗、破損、断裂	・著しい左記の状態がないこと ・ワイヤーの断線がクレーン構造規格内	・素線の破断したものが総素線数の10%未満	1年/回	5～10年
			走行レール	1式			○		・腐食、摩耗、たわみ ・ブレーキ作動状況	・著しい左記の状態がないこと	・クレーンの年次定期自主検査実施要領	1年/回	15～20年
			電動機	2台			○		・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
	9-7-8	搬出用計量機	計量機本体	1基			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・法定検査	・著しい左記の状態がないこと ・検定公差が計量法基準値内であること	・目視判断 ・検定公差	1年/回	15～20年
	9-7-9	搬出ホッパ	本体	1基				○	・腐食、発錆 ・ダスト漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～20年
給水設備	10-2-11	プラント系高架水槽	槽本体	1基				○	・腐食、発錆 ・ダスト漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～20年
	10-2-12	機器冷却水高架水槽	槽本体	1基				○	・腐食、発錆 ・ダスト漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～20年
	10-2-13	再利用水高架水槽	槽本体	1基				○	・腐食、発錆 ・ダスト漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～20年
	10-2-14	減温水槽	槽本体	1基				○	・腐食、発錆 ・ダスト漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～20年
	10-3-2	生活系貯水槽送水ポンプ	ポンプ本体	1台	1台		○		・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	10-3-4	リサイクルブラザ送水ポンプ	ポンプ本体	1式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1式				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	10-3-5	プラント用水揚水ポンプ	ポンプ本体	1台	1台		○		・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
給水設備	10-3-6	プラント用水送水ポンプ	ポンプ本体	1台	1台		○		・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	10-3-7	機器冷却水揚水ポンプ	ポンプ本体	1台	1台		○		・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	10-3-8	再利用水揚水ポンプ	ポンプ本体	1台	1台		○		・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	10-3-9	洗車水ポンプ	ポンプ本体	1台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	10-3-10	純水装置送水ポンプ	ポンプ本体	1台	1台		○		・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	10-3-11	放水銃ポンプ	ポンプ本体	1台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	10-3-14	洗車排水ポンプ	ポンプ本体	1台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	10-3-15	放流ポンプ	ポンプ本体	1台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温+40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	10-3-16	機器冷却水冷却塔	塔本体	1基				○	・腐食、摩耗、損傷、変形	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年
			送風機	3台				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～15年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
給水設備	10-3-16	機器冷却水冷却塔	電動機	3台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	1年/回	15～20年
	10-3-17	冷却水薬注器	ポンプ本体	1組				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1式				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
排水処理設備	11-2-3	ごみピット汚水移送ポンプ	ポンプ本体	1台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	11-2-3	ごみ汚水ろ過器	ストレーナ本体	1台		○			・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台		○			・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	11-2-4	ろ液貯留槽	槽本体	1基				○	・腐食、発錆 ・ダスト漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10～20年
	11-2-5	ろ液噴霧ポンプ	ポンプ本体	1台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	11-2-6	ろ液噴霧器	ノズル本体	2基			○		・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
	11-3-3	灰汚水排水ポンプ	ポンプ本体	1台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	11-4	有機系排水処理設備	ポンプ等本体	1台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1台	1台			○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	11-5	無機系排水処理設備	ポンプ等本体	1式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1式				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
排水処理設備	11-6	薬品供給装置	ポンプ等本体	1式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1式				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	11-8	膜処理設備	ポンプ等本体	1式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1式				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	11-9	ダイオキシン類分解設備	ポンプ等本体	1式				○	・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断 ・70度以下または室温＋40度以下	3年/回	10～15年
			電動機	1式				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温＋40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
電気設備	12-2-1	特高受電盤	盤本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	12-2-2	特高変圧器	盤本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	12-3-1	高圧受電盤	盤本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	12-3-2	高圧配電盤	盤本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	12-3-2-1	プラント動力変圧器	変圧器本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	12-3-3-3	建築動力変圧器	変圧器本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	12-3-3-4	照明変圧器	変圧器本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	12-4	電力監視盤	盤本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	12-6-1	プラント動力配電盤	盤本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
電 気 設 備	12-6-2	装置付属制御盤(灰溶融含む)	盤本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	12-6-3	現場操作盤	操作箱本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	12-7-1	蒸気タービン発電機	発電機本体	1基				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・著しい左記の状態がないこと ・各種試験結果が管理値以内であること	・目視判断 ・発電用火力設備に関する技術基準	1～2年/回	15～20年
	12-7-2	タービン起動盤	盤本体	1面				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	12-7-3	発電機盤	盤本体	1面				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	12-8	非常用発電装置	発電機本体	1基				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・著しい左記の状態がないこと ・各種試験結果が管理値以内であること	・目視判断 ・発電用火力設備に関する技術基準	1～2年/回	15～20年
	12-9-1	直流電源装置	装置本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	12-8-2	無停電電源装置	装置本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
計 装 設 備	13-2	分散形プロセス制御システム	装置本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	13-3-1	中央監視盤	盤本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	13-3-2	中央操作盤	盤本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	13-4	上位計算機システム	装置本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	13-5-1	計量・車両管制自動運転システム	装置本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年

クリーン２１長谷山 機器別管理基準

保全方式・・・BM:事後保全 TBM:時間基準保全 CBM:状態基準保全

設備名	No.	機器名称	主要部材	数量		保全方式			管理基準				参考 耐用年数
				常用	予備	B M	T B M	C B M	診断項目	評価方法	管理値例	診断頻度	
計 装 設 備	13-5-2	ごみクレーン自動運転システム	装置本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	13-5-3	積出クレーン自動運転システム	装置本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	13-6	工業用テレビ装置	装置本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	13-7	環境測定装置	装置本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	13-8	公害監視データ表示装置	装置本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
	13-9	工業計器	装置本体	1式				○	・外観点検 ・絶縁抵抗測定 ・作動確認	・機能が正常であること ・各種試験結果が管理値以内であること	・電技解釈による基準値	1年/回	10～20年
雑 設 備	14-1	計装用空気圧縮機	圧縮機	1台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・異音、温度 ・定格電流	・著しい左記の状態が無いこと ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・目視判断	2年/回	10～12年
			空気槽	1基	1基			○	・摩耗、腐食	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・圧力容器構造規格	1年/回	10～12年
	14-2	雑用空気圧縮機	圧縮機	1台	1台			○	・摩耗、損傷、亀裂 ・異音、温度 ・定格電流	・著しい左記の状態が無いこと ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・目視判断	2年/回	10～12年
			空気槽	1基	1基			○	・摩耗、腐食	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・圧力容器構造規格	1年/回	10～12年
	14-3	煙道掃除用煤吹装置	ノズル本体	1式		○			・摩耗、損傷、亀裂 ・水漏れの有無	・著しい左記の状態がないこと ・管理値内であること	・目視判断		10～15年
	14-4	真空掃除装置	ブロウ	1台		○			・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断 ・振動値104 μm以下		15～20年
			バグフィルタ	1台		○			・摩耗、損傷、亀裂 ・作動異常の有無	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断		10年
	14-14	環境集じん器	バグフィルタ本体	1基				○	・腐食、摩耗、損傷、変形	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断	1年/回	10年
			ろ布	1式				○	・劣化 ・クリーンルームへの吹き漏れ	・著しい左記の状態がないこと ・サンプリングによる物性試験	・目視判断 ・排ガス分析値が管理基準値以下であること	1年/回	3～5年
			電動機	1台				○	・振動、温度 ・定格電流 ・絶縁抵抗測定	・管理値内であること ・定格電流値以下であること ・規定された値以上であること	・70度以下または室温+40度以下 ・電気設備に係わる技術基準	3年/回	15～20年
	14-15	エアシャワー装置	バグフィルタ本体	3基		○			・腐食、摩耗、損傷、変形	・著しい左記の状態がないこと	・目視判断		10年

【資料 4】

設備・機器の健全度

令和 5 年 3 月

健全度の評価は、（その1～11）に示すとおりである。

健全度の評価（その1）

設備名称	機器名称	No.	数量	設置場所		設備・装置の状況		判定
				階	室名等	1号（A）	2号（B）	
受入供給設備	ごみ計量機(受入用)	1	2	別棟	管理棟1F	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	プラットホーム	2	1	1F	プラットホーム	特に支障は見られない。		4
	プラットホーム出入口扉	3	2	1F	プラットホーム	出口扉に開閉不良が確認される。		3
	エアカーテン	4	1	1F	プラットホーム	特に支障は見られない。		4
	ごみ投入扉	5	4	1F	プラットホーム	シールに劣化が見受けられる。		2
	ごみ投入扉 (ダンピングボックス用)	6	1	1F	プラットホーム	特に支障は見られない。		4
	ダンピングボックス	7	1	1F	プラットホーム	特に支障は見られない。		4
	不適合物取出機込装置	8	1	1F	ストックヤード	経年的な劣化が見られる。		3
	切断機	9	1	1F	プラットホーム	経年的な劣化が見られる。		3
	ごみビット	10	1			特に支障は見られない。		4
	ごみビット消火用放水銃	11	2	5F	ごみビット	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	ごみクレーン	12	2	6F	ごみビット上部	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	窓自動洗浄装置	13	1	2F	窓自動洗浄装置/ ごみクレーン操作室	特に支障は見られない。		4
	脱臭装置	14	1	4F	脱臭装置/ 真空掃除装置室	特に支障は見られない。 (H25に活性炭交換)		4
	脱臭用送風機	15	1	4F	脱臭装置/ 真空掃除装置室	特に支障は見られない。		4
	消臭剤噴霧装置	16	1	1F	薬液噴霧装置 スペース	特に支障は見られない。		4
	殺虫剤噴霧装置	17	1	1F	薬液噴霧装置 スペース	特に支障は見られない。		4
燃焼設備	ごみ投入ホッパ・シュート	18	2	5F	ホッパステージ	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	給じん装置	19	2	3F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	燃焼装置	20	2	2・3F	炉室	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	炉駆動用油圧装置	21	2	1F	炉駆動用油圧装置室	電動機の老朽化が確認される。	電動機の老朽化が確認される。	2
	焼却炉	22	2	2・3F	炉室	助燃バーナー周辺の耐火物の脱落。 乾燥帯側壁上部に耐火物の欠損がある。	助燃バーナー周辺の耐火物の脱落。 乾燥帯側壁上部に耐火物の欠損がある。	2
	炉ケーシング	23	2		炉室	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	落じんホッパシュート	24	2		落じん下火格子下	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	灯油ストレージタンク	25	1	別棟		特に支障は見られない。		4
	灯油移送ポンプ	26	2	別棟		特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	助燃バーナ	27	2	3F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	No.1再燃バーナ	28	2	4F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	No.2再燃バーナ	29	2	3F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2

4：支障なし、3：要観察、2：要整備、1：要更新

健全度の評価（その2）

設備名称	機器名称	No.	数量	設置場所		設備・装置の状況		判定
				階	室名等	1号 (A)	2号 (B)	
燃 焼 ガ ス 冷 却 設 備	ボイラ本体	30	2	2～6F	炉室	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	過熱器	31	2	4・5F	炉室	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	エコノマイザ	32	2	5・6F	炉室	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	エコノマイザダストホップシュート	33	2	4F	排ガスヤード	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	エコノマイザダスト搬出装置 (スクリーンコンベヤ)	34	2	4F	排ガスヤード	電動機の老朽化が確認される。	電動機の老朽化が確認される。	2
	エコノマイザダスト搬出装置 (ロータリーバルブ)	35	2	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	ボイラケーシング	36	2	2～6F	炉室	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	ボイラダストホップシュート	37	2	3・4F	炉室	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	ボイラダスト搬出装置	38	2	3F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	ボイラダスト搬出装置 冷却用送風機	39	2	1F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	ボイラ用安全弁消音器	40	2	6F	炉室	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	スートブロウ	41	2	4F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	スートブロウバジ用送風機	42	2	3F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	No.1ボイラ給水ポンプ	43	2	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	No.2ボイラ給水ポンプ	44	2	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	脱気器	45	1	4F	炉室	特に支障は見られない。		4
	脱気器用安全弁消音器	46	1	5F	炉室	特に支障は見られない。		4
	脱気器給水ポンプ	47	2	B1F	送風機/ 空気圧縮機室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	清缶剤注入装置	48	1	1F	炉室	経年的な劣化が見られる。		3
	脱酸剤注入装置	49	1	1F	炉室	経年的な劣化が見られる。		3
	復水処理剤注入装置	50	1	1F	炉室	経年的な劣化が見られる。		3
	ボイラ水保管剤注入装置	51	1	1F	炉室	特に支障は見られない。		4
	連続ブロー装置	52	2	1F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	ブロータンク	53	1	1F	炉室	経年的な劣化が見られる。		3
	ブロー水冷却装置	54	1	1F	炉室	経年的な劣化が見られる。		3
	缶水用サンプリングクーラ	55	2	1F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	給水用サンプリングクーラ	56	1	B1F	送風機/ 空気圧縮機室	経年的な劣化が見られる。		3

4：支障なし、3：要観察、2：要整備、1：要更新

健全度の評価（その3）

設備名称	機器名称	No.	数量	設置場所		設備・装置の状況		判定
				階	室名等	1号（A）	2号（B）	
燃 焼 ガ ス 冷 却 設 備	復水用サンプリングクーラ	57	1	B1F	送風機/ 空気圧縮機室	経年的な劣化が見られる。		3
	高圧蒸気だめ	58	1	4F	炉室	特に支障は見られない。		4
	低圧蒸気復水器	59	1	3F	低圧蒸気復水器置場	フィンに凹みを確認される。		2
	吸気サイレンサ	60	1	3F	低圧蒸気復水器置場	特に支障は見られない。		4
	排気復水タンク	61	1	1F	炉室	特に支障は見られない。		4
	排気復水ポンプ	62	2	1F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	抽気エジェクタコンデンサ	63	1	1F	炉室	バルブに腐食を確認される。		2
	復水タンク	64	1	1F	炉室	特に支障は見られない。		4
	純水装置	65	1	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。		3
	亜硫酸ソーダ溶解槽	66	1	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。		3
	亜硫酸ソーダ注入ポンプ	67	2	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	イオン交換塔	68	1	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。		3
	塩酸計量槽	69	1	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。		3
	ガスシール槽	70	1	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。		3
	苛性ソーダ計量槽	71	1	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。		3
	純水廃液移送ポンプ	72	2	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	混合用ブロワ	73	2	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	純水廃液槽	74	1	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。		3
	純水装置用 塩酸移送ポンプ	75	2	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	純水装置用 苛性ソーダ移送ポンプ	76	2	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	純水タンク	77	1	B1F	ポンプ室	上部に発錆を確認される。		3
	純水移送ポンプ	78	2	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。		3
排 ガ ス 処 理 設 備	減温塔	79	2	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	No.1 減温塔用噴霧ノズル	80	2	6F	排ガスヤード	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	減温水ポンプ	81	3	B1F	前処理設備室	経年的な劣化が見られる。		3
	1段目ろ過式集じん器	82	2	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	排ガス処理用空気圧縮機	83	2	B1F	送風機/ 空気圧縮機室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	消石灰サイロ	84	1	4F	炉室	ハンマリング痕を確認される。大きな問題はないと判断する。		3

4：支障なし、3：要観察、2：要整備、1：要更新

健全度の評価（その４）

設備名称	機器名称	No.	数量	設置場所		設備・装置の状況		判定
				階	室名等	1号（A）	2号（B）	
排ガス処理設備	消石灰定量供給装置	85	2	3F	薬品供給ブロワ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	特殊助剤サイロ	86	1	4F	炉室	特に支障は見られない。		4
	特殊助剤定量供給装置	87	4	3F	薬品供給ブロワ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	1段目用薬品供給ブロワ	88	3	3F	薬品供給ブロワ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	2段目用薬品供給ブロワ	89	3	3F	薬品供給ブロワ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	2段目ろ過式集じん器	90	2	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	脱硝反応塔	91	2	4F	排ガスヤード	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	脱硝触媒	92	2	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	ガス再加热器	93	2	6F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	アンモニア注入器	94	2	6F	排ガスヤード	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	アンモニアポンベ (アンモニア供給設備)	95	1	別棟	アンモニアポンベ室	特に支障は見られない。		4
	アンモニア希釈用空気送風機	96	2	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
余熱利用設備	バージ用空気加熱器	97	2	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	蒸気タービン	98	1	1F	蒸気タービン 発電機室	経年的な劣化が見られる。		3
	调速装置	99	1	1F	蒸気タービン 発電機室	経年的な劣化が見られる。		3
	ターニング装置	100	1	1F	蒸気タービン 発電機室	経年的な劣化が見られる。		2
	減速装置	101	1	1F	蒸気タービン 発電機室	経年的な劣化が見られる。		3
	潤滑装置	102	1	1F	蒸気タービン 発電機室	経年的な劣化が見られる。		3
	グラント蒸気復水器	103	1	1F	蒸気タービン 発電機室	経年的な劣化が見られる。		3
	タービンドレン回収ポンプ	104	2	1F	蒸気タービン 発電機室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	タービンバイパス装置	105	1	3F	低圧蒸気復水器置場	経年的な劣化が見られる。		3
	タービンバイパス消音器	106	1	3F	低圧蒸気復水器置場	経年的な劣化が見られる。		3
通風設備	発電機室用天井走行クレーン	107	1	1F	蒸気タービン 発電機室	経年的な劣化が見られる。		2
	押込送風機	108	2	4F	送風機室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	二次送風機	109	2	4F	送風機室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	燃焼用空気予热器	110	2	2F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	風道	111	2	2～6F	炉室等	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	風道ダンパ	112	2	2・4F	炉室及び 排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3

4：支障なし、3：要観察、2：要整備、1：要更新

健全度の評価（その5）

設備名称	機器名称	No.	数量	設置場所		設備・装置の状況		判定
				階	室名等	1号（A）	2号（B）	
通風設備	煙道	113	2	1～6F	炉室等	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	煙道ダンパ	114	2	3・5F	炉室等	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	誘引通風機	115	2	1F	誘引通風機室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	白煙防止用空気予熱器	116	2	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	白煙防止用押込送風機	117	2	3F	白煙防止用送風機室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	煙突	118	1			点検口付近に堆積物がみられる。煙突下部に、水たまりが生じている。		3
灰出し設備	落下灰搬出装置	119	2	1F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	No.1焼却灰搬出装置	120	2	1F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	No.2焼却灰搬出装置	121	2	1F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	焼却灰振分装置	122	2	B1F	前処理設備室	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	No.1焼却灰搬送装置	123	2	B1F	前処理設備室	シュート部の腐食が確認される。	シュート部の腐食が確認される。	2
	No.2焼却灰搬送装置	124	2	B1F	前処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	No.3焼却灰搬送装置	125	2	1F	前処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	磁選機	126	2	1F	前処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	振動篩	127	2	1F	前処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	No.2焼却灰振分装置	128	2	2F	前処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	不燃物排出装置	129	1	B1F	前処理設備室	ケーシング、内部に発錆が確認される。		2
	磁性物排出装置	130	1	B1F	前処理設備室	ケーシングに発錆が確認される。		2
	灰バイパス搬送装置	131	1	1F	前処理設備室	経年的な劣化が見られる。		2
	灰バイパス搬出装置	132	1	1F	前処理設備室	経年的な劣化が見られる。		2
	エコノマイザダスト搬送装置	133	2	4F	排ガスヤード（エコ下）	電動機の老朽化が確認される。	電動機の老朽化が確認される。	2
	エコノマイザダスト振分装置	134	2	4F	排ガスヤード（エコ下）	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	1段目集じんダスト搬送装置	135	2	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	1段目集じんダスト振分装置	136	2	4F	排ガスヤード（エコ下）	経年的な劣化が見られる。	応急対策が恒久使用されている。	3
	No.1～1段目集じんダスト搬送装置A	137	1	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。		2
	No.1～1段目集じんダスト搬送装置B	138	1	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。		2
	No.2～1段目集じんダスト搬送装置	139	1	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。		2
	No.3～1段目集じんダスト搬送装置	140	1	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。		2

4：支障なし、3：要観察、2：要整備、1：要更新

健全度の評価（その6）

設備名称	機器名称	No.	数量	設置場所		設備・装置の状況		判定
				階	室名等	1号（A）	2号（B）	
灰出し設備	No.1異物除去装置	141	1	4F	集じん灰処理装置室	経年的な劣化が見られる。		3
	No.4-1段目 集じんダスト搬送装置	142	1	4F	集じん灰処理装置室	経年的な劣化が見られる。		2
	1号2段目 集じんダスト搬送装置	143	1	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。		2
	2号2段目 集じんダスト搬送装置	144	1	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。		2
	No.1-2段目 集じんダスト搬送装置	145	1	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。		2
	No.2-2段目 集じんダスト搬送装置	146	1	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。		2
	No.3-2段目 集じんダスト搬送装置	147	1	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。		2
	No.4-2段目 集じんダスト搬送装置	148	1	4F	排ガスヤード	経年的な劣化が見られる。		2
	No.2異物除去装置	149	1	4F	集じん灰処理装置室	経年的な劣化が見られる。		3
	No.5-2段目 集じんダスト搬送装置	150	1	3F	集じん灰処理装置室	経年的な劣化が見られる。		2
	環境集じんダスト搬送装置	151	1	1F	灰溶融設備室	特に支障は見られない。		4
	集じん灰貯留槽	152	2	3F	集じん灰処理装置室	ハンマリング痕が確認される。	ハンマリング痕が確認される。	3
	集じん灰定量供給装置	153	2	3F	集じん灰処理装置室	装置の老朽化が確認される。	装置の老朽化が確認される。	2
	集じん灰搬送装置	154	1	3F	集じん灰処理装置室	経年的な劣化が見られる。		3
	クッションホッパ	155	1	2F	集じん灰処理装置室	ハンマリングによるケーシングの凹みが確認される。		3
	混練機	156	2	2F	集じん灰処理装置室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	養生コンベヤ	157	2	1F	集じん灰処理装置室	発錆が確認される。 スカートゴムに摩耗があり、落じん物が確認される。	経年的な劣化が見られる。	3
	キレート剤貯留槽	158	1	1F	集じん灰処理装置室	特に支障は見られない。		4
	混合灰用キレート剤 注入ポンプ	159	2	1F	集じん灰処理装置室	特に支障は見られない。		4
	混合灰用キレート剤 注入ポンプ	160	2	1F	集じん灰処理装置室	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	加温水貯留槽	161	1	1F	集じん灰処理装置室	特に支障は見られない。		4
	加温水注入ポンプ	162	2	1F	集じん灰処理装置室	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	灰ビット	163	1	B2～ B1F	灰ビット部	一部コンクリートが剥離している箇所がある。		3
	不燃物ビット	164	1	B2～ B1F	灰ビット部	特に支障は見られない。		4
	磁性物ビット	165	1	B2～ B1F	灰ビット部	一部コンクリートが剥離している箇所がある。		3
	集じん灰処理物ビット	166	1	B2～ B1F	灰ビット部	特に支障は見られない。		4
	積出しクレーン	167	2	2F	灰ビット等上部	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	灰積出し場	168	1	B1F	灰ビット部	特に支障は見られない。		4
	搬出用計量機	169	1	B1F	灰ビット部	経年的な劣化が見られる。		3

4：支障なし、3：要観察、2：要整備、1：要更新

健全度の評価（その 7）

設備名称	機器名称	No.	数量	設置場所		設備・装置の状況		判定
				階	室名等	1号 (A)	2号 (B)	
給水設備	搬出ホッパ	170	1	B1F	灰ビット部	特に支障は見られない。		4
	市水受水槽	171	1	別棟	別棟	特に支障は見られない。		4
	生活系貯水槽	172	1	B1F	生活系貯水槽室	特に支障は見られない。		4
	プラント系貯水槽	173	1	B1F		特に支障は見られない。		4
	機器冷却水槽	174	1	B1F		特に支障は見られない。		4
	再利用水槽	175	1	B1F		特に支障は見られない。		4
	洗車水槽	176	1	別棟	排水処理設備水槽スペース	特に支障は見られない。		4
	洗車排水槽	177	1	別棟	排水処理設備水槽スペース	特に支障は見られない。		4
	プラント系高架水槽	178	1	5F	高架水槽置場室	特に支障は見られない。		4
	機器冷却水高架水槽	179	1	5F	高架水槽置場室	特に支障は見られない。		4
	再利用水高架水槽	180	1	5F	高架水槽置場室	特に支障は見られない。		4
	減温水槽	181	1	B1F	前処理設備室	特に支障は見られない。		4
	生活用水加圧給水ユニット	182	1	B1F	生活系貯水槽室	経年的な劣化が見られる。		3
	生活系貯水槽送水ポンプ	183	2	B1F	生活系貯水槽室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	プラント用水揚水ポンプ	184	2	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	プラント用水送水ポンプ	185	2	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	機器冷却水揚水ポンプ	186	2	B1F	送風機/ 空気圧縮機室	冷却塔への配管に析出が確認される。	一部腐食箇所が確認される。	2
	再利用水揚水ポンプ	187	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	洗車水ポンプ	188	2	別棟	別棟ポンプ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	純水装置送水ポンプ	189	2	B1F	ポンプ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	放水銃ポンプ	190	1	B1F	ポンプ室	配管が老朽化している。		3
	消火栓ポンプ	191	1	B1F	ポンプ室	特に支障は見られない。		4
	散水ポンプ	192	1	B1F	ポンプ室	特に支障は見られない。		4
	洗車排水ポンプ	193	1	別棟	別棟ポンプ室	経年的な劣化が見られる。		3
	機器冷却水冷却塔	194	1	6F	冷却塔置場	経年的な劣化が見られる。		3
	冷却水薬注器	195	1	B1F	送風機/ 空気圧縮機室	架台に腐食が確認される。		2

4：支障なし、3：要観察、2：要整備、1：要更新

健全度の評価（その8）

設備名称	機器名称	No.	数量	設置場所		設備・装置の状況		判定
				階	室名等	1号（A）	2号（B）	
排水処理設備	ごみビット汚水貯留槽	196	1	B2F	ごみビット汚水処理室下	特に支障は見られない。		4
	ごみビット汚水移送ポンプ	197	1	B2F	ごみビット汚水処理室下	経年的な劣化が見られる。		3
	ごみ汚水ろ過器	198	1	B1F	ごみビット汚水処理室	経年的な劣化が見られる。		3
	ろ液貯留槽	199	1	B2F	ごみビット汚水処理室下	特に支障は見られない。		4
	ろ液噴霧ポンプ	200	2	B2F	ごみビット汚水処理室下	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	ろ液噴霧器	201	2	3F	炉室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	灰汚水沈殿槽	202	1	B2F	汚水排水 ポンプ室下	特に支障は見られない。		4
	灰汚水槽	203	1	B2F	汚水排水 ポンプ室下	特に支障は見られない。		4
	灰汚水排水ポンプ	204	1	B2F	汚水排水 ポンプ室下	経年的な劣化が見られる。		3
	有機系スクリーン	205	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。		4
	有機系原水槽	206	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		3
	有機系原水ポンプ	207	2	B1F	排水処理設備室下	特に支障は見られない。	特に支障は見られない。	4
	有機系計量槽	208	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		3
	有機系中和槽	209	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		3
	生物処理水槽	210	1	B1F	排水処理設備室下	特に支障は見られない。		4
	有機系沈殿槽	211	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。		4
	有機系中間槽	212	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。		4
	有機系処理水移送ポンプ	213	2	B1F	排水処理設備室下	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	有機系凝集汚泥引抜ポンプ	214	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	消泡ポンプ	215	2	B1F	排水処理設備室下	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	曝気ブロワ	216	2	B1F	ブロワ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	無機系スクリーン	217	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。 （現在使用していない）		4
	無機系原水槽	218	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。		4
	無機系計量槽	219	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。		4
	無機系原水ポンプ	220	2	B1F	排水処理設備室下	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	反応槽	221	1	B1F	排水処理設備室 排水処理設備室下	経年的な劣化が見られる。		3
	無機系沈殿槽	222	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。		4

4：支障なし、3：要観察、2：要整備、1：要更新

健全度の評価（その 9）

設備名称	機器名称	No.	数量	設置場所		設備・装置の状況		判定
				階	室名等	1号（A）	2号（B）	
排水処理設備	無機系中和槽	223	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		3
	ろ過塔送水槽	224	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		3
	膜処理送水槽	225	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。		4
	処理水槽	226	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。		4
	汚泥濃縮槽	227	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。		4
	ろ過塔送水ポンプ	228	2	B1F	排水処理設備室下	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	膜処理原水送水ポンプ	229	2	B1F	排水処理設備室下	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	処理水移送ポンプ	230	2	B1F	排水処理設備室下	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	無機系凝集汚泥引抜ポンプ	231	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	濃縮汚泥移送ポンプ	232	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	砂ろ過塔	233	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	活性炭吸着塔	234	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	攪拌ブロワ	235	2	B1F	ブロワ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	逆洗ブロワ	236	1	B1F	ブロワ室	経年的な劣化が見られる。		2
	排気ファン	237	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	液体キレート溶解槽	238	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。		4
	塩酸貯槽	239	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		3
	苛性ソーダ貯槽	240	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。		4
	凝集剤貯槽	241	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。		4
	凝集助剤溶解槽	242	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		3
	メタノール貯槽	243	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。		4
	無機系液体キレート注入ポンプ	244	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	有機系塩酸注入ポンプ	245	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	無機系塩酸注入ポンプ(1)	246	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	無機系塩酸注入ポンプ(2)	247	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	膜洗浄用塩酸注入ポンプ	248	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	有機系苛性ソーダ注入ポンプ	249	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	無機系苛性ソーダ注入ポンプ	250	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3

4：支障なし、3：要観察、2：要整備、1：要更新

健全度の評価（その 10）

設備名称	機器名称	No.	数量	設置場所		設備・装置の状況		判定
				階	室名等	1号（A）	2号（B）	
排水処理設備	BOD酸化・硝化用苛性ソーダ注入ポンプ	251	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	膜洗浄用苛性ソーダ注入ポンプ	252	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	無機系凝集剤注入ポンプ	253	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	無機系凝集剤注入ポンプ	254	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	メタノール注入ポンプ	255	2	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
	膜処理原水槽	256	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。		4
	膜処理給水ポンプ	257	1	B1F	排水処理設備室下	経年的な劣化が見られる。		3
	RO膜給水槽	258	1	B1F	排水処理設備室	特に支障は見られない。		4
	膜処理ろ過ポンプ	259	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		2
	高圧ポンプ	260	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		2
	RO膜	261	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		3
	ダイオキシン類分解設備	262	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		3
	ダイオキシン類分解設備給水ポンプ	263	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		3
	MF膜	264	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		3
	オゾン発生装置	265	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		2
	触媒反応塔	266	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		3
	循環ポンプ	267	1	B1F	排水処理設備室	経年的な劣化が見られる。		3
	放流ポンプ	268	2	1F	管理棟ポンプ室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	3
電気・計装設備	特別高圧受電盤	269	1	1F	受変電室	経年的な劣化が見られる。		3
	特別高圧変圧器	270	1	1F	受変電室	特に支障は見られない。		4
	特別高圧変圧器2次盤	271	1	1F	受変電室	特に支障は見られない。		4
	高圧受電盤	272	1	2F	高圧電気室	経年的な劣化が見られる。		3
	高圧配電盤	273	1	2F	高圧電気室	特に支障は見られない。		4
	変圧器	274	1	2F	高圧電気室	特に支障は見られない。		4
	進相コンデンサ盤	275	1	2F	高圧電気室	経年的な劣化が見られる。		3

4：支障なし、3：要観察、2：要整備、1：要更新

健全度の評価（その 11）

設備 名称	機器名称	No.	数量	設置場所		設備・装置の状況		判定
				階	室名等	1号 (A)	2号 (B)	
電 気 ・ 計 装 設 備	配電盤	276	1	3F	低圧電気室	経年的な劣化が見られる。		3
	動力盤	277	1	3F	低圧電気室	経年的な劣化が見られる。		3
	現場制御盤	278	1			経年的な劣化が見られるほか、 発錆が確認される箇所がある。		2
	現場操作盤	279	1			経年的な劣化が見られるほか、 発錆が確認される箇所がある。		2
	溶接機用電源盤	280	1			特に支障は見られない。		4
	蒸気タービン発電機	281	1	1F	蒸気タービン発電機室	特に支障は見られない。		4
	タービン起動盤	282	1	1F	蒸気タービン発電機室	経年的な劣化が見られる。		3
	発電機盤	283	1	1F	蒸気タービン発電機室	経年的な劣化が見られる。		3
	非常用発電装置	284	1	1F	非常用発電装置室	経年的な劣化が見られる。		2
	直流電源装置	285	1	2F	高圧電気室	特に支障は見られない。		4
	無停電電源装置	286	1	2F	高圧電気室	特に支障は見られない。		4
	分散型計算機制御システム	287	1	2F	中央制御室	経年的な劣化が見られるほか、 全停電後に立上げが出来ない支障が確認される。		2
	工業用テレビ装置	288	1	2F	中央制御室	経年的な劣化が見られる。		2
	環境測定装置	289	1	3F,5F		経年的な劣化が見られる。		3
	気象観測計	290	1	屋上		経年的な劣化が見られる。		2
	工業計器	291	1	屋上		経年的な劣化が見られる。		3
	工場内露出配管	292		全域		減温水ポンプ配管に発錆が確認される。 2号炉用減温塔制御盤付近に発錆が確認される。 経年的な劣化が見られる。		3
	計装用空気圧縮機	293	2	B1F	送風機/ 空気圧縮機室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
	雑用空気圧縮機	294	2	B1F	送風機/ 空気圧縮機室	経年的な劣化が見られる。	経年的な劣化が見られる。	2
建 築 設 備	脱臭装置/真空掃除装置質	295	1	4F	4F脱臭装置/ 真空掃除装置質	特に支障は見られない。		4
	送風機/空気圧縮機室	296	1	B1F	B1F送風機/ 空気圧縮機室	特に支障は見られない。		4
	室外機/積出場横	297	4	B1F	B1F外部：積出場横	機械基礎が未設置。耐震上問題がある。		2

4：支障なし、3：要観察、2：要整備、1：要更新

【資料 5】

整備スケジュール

令和 5 年 3 月

整備スケジュール

令和 4 年度～令和 23 年度の整備スケジュールは、（その 1～その 19）に示すとおりである。

整備スケジュール（その 1）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
1	【受入供給設備】																					
-01	ごみ計量機(受入用)	2基	---	---	---	---	☆2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-02	ごみ投入扉	5基	---	---	☆5	---	---	○5	---	---	---	---	---	---	---	---	---	○5	---	---	---	---
-03	ダンピングボックス	1基	---	△	---	---	---	△	---	---	---	△	---	---	---	△	---	---	---	---	△	---
-04	切断機	1基	---	---	---	---	---	---	---	△	---	---	---	---	---	---	---	---	---	△	---	---
-05	ごみクレーン走行・横行レール	1式	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-06	ごみクレーンワイヤーロープ	1式	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-07	ごみクレーンバケット	2基	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-08	ごみクレーン走行・横行・巻上減速機	2基分	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-09	ごみクレーン走行・横行・巻上電動機	2基分	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-10	窓自動洗浄装置	1基		△	---	---	△	---	---	△	---	---	△	---	---	△	---		△	---		---
-11	脱臭装置	1基		△	---	---	---	---	△	---	---	---	---	☆	---	---	---	---	☆	---	---	---
-12	脱臭用送風機	1基		△	---	---	△	---	---	---	△	---	---	---	○	---	---	---	○	---	---	---
-13	薬液噴霧装置	1式		△	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	△	---	---	---	---	---	---
-14	ごみピット消火用放水銃	2基	○2																			

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その2）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
2	【燃焼設備】																					
-01	投入ホッパ・水冷ジャケット	2基	○	☆1	☆1	――	――	――	△2	○1	○1	○1	○2	――	△2	――	△2	○2	△2	――	△2	――
-02	給じん装置・燃焼装置	2炉分	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2
-03	上記油圧シリンダー	2炉分	△2	△2	△2	△2	☆8	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2
-04	炉駆動用油圧装置	2基	△2	△2	△2	△2	☆2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	○2	△2	△2	△2	△2	○2
-05	炉内耐火物・レンガ	2炉分	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2
-06	落じんホツパシュート	2炉分		☆1	☆1	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――
-07	助燃バーナ	2基	△2	△2	△2	△2	☆2	△2	△2	△2	○2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2
-08	再燃バーナ	4基	△4	△4	△4	△4	☆4	△4	△4	△4	○4	△4	△4	△4	△4	△4	△4	△4	△4	△4	△4	△4

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その3）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
3	【灰溶融設備】																					
-01	細粒灰切出装置	2基																				
-02	集じんダスト切出装置	1基																				
-03	溶融対象物搬送装置	4基																				
-04	溶融対象物計量装置	1基																				
-05	溶融対象物供給装置	2炉分																				
-06	溶融油圧装置	1基																				
-07	灰溶融炉 耐火物	2炉分																				
	大規模補修	2炉分																				
	中規模補修	2炉分																				
	小規模補修	2炉分																				
	側壁上部耐火物更新	2炉分																				
	出滓室耐火物更新	2炉分																				
	二次燃焼室耐火物更新	2炉分																				
-08	プラズマシステム	2基																				
-09	出滓室用バーナ	2基																				
-10	二次燃焼室用バーナ	2基																				

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その4）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
3	【灰溶融設備】																					
-11	ダスト掻取装置	2基																				
-12	電極継足装置	1基																				
-13	窒素製造装置	1基	△	--	△	--	☆	--	△	--	△	--	△	--	△	--	△	△	--	△	--	△
-14	スラグ冷却装置	2基																				
-15	スラグ搬送装置	3基																				
-16	スラグ破碎装置	1基																				
-17	スラグ冷却水循環ポンプ	2基																				
-18	スラグ冷却水沈殿・上澄み水槽	3槽																				
-19	スラグ冷却水熱交換器	1基																				
-20	SS分離装置	1基																				

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その5）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
-21	熔融炉用減温塔	2基																				
-22	熔融炉用減温塔噴霧ポンプ	2基																				
-23	熔融炉用集じん器	1基																				
-24	上記ろ布	1基分																				
-25	熔融押込送風機	2基																				
-26	排ガス冷却送風機	2基																				
-27	熔融誘引送風機	2基																				
-28	熔融機器冷却水加圧ポンプ	2基																				

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その6）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
4	【燃烧ガス冷却設備】																					
-01	ボイラ本体	2炉分	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2
	水管（旗形管）			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
-02	ボイラ耐火物	2炉分		○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2
-03	エコノマイザダスト搬出装置	2基		☆2	――	――	――	――	△2	――	――	――	△2	――	――	――	△2	△2	――	――	――	△2
-04	ボイラダスト搬出装置	2基	――	△2	――	△2	――	△2	――	☆2	――	△2	――	△2	――	△2	――	△2	――	――	――	――
-05	ボイラダスト搬出装置冷却用送風機	2基	――	△2	――	△2	――	――	――	☆2	――	△2	――	△2	――	△2	――	△2	――	△2	――	△2
-06	スートブロワ（長抜き形、定置型）	2炉分	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	☆2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2
-07	スートブロワパージファン	2基	――	△2	――	△2	――	☆2	――	△2	――	△2	――	△2	――	△2	――	△2	――	△2	――	△2
-08	ボイラ給水ポンプ	4基	△2	☆1	☆1	☆1	☆1	△2	△2	△2	△2	○2	○2	△2	△2	△2	○2	○2	△2	△2	△2	○2
-09	脱気器	1基	△	△	△	△	△	☆	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
-10	脱気器給水ポンプ	2基	△2	――	☆2	――	△2	――	△2	――	△2	――	△2	――	△2	――	△2	――	△2	――	△2	――

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その7）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
-11	ボイラ用薬液注入装置	1式	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-12	連続ブロー測定装置	1式	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-13	ブロータンク・ブロー水冷却装置	1式	---	△2	---	△2	---	△2	---	☆2	---	△2	---	△2	---	△2	---	△2	---	△2	---	△2
-14	高圧蒸気だめ	1基	△	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△
-15	低圧蒸気復水器	4基	△2	---	△1	---	△1	△1	△1	△1	---	△1	△1	---	△1	---	△1	△1	△1	△1	△1	△1
-16	排気復水タンク	1基	△	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△
-17	排気復水ポンプ	2基	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-18	復水タンク	1基	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△
-19	純水装置	1式																				
	イオン交換塔	1式	△	○	△	△	○	△	△	○	△	△	○	△	△	○	△	○	△	△	○	△
	各機器類	1式	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	○	△
	各ポンプ	1式	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	△	---	---	△	---	△	△	---	---	△
	各所配管	1式	△																			

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その8）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
5	【排ガス処理設備】																					
-01	減温塔	2基	△2	○2	○2	△2	△2	○2	△2	△2	○2	△2	△2	○2	△2	○2	△2	△2	○2	△2	○2	△2
-02	減温水ポンプ	3基	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-03	減温塔用ブロワ	3基																				
-04	1号炉1・2段目ろ過式集じん器	2基	△2	△2	△2	△2	○2	△2	☆1	△2	△2	△2	☆1	△2	△2	△2	△2	☆1	△2	△2	△2	△2
-05	上記ろ布	2基分	△2	---	---	---		☆1	☆1	---	---	---				---	☆1				☆1	---
-06	上記温風循環ファン	2基	△2	△2	△2	△2	○2	△2	☆1	△2	△2	△2	☆1	△2	△2	△2	△2	☆1	△2	△2	△2	△2
-07	2号炉1・2段目ろ過式集じん器	2基	△2	△2	△2	△2	○2	△2	☆1	△2	△2	△2	☆1	△2	△2	△2	△2	☆1	△2	△2	△2	△2
-08	上記ろ布	2基分	---	---	---	---		☆1	☆1	---	---	---				---	☆1				☆1	---
-09	上記温風循環ファン	2基	△2	△2	△2	△2	○2	△2	☆1	△2	△2	△2	☆1	△2	△2	△2	△2	☆1	△2	△2	△2	△2
-10	排ガス処理用空気圧縮機	2基	△1	△1	○1	○1	△1	△1	△1	△1	☆1	☆1	△1	△1	△1	△1	△1	△1	△1	△1	△1	△1

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その9）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
-11	消石灰サイロ	1基	△	---	---	△	---	---	△	---	---	△	---	---	△	---	---	△	---	△	△	---
-12	消石灰定量供給装置	1基	△	○	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
-13	特殊助剤サイロ	1基	△	---	---	△	---	---	△	---	---	△	---	---	△	---	---	△	---	△	△	---
-14	特殊助剤定量供給装置	1基	△	○	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
-15	1段目用薬品供給ブロワ	3基	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-16	2段目用薬品供給ブロワ	3基	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-17	熔融炉用薬品供給ブロワ	1基																				
-18	脱硝反応塔	2基	---	---	---	---	---	△2	○1	○1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-19	ガス再加熱器	2基	△2	△2	△2	△2	△2	○2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2
-20	アンモニア注入器	2基		---	---	○2	---	---	○2	---	---	○2	---	---	---	---	○2	---	---	---	---	○2
-21	アンモニア供給設備	1式	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	☆	△	△	△	△	☆	△	△	△	△
-22	アンモニア希釈用空気送風機	2基	---	---	---	---	---	---	---	---	○2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-23	パージ用空気加熱器	2基	---	---	---	△2	---	○2	---	---	---	---	---	△2	---	○2	---	---	---	△2	---	○2

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その１０）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
6	【余熱利用設備】																					
-01	蒸気タービン本体	1基	○	△	――	○	――	△	――	○	――	△	――	○	――	△	――	○	――	△	――	△
-02	調速装置	1基																				
-03	補機類	1式																				
-04	発電機用クレーン	1基	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――
-05	タービンバイパス装置	1基	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その１１）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
7	【通風設備】																					
-01	押込送風機	2基	△2	△2	○2	△2	△2	△2	△2	☆2	△2	△2	○2	△2	△2	△2	△2	○2	△2	△2	△2	△2
-02	二次送風機	2基	△2	△2	○2	△2	△2	△2	△2	☆2	△2	△2	○2	△2	△2	△2	△2	○2	△2	△2	△2	△2
-03	燃焼用空気予熱器	2基	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	○2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2
-04	風道	2式		○1	――	――	――	――	――	――	――	○1	○1	――	――	――	――	――	――	――	○1	○1
-05	風道ダンパ	2式		☆4	――	――	○	○	――	――	――	☆4	☆4	――	――	――	○	――	――	――	☆4	☆4
-06	煙道	2式		○2	○2	――	――	――	――	――	――	――	――	――	○1	○1	――	――	――	――	――	――
-07	煙道ダンパ	2式	――	☆2	☆2	△	――	△	――	△	――	△	――	△	――	△	△	――	――	△	――	△
-08	誘引通風機	2基	△2	△2	△2	△2	△2	△2	☆2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	○1	○1	△2	△2	△2	○1	○1
-09	白煙防止用空気予熱器	2基	△2	△2	△2	△2	△2	○2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2
-10	白煙防止用押込送風機	2基	△2	△2	○2	△2	△2	☆2	△2	△2	△2	○2	△2	△2	△2	○2	△2	△2	△2	△2	○2	△2

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その１２）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
8	【灰出し設備】																					
-01	落下灰搬出装置	2基	---	☆2		---	---	---	---	○2	---			---	---	○2	---		---	---	---	---
-02	焼却灰搬出装置(No.1)	2基	△2	☆2	---	○2	---	○2	---	○2	---	○2	---	○2	---	○2	---	---	---	---	---	---
-02	焼却灰搬出装置(No.2)	2基	---	---	---	☆2	---	---	---	---	○2	---	---	---	---	○2	---	---	---	---	○2	---
-02	1号1段目集じんダスト搬送装置											△1					△1					△1
-02	2号1段目集じんダスト搬送装置											△1					△1					△1
-02	No.1焼却灰振分装置	2基	---	---	---	---	☆2	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-03	No.1焼却灰搬送装置A,B	2基	---	---	---	---	☆2	---	---	---	---	○2	---	---	---	---	○2	---	---	---	---	○2
-04	No.2焼却灰搬送装置A,B	2基	---	---	---	---	☆2	---	---	---	---	○2	---	---	---	---	○2	---	---	---	---	○2
-05	No.3焼却灰搬送装置A,B	2基																				
-06	磁選機	2基	---	○2	---	---	---	☆2	---	---	○2	---	---	○2	---	---	○2	---	---	○2	---	---
-07	振動篩	2基		☆1	☆1	---	△2	---	△2	---	△2	---	○2	---	△2	---	△2	---	○2	---	○2	---
-08	No.1細粒灰搬送装置A,B	2基																				
-09	No.2細粒灰搬送装置	1基																				
-10	不燃物排出装置	1基	---	---	☆	---	---	---	---	---	○	---	---	---	---	○	○	---	---	---	○	---
-10	磁性物排出装置	1基	---	---	---	---	○	---	---	---	---	---	○	---	○	---	---	---	---	---	○	---
-10	灰バイパス搬送装置	1基																				

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その１３）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
-11	灰バイパス排出装置	1基	---	---	○	---	---	---	---	---	○	---	---	○	---	---	---	---	○	---	---	---
-12	エコマイザダスト搬送装置	1基		---	☆2	---	---	---	---	---	---	---	☆2	---	---	---	---	☆2	---	---	---	---
-12	エコマイザダスト振分装置	2基	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-12	集じんダスト搬送処理装置	14基	△1	☆3	☆3	☆4	☆3	---	---	---	---	○4	○4	○4	○2	---	---	○4	○4	○2	---	---
-13	異物除去装置(No.1、No.2)	2基	△1	---	☆2	---	---	△2	---	---	△2	---	---	△2	---	---	△2	---	---	△2	---	---
-14	熔融ダスト搬送装置	3基	/	/	/	/	/	/	△1	/	/	/	/	/	/	/	△1	/	/	/	/	△1
-15	集じん灰処理装置	1式	---	---	---	---	---	△	---	---	☆	---	---	△	---	---	○	---	---	△	---	---
	クッションホツパ		△																			
	加湿水貯留槽		△																			
-16	混練機	2基	△2	○2	△2	△2	○2	○2	△2	△2	△2	☆1	☆1	△2	△2	○2	○2	☆1	△2	△2	○2	○2
-17	養生コンベヤ	2基	△2	---	---	---	△2	---	---	---	☆2	---	---	---	○2	---	---	---	---	---	○2	---
-17	各所シュート	1式	△1	☆	---	---	---	△2	☆	☆	☆	---	---	---	---	---	---	---	---	---	☆	☆

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その 14）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
-18	積出クレーン走行・横行レール	1式	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――
-19	積出クレーンバケット	2台	△1	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――
-20	積出クレーン走行・横行・巻上減速機	2基分	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――
-21	積出クレーン走行・横行・巻上電動機	2基分	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――
-22	搬出用計量機	1基	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――
-23	搬出ホツハ [°]	1基	――	――	――	――	――	△2	――	――	――	――	○	――	――	――	――	――	――	――	○	――

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その 15）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
9	【給水設備】																					
-01	プラント系高架水槽	1基																				
-02	機器冷却水高架水槽	1基	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-03	再利用水高架水槽	1基																				
-04	減温水槽	1基																				
-05	プラント用水揚水ポンプ	2基	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
-06	プラント用水送水ポンプ	2基	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
-07	機器冷却水揚水ポンプ	2基	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
-08	再利用水揚水ポンプ	2基	☆2	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
	放流水ポンプ	2基	☆2																			
-09	純水装置送水ポンプ	2基	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
-10	機器冷却水冷却塔	1基		△	○2	△	△	△	△	△	△	△	○2	△	△	△	△	○2	△	△	△	△

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その16）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
10	【排水処理設備】																					
-01	ごみピット汚水移送ポンプ	1式	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-02	ろ液噴霧ポンプ	1式	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-03	有機・無機系排水処理設備																					
	砂ろ過塔及び活性炭吸着塔 ろ過材・活性炭	4基	○4	○4	○4	○4	○4	○4	○4	○4	○4	○4	○4	○4	○4	○4	○4	○4	○4	○4	○4	○4
	各ポンプ	1式		☆2	☆2	☆3	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	各貯槽	1式	---	---	---	---	---	---	---	---	○	○	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	各攪拌機	1式		○	---	---	○	---	---	---	---	---	○	---	---	---	○	---	---	---	---	---
	各計量槽		☆2																			
-04	スラグ冷却水系排水処理設備																					
	スラグ冷却水系ろ過塔	1基																				
	各ポンプ	1式																				
	各貯槽	1式																				
	各攪拌機	1式																				
-05	膜処理設備	1式	△	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
-06	ダイオキシン類分解設備	1式	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	触媒反応塔 支持砂利	1基	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
-07	各所配管	1式	---	---	---	---	△	△	△	△	△	---	---	---	---	---	△	△	△	△	△	

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その 17）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
11	【電気設備】																					
-01	特高受電設備	1式	--	--	--	○1	--	--	--	--	--	--	--	○1	--	--	--	--	--	--	--	○1
-02	高圧受変配電設備	1式	--	--	○1	--	--	--	--	--	--	--	○1	--	--	--	--	--	--	--	○1	--
-03	低圧配電設備	1式	--	--	○1	--	--	--	--	--	--	--	○1	--	--	--	--	--	--	--	○1	--
-04	動力設備	1式	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
	低圧動力盤		--		☆	☆	☆	☆	☆	☆												
	現場制御盤	1式	○1	○5	○2	○5	○5	○6	△	△	○5	○2	○5	○5	○6	△	△	○5	○5	○6	△	△
	誘引通風機速度制御盤	1式	--	--	--	○1	○1	--	--	△1	△1	--	--	△1	△1	--	--	△1	△1	--	--	--
	低圧蒸気復水器速度制御盤	1式	--	--	--	○1	○1	--	--	△1	△1	--	--	△1	△1	--	--	△1	△1	--	--	--
-05	タービン発電設備																					
	蒸気タービン発電機	1基	--	△	--	△	--	△	--	--	○	--	△	--	△	--	△	--	△	--	△	--
	発電機盤	1基	△	△	△	○1	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
-06	非常用発電装置	1式	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	○	△
-07	直流電源装置	1式	△	△	△	△	○	△	△	△	△	○	△	△	△	△	○	△	△	△	△	○
-08	交流無停電電源装置	1式	△	△	△	△	○	△	△	△	△	○	△	△	△	△	○	△	△	△	△	○

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その18）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
12	【計装設備】																					
-01	分散型計算機制御システム	1式	――	☆	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	☆	――	――	――	――	――
-02	計装盤 中央監視盤	1式		△	△	○9	△	△	△	△	△	△	○9	△	△	△	△	○9	△	△	△	△
	現場中継盤整備	3面	△3																			
-03	ビデオプロジェクタ	1式	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――
-04	上位計算機システム	1式	――	――	――	――	☆	――	――	――	――	――	――	――	――	☆	――	――	――	――	――	――
-05	計量・車両管制自動運転システム	1式	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	☆	――	――	――	――	――	――	――
-06	車両管制システム	1式	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――
-07	クレーン自動運転システム	1式	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――
-08	工業用テレビ装置	1式	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――
-09	排ガス分析計	1式	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――	――
-10	工業計器	1式	△	△	△	△	△	☆	☆	△	△	△	☆	△	△	△	△	☆	△	△	△	△
-11	調節弁	1式	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	☆	☆	△	△	△	☆	☆	△	△
-12	電油操作器	1式	――	△2	△2	△2	☆2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2
-13	レーザーO2計	1式		△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2	△2
-14	環境測定装置																					
	アンモニア分析装置		――	○1																		

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

整備スケジュール（その 19）

	機器名称	数 量	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	22年目	23年目	24年目	25年目	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年目
			2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
			R.4	R.5	R.6	R.7	R.8	R.9	R.10	R.11	R.12	R.13	R.14	R.15	R.16	R.17	R.18	R.19	R.20	R.21	R.22	R.23
13	【雑設備】																					
-01	計装用空気圧縮機	2台	△1	△1	○1	○1	△1	△1	△1	△1	☆1	☆1	△1	△1	△1	△1	△1	△1	△1	△1	△1	△1
-01	雑用空気圧縮機	2台	△1	△1	○1	○1	△1	△1	△1	△1	☆1	☆1	△1	△1	△1	△1	△1	△1	△1	△1	△1	△1
-03	環境集じん機器	1台	△	――	――	――	△1	――	――	――	――	――	☆1	――	――	――	△1	――	――	――	――	――
-04	排水枳	2箇所																				

☆：装置全体更新 ○：装置の一部更新 △：定期整備（数字は整備台数を表す）

【資料 6】

廃棄物処理 L C C 検討詳細資料

令和 5 年 3 月

1.1 検討対象期間

廃棄物処理 L C C の検討対象期間は、改良工事着手年度及び延命化目標年数を考慮し、以下に示すとおりとする。

【検討対象期間】

開始年度：令和 5 年度（改良工事着手年度）

終了年度：令和 23 年度（延命化目標最終年度）

1.2 廃棄物処理 L C C 算出の対象とする経費

1.2.1 廃棄物処理 L C C 算出の対象とする経費

表 1 に示すとおり、廃棄物処理 L C C の検討への影響が特に大きいと思われる経費から L C C を算出する。詳細な算出方法は以下式に示すとおりである。

$$(\text{廃棄物処理 L C C}) = (\text{イニシャルコスト}) + (\text{ランニングコスト}) - (\text{残存価値})$$

表 1 算出の対象とする経費

項目	内訳	
	延命化する場合	更新する場合
イニシャルコスト	基幹的設備改良事業費	新施設建設費
		用地費
ランニングコスト	維持管理補修費	維持管理補修費
	人件費	人件費
	用役費	用役費
	その他経費	その他経費
残存価値		新施設の残存価値
【備考】		
・ 廃棄物処理施設長寿命化総合計画作成の手引き（環境省）p83 より、施設を更新する場合に必要と考えらえる用地費については、現段階では確定できないため、評価の対象外とする。		
・ ランニングコストにおける、人件費、用役費、その他経費については、同一規模であれば、施設を延命化する場合でも更新する場合でも大きな違いがないため、評価の対象外とする。		

1.2.2 イニシャルコストの設定

延命化する場合及び更新する場合におけるイニシャルコストは表 2 及び表 3 に示すとおりである。

表 2 延命化する場合のイニシャルコスト

方式：ストーカ式焼却炉 施設規模：240 t/日 (120 t/24h×2 炉)					
建設費（現施設）	6,224,000 千円				
延命化工事開始年度	令和 5 年度				
延命化の目標年	令和 23 年度まで				
基幹的設備改良事業 実施時期及び工事費 (千円)	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
	151,866	1,561,653	2,104,442	857,207	1,481,050
	合計：約 6,156,218 千円（税込）				

表 3 更新する場合のイニシャルコスト

方式：ストーカ式焼却炉 施設規模：240 t/日 (120 t/24h×2 炉)	
新施設稼働開始年度	令和 13 年度 ※現施設を令和 12 年度（稼働後 25 年）で稼働停止
新施設建設期間	令和 9 年度～令和 12 年度 (設計 1 年、施工 3 年)
新施設建設費	合計：20,717,000 千円（税込）
想定される新施設稼働期間（残存価値算出用）	25 年間
備考	新施設に建設費については、「都市と廃棄物」（環境産業新聞社）より、熱回収施設（ストーカ炉に限る）の近年の受注実績より、建設費の近似式を作成し、新施設の施設規模に当てはめ設定した。【参考 1】に詳細な設定方法について示す。

【参考 1】新施設の建設費の設定方法

建設費の算出において、以下の 2 手法が推計方法として考えらえる。

- ① 化学プラント分野において、経験的に用いられている 0.6 乗則により算出
- ② 近年の建設実績等により算出

近年の動向を鑑み、②近年の建設実績等により算出する方法が妥当であるとする。以下に、根拠を示す。

① 0.6 乗則による算出

主に化学プラント分野において、廃棄物処理施設建設工事等の入札・契約の手引きについて(環境省)に示されるとおり、建設費は施設規模の 0.6 乗に比例する「0.6 乗則」と呼ばれる経験則が存在する。

手引きは平成 18 年に公布されたものであり、東日本大震災、東京オリンピック、首都圏を中心とした再開発等に起因する労務単価や材料単価の高騰が反映されにくいなど、近年の動向が反映されていない点が懸念される。

② 近年の実績等による算出

都市と廃棄物(環境産業新聞社)より、熱回収施設(現行と同じストーカ炉に限る)の受注実績を整理すると、2015 年度以降、建設費単価が増加傾向にあることが確認された。以上から、2015~2021 年度のストーカ炉受注実績を基に、施設規模に応じた建設費を算出する。

各年度に受注されたストーカ炉の平均建設費と平均処理能力の実績は表 4 のとおりである。

表 4 各年度のストーカ炉受注実績 (税抜)

年度 (年)	平均 処理能力 (t/日)	平均 建設費 (億円)	処理能力に対す る建設費 (百万円/t)
2021	61	60.2	104.4
2020	116	104.1	92.2
2019	230	149.2	69.0
2018	230	176.9	82.9
2017	144	104.1	75.3
2016	149	88.3	89.3
2015	94	67.6	73.3
2014	156	70.3	52.9
2013	284	111.3	37.8

施設更新における建設費は、本施設の施設規模（240 t/日）と近似した施設規模（200～280 t/日）の 2015～2021 年度実績から算出した。参考に用いた他事例を以下に示す。

表 5 類似他事例の受注実績（税抜）

	年度	処理能力	建設費	処理能力 に対する建設費	建設費 (2022年度換算)	処理能力 に対する建設費 (2022年度換算)
	(年)	(t/日)	(億円)	(千円/t)	(億円)	(千円/t)
a	2017	228	155.7	68,289	164.7	72,237
b	2019	200	156.0	78,000	161.5	80,750
c	2019	240	191.2	79,667	198.0	82,500
平均	-	-	-	75,284	-	78,473

※処理能力に対する建設費の平均値は加重平均により算出

なお、2020 年度及び 2021 年度に本施設と近似した施設規模の建設実績が無いことから、2019 年度までの建設実績に【参考 1】に示す物価変動を考慮することで、2022 年度相当の建設費を算出した。その結果、1 t/日あたりの建設費の平均値は約 78,473 千円（税抜）であり、現施設と同規模の施設（240 t/日）を新設する際の建設費は、約 188.3 億円（税抜）と算出され、税込価格は約 207.2 億円と算出された。

施設更新の詳細検討をする場合は、想定される焼却対象ごみの搬入量により施設規模を設定するが、本組合における最新のごみ処理基本計画が平成 30 年度改訂版であり、計画内で示される焼却処理量の推定は、令和 10 年度が最新の数値の計画となっていることから、令和 13 年度を竣工予定とする新施設の詳細な検討が困難と考えたため、本資料では現施設と同等の施設規模とした。

なお、ごみ処理基本計画における令和 10 年度の本施設への焼却処理量の想定は、51,521 t/年であり、その処理に必要な施設規模は 205 t/日程度である。205 t/日の建設費の想定は約 177 億円（税込）であり、また、令和 23 年度末時点での残存価値は約 99 億円（税込）である。後に示す表 8 及び表 9 において、新施設の施設規模を 205 t/日とした場合においても延命化工事が優位であると算出された。

なお、物価変動による影響の評価は、廃棄物処理施設の長期包括委託事業等で委託料改定の必要性を判断する指標として多く採用されている、日銀統計局調査による「企業向けサービス価格指数の総平均の指数」を用いた。

【参考１】企業向けサービス価格指数

年	指数	年	指数	年	指数
1985	100.0	2000	110.6	2015	101.3
1986	100.2	2001	107.8	2016	101.6
1987	100.8	2002	105.4	2017	102.4
1988	102.0	2003	103.6	2018	103.5
1989	103.5	2004	102.6	2019	104.6
1990	107.8	2005	101.8	2020	105.6
1991	111.1	2006	101.5	2021	106.5
1992	113.1	2007	101.5	2022	108.3
1993	113.5	2008	101.7		
1994	112.5	2009	100.1		
1995	111.2	2010	98.6		
1996	109.4	2011	97.9		
1997	107.9	2012	97.6		
1998	107.4	2013	97.7		
1999	106.1	2014	100.2		

(出典：日本銀行 HP を参考に作成)

【参考２】加重平均の考え方

処理能力に対する建設費の平均値の算出には、各施設の建設費の違いを、対応する処理能力で重みを考慮して平均できる加重平均を用いた。

ある施設 A の建設費を a_1 、処理能力を A_1 とし、ある施設 B の建設費を b_1 、処理能力を B_1 とした場合、加重平均による処理能力に対する建設費の平均値は、以下のとおり算出できる。

A の建設費	B の建設費	A の処理能力	B の処理能力	加重平均値
億円	億円	t/日	t/日	億円/t
a_1	b_1	A_1	B_1	$(a_1+b_1) \div (A_1+B_1)$

1.2.3 将来経費の現在価値化（社会的割引率）

LCC の検討においては、基準年度（令和 5 年度）から検討対象期間終了年度（令和 23 年度）までの各年度の経費計算結果は、以下の式で現在価値に換算した。

なお、社会的割引率については、公共事業の分野で適用されている 4%を採用した。

$$\text{各年度費用の現在価値} = \frac{\text{（各年度における費用の合計）}}{(1 + r)^j}$$

（※ r：社会的割引率(4%), j：基準年度からの経過年数）

（参考：廃棄物処理施設長寿命化総合計画作成の手引き（ごみ焼却施設編）P91）

1.2.4 ランニングコストの設定

延命化する場合及び更新する場合におけるランニングコストは表 6 に示すとおりである。

表 6 ランニングコストの設定方法

項目	設定方法	
延命化する場合	現施設建設メーカーへのヒアリングを基に設定した。（令和 5 年度から 23 年度）	
更新する場合	新施設の建設工事期間の 現施設の維持管理補修費 （令和 5 年度から令和 12 年度）	本施設の維持管理補修費実績より、最新実績である令和 3 年度実績が 8 年間続くと設定した。
	新施設の維持管理補修費 （令和 13 年度から令和 23 年度）	現施設の稼働開始（平成 18 年度）から 16 年間（令和 3 年度）の維持管理補修のうち、稼働開始から 11 年間の合計費用に対し、新施設の建設費に比例した値とする。ただし、現施設は灰溶融設備分を含むため、その費用は除くものとする。

平成 18 年度から令和 3 年度までの累積維持管理補修費等は図 1 に示すとおりであり、新施設においても、建設費に対して同程度の維持管理補修費が必要となると設定した。また、現施設の単年度維持管理補修費の増加傾向を考慮し、令和 5 年度から 12 年度までの維持管理補修費は最新実績である令和 3 年度実績(約 7.0 億円)が 8 年間続くと設定した。

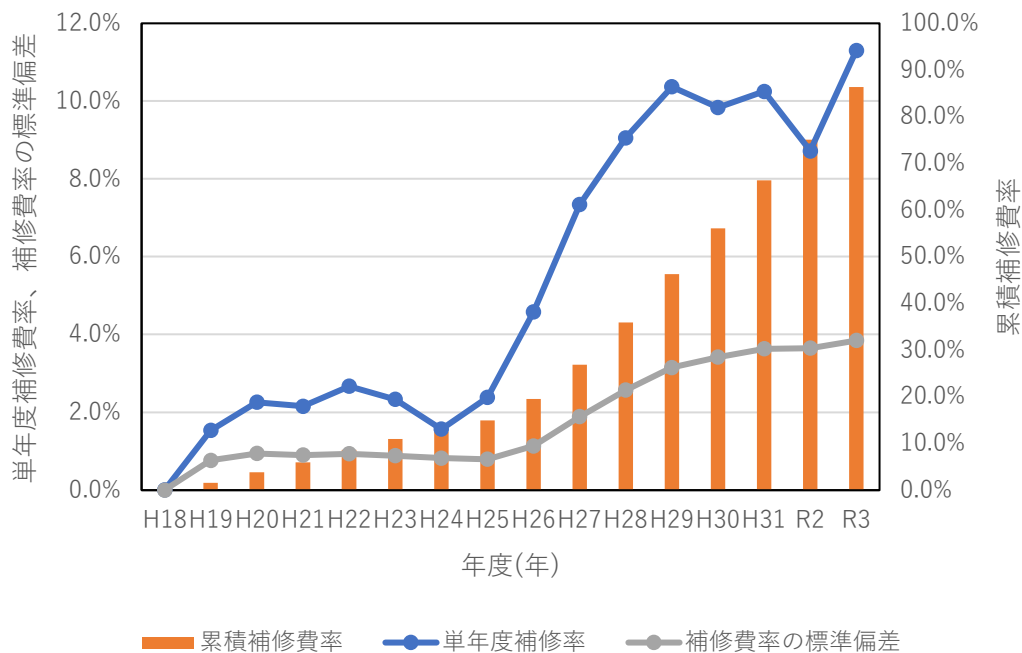


図 1 平成 18 年度から令和 3 年度までの累積維持管理補修費等

現施設の 16 年間の灰溶融設備分を除く維持管理補修費は建設費約 60.9 億円に対し、約 53.7 億円であり、最新実績の維持管理補修費は約 7.0 億円である。これより、新施設の建設工事期間の現施設の維持管理補修費（令和 5 年度から 12 年度）は、約 56.3 億円と想定される。また、新施設の維持管理補修費（令和 13 年度から 23 年度）は、現施設及び新施設の建設費から考慮すると、約 74.3 億円である。

よって、更新する場合のランニングコスト（維持管理補修費）を約 131 億円（税込）と設定した。

また、延命化する場合の令和 5 年度から 23 年度のランニングコスト（維持管理補修費）は、ヒアリング結果より約 144 億円（税込）と設定した。

1.2.5 残存価値の設定

検討対象期間終了年度である、令和 23 年度末時点での、延命化する場合における現施設の残存価値及び更新する場合における新施設の残存価値は表 7 に示すとおりである。

表 7 残存価値の設定方法

項目	設定方法	算出結果
延命化する場合における現施設の残存価値	残存価値は 0 円とする。	0 円
更新する場合における新施設の残存価値	新施設建設費－新施設建設費×(検討対象期間中に稼働する年数(11 年)÷想定される稼働年数 (25 年))	約 11,600,000 千円 (税込)
検討対象期間終了時点の割引係数	—	2.1068
検討対象期間終了時点の新施設の残存価値	新施設の残存価値÷2.1068	約 5,506,000 千円 (税込)

1.3 廃棄物処理 L C C の算出結果

これまで設定した条件に基づき、廃棄物処理 L C C の算出結果を表 8 に示す。

表 8 廃棄物処理 L C C の算出結果（社会的割引考慮前）

			検討対象期間 (令和 5 年度～令和 23 年度)	
			延命化する場合	更新する場合
廃 棄 物 処 理 L C C	点検補修費		約 144 億円	約 131 億円
	建設費		—	約 207 億円
	改良工事費		約 62 億円	—
	小計		約 206 億円	約 338 億円
	残存価値	現施設 新施設	0 円 —	— △約 116 億円
	合計（残存価値控除後）		約 206 億円	約 222 億円

また、検証対象期間内の検討対象期間内において、社会的割引を考慮した際の、廃棄物処理 L C C の算出結果を表 9 に示す。

表 9 廃棄物処理 L C C の算出結果（社会的割引考慮後）

			検討対象期間 (令和 5 年度～令和 23 年度)	
			延命化する場合	更新する場合
廃 棄 物 処 理 L C C	点検補修費		約 100 億円	約 87 億円
	建設費		—	約 155 億円
	改良工事費		約 54 億円	—
	小計		約 154 億円	約 242 億円
	残存価値	現施設 新施設	0 円 —	— △約 55 億円
	合計（残存価値控除後）		約 154 億円	約 187 億円

社会的割引考慮前及び考慮後の、延命化する場合の各年度費用及び合計値を表 10 に、施設更新する場合の各年度費用及び合計値を表 11 に示す。

表 10 延命化工事する場合の廃棄物処理 L C C

年度	社会的割引考慮前			社会的割引考慮後			
	延命化工事費	点検補修費	合計	割引係数	延命化工事費	点検補修費	合計
	千円	千円	千円		千円	千円	千円
R5	151,866	656,255	808,121	1.0400	146,025	631,014	777,039
R6	1,561,653	651,288	2,212,941	1.0816	1,443,836	602,152	2,045,988
R7	2,104,442	652,828	2,757,270	1.1249	1,870,781	580,343	2,451,124
R8	857,207	686,378	1,543,585	1.1699	732,718	586,698	1,319,416
R9	1,481,050	859,628	2,340,678	1.2167	1,217,268	706,524	1,923,792
R10		888,778	888,778	1.2653		702,425	702,425
R11		922,658	922,658	1.3159		701,161	701,161
R12		772,068	772,068	1.3686		564,130	564,130
R13		780,428	780,428	1.4233		548,323	548,323
R14		763,818	763,818	1.4802		516,024	516,024
R15		879,538	879,538	1.5395		571,314	571,314
R16		786,148	786,148	1.6010		491,036	491,036
R17		760,298	760,298	1.6651		456,608	456,608
R18		701,888	701,888	1.7317		405,317	405,317
R19		798,468	798,468	1.8009		443,372	443,372
R20		890,098	890,098	1.8730		475,226	475,226
R21		781,528	781,528	1.9479		401,216	401,216
R22		639,958	639,958	2.0258		315,904	315,904
R23		536,778	536,778	2.1068		254,784	254,784
合計	6,156,218	14,408,829	20,565,047		5,410,628	9,953,571	15,364,199

表 11 施設更新する場合の廃棄物処理 L C C

年度	社会的割引考慮前			社会的割引考慮後			
	新施設建設費	点検補修費	合計	割引係数	新施設建設費	点検補修費	合計
	千円	千円	千円		千円	千円	千円
R5		703,410	703,410	1.0400		676,356	676,356
R6		703,410	703,410	1.0816		650,342	650,342
R7		703,410	703,410	1.1249		625,309	625,309
R8		703,410	703,410	1.1699		601,257	601,257
R9		703,410	703,410	1.2167		578,129	578,129
R10	3,107,550	703,410	3,810,960	1.2653	2,455,979	555,923	3,011,902
R11	7,250,950	703,410	7,954,360	1.3159	5,510,259	534,547	6,044,806
R12	10,358,500	703,410	11,061,910	1.3686	7,568,683	513,963	8,082,646
R13		970	970	1.4233		682	682
R14		317,653	317,653	1.4802		214,601	214,601
R15		468,095	468,095	1.5395		304,057	304,057
R16		446,638	446,638	1.6010		278,974	278,974
R17		553,204	553,204	1.6651		332,235	332,235
R18		483,276	483,276	1.7317		279,076	279,076
R19		324,774	324,774	1.8009		180,340	180,340
R20		493,483	493,483	1.8730		263,472	263,472
R21		949,222	949,222	1.9479		487,305	487,305
R22		1,520,594	1,520,594	2.0258		750,614	750,614
R23		1,876,004	1,876,004	2.1068		890,452	890,452
合計	20,717,000	13,061,193	33,778,193		15,534,921	8,717,634	24,252,555

【資料 7】
CO₂削減計画書

令和 5 年 3 月

1. はじめに

本計画書は、城南衛生管理組合様 クリーン21長谷山 基幹的設備改良工事におけるCO₂削減量を設備毎に算出したものです。

なお、本書に記載の各数値は一定の条件のもとに算出した期待値であり、その数値を保証するものではありません。

2. 効果検証のためのCO₂発生量と削減量の計算(P2参照)

計算の結果、基幹改良工事によるCO₂削減率は下記の通りとなりました。

2炉運転時 19.5 %

3. 基幹改良工事前運転データの整理(P3参照)

1) ごみ焼却量、消費電力量、発電電力量

2炉運転時(2022年1月)

	ごみ焼却量 (t/日)	消費電力量 (kwh/日)	発電電力量 (kwh/日)
日平均	208.88	30,429	92,898

2) 炉の立上・立下に伴う燃料使用量

期間:2021年4月～2022年3月

運転:1炉当り

燃料の種類	燃料使用量(kℓ/回/炉))
灯油	9.114

4. CO₂削減計画表及び明細書

添付明細書の通り、項目毎に省エネ効果を算出し、CO₂削減計画表にて集計しました。

■効果検証のためのCO₂発生量と削減量の計算（2炉運転時）

改良 工事 前	No.	項 目	単 位	実績平均値	備 考
	(1)	1日当たりの運転時間	h/日	24	
	(2)	施設の定格ごみ焼却量	t/日	240.00	120t/日×2炉
	(3)	1日当たりのごみ焼却量	t/日	208.88	2022年1月運転データより
	(4)	〃 消費電力量	kWh/日	30,429	2022年1月運転データより
	(5)	電力のCO ₂ 排出係数	t-CO ₂ /kWh	0.000555	
	(6)	1日当たりの燃料使用量	kl/日	0.000	
	(7)	燃料のCO ₂ 排出係数	t-CO ₂ /kl	2.49	灯油
	(8)	1日当たりの発電電力量	kWh/日	92,898	2022年1月運転データより
	(9)	〃 熱利用量	GJ/日	0.00	無し
	(10)	熱利用CO ₂ 排出係数	t-CO ₂ /GJ	0.057	
	(11)	ごみトン当たりのCO ₂ 排出量① (削減率算出式の分母の基礎)	kg-CO ₂ /t-ごみ	80.9	$[(4) \times (5) + (6) \times (7)] \div (3) \times 1,000$
	(12)	立上げ下げ時の燃料使用量	kl/回/炉	9.114	2021年度運転データより
	(13)	運転炉数	-	2	
	(14)	改良前の年間CO ₂ 排出量① (削減率算出式の分母)	t-CO ₂ /年	5,618	$[(11) \times (2) \times 280] \div 1,000$ $+ (12) \times (13) \times 4 \times (7)$
	(15)	ごみトン当たりのCO ₂ 排出量② (削減率算出式の分子の基礎)	kg-CO ₂ /t-ごみ	-166.0	$[(4) \times (5) + (6) \times (7) - (8) \times (5)$ $- (9) \times (10)] \div (3) \times 1,000$
	(16)	改良前の年間CO ₂ 排出量② (削減率算出式の分子)	t-CO ₂ /年	-10,974	$[(15) \times (2) \times 280] \div 1,000$ $+ (12) \times (13) \times 4 \times (7)$
改良 工事 後	No.	項 目	単 位	改良工事後平均値	備 考
	①	1日当たりの運転時間	h/日	24	
	②	施設の定格ごみ焼却量	t/日	240.00	120t/日×2炉
	③	1日当たりのごみ焼却量	t/日	208.88	改良工事前と同条件
	④	〃 消費電力量	kWh/日	27,136	(4)-電力削減量
	⑤	電力のCO ₂ 排出係数	t-CO ₂ /kWh	0.000555	
	⑥	1日当たりの燃料使用量	kl/日	0.000	
	⑦	燃料のCO ₂ 排出係数	t-CO ₂ /kl	2.49	灯油
	⑧	1日当たりの発電電力量	kWh/日	95,732	(8)+発電増加量
	⑨	〃 熱利用量	GJ/日	0.00	改良工事前と同条件
	⑩	熱利用CO ₂ 排出係数	t-CO ₂ /GJ	0.057	
	⑪	ごみトン当たりのCO ₂ 排出量 (削減率算出式の分子の基礎)	kg-CO ₂ /t-ごみ	-182.3	$[(4) \times (5) + (6) \times (7) - (8) \times (5)$ $- (9) \times (10)] \div (3) \times 1,000$
	⑫	立上げ下げ時の燃料使用量	kl/回/炉	9.109	(12)-燃料使用削減量
	⑬	運転炉数	-	2	
	⑭	改良後の年間CO ₂ 排出量② (削減率算出式の分子)	t-CO ₂ /年	-12,069	$[(11) \text{の平均値} \times (2) \times 280] \div 1,000$ $+ (12) \times (13) \times 4 \times (7)$
基幹改良 CO ₂ 削減率			%	19.5	$[(16) - (14)] \div (14) \times 100$

■ 基幹改良工事前運転データの整理 (2021年度運転データを使用)

(1) ごみ焼却量、消費電力量、発電電力量 (2022年1月)
(2炉運転時)

No.	日付	曜日	ごみ焼却量(t/日)			電力(kWh/日)	
			1号炉	2号炉	合計	消費電力量計	発電電力量
1	2022/1/8	土	106.65	103.55	210.20	29,900	92,040
2	2022/1/9	日	106.42	100.96	207.38	29,440	93,720
3	2022/1/10	月	108.09	102.36	210.45	30,140	97,530
4	2022/1/11	火	108.08	104.32	212.40	30,850	94,450
5	2022/1/12	水	103.72	98.22	201.94	30,950	96,200
6	2022/1/13	木	101.46	97.93	199.39	30,670	92,560
7	2022/1/14	金	110.98	105.68	216.66	31,410	94,970
8	2022/1/15	土	107.28	102.78	210.06	29,750	90,370
9	2022/1/16	日	101.87	101.78	203.65	29,270	85,790
10	2022/1/17	月	105.67	101.97	207.64	30,780	93,370
11	2022/1/18	火	107.81	107.26	215.07	30,890	91,170
12	2022/1/19	水	107.64	104.05	211.69	31,100	92,600
	平均値				208.88	30,429	92,898

計算シート(3)へ

計算シート(4)へ

計算シート(8)へ

(2) 炉の立上・立下に伴う燃料使用量 (2021年度)

No.	日付	曜日	1号炉(ℓ/回)		2号炉(ℓ/回)	
			立上	立下	立上	立下
1	2021/4/2	金			5,665	
2	2021/4/10	土		3,369		
3	2021/5/9	日	5,040			
4	2021/6/8	火		3,500		
5	2021/6/9	水				2,596
6	2021/6/18	金	6,187			
7	2021/6/19	土			5,708	
8	2021/7/15	木				3,183
9	2021/8/11	水			6,263	
10	2021/8/21	土		2,820		
11	2021/8/28	土	6,130			
12	2021/9/5	日		2,859		
13	2021/9/6	月				2,903
14	2021/9/14	火	6,655			
15	2021/9/15	水			5,355	
16	2021/10/1	金		3,169		
17	2021/10/23	土	6,784			
18	2021/11/6	土				2,451
19	2021/12/5	日			5,000	
20	2021/12/17	金		3,567		
21	2022/1/7	金	6,658			
22	2022/1/20	木				2,806
23	2022/2/3	木		3,661		
24	2022/2/8	火	5,669			
25	2022/2/16	水		3,574		
26	2022/2/19	土			6,538	
27	2022/2/25	金	6,492			
28	2022/2/28	月		3,491		
29	2022/3/18	金	7,539			
	平均		6,350	3,334	5,755	2,788
	立上+立下	0	9,685		8,543	
						9,114

計算シート(12)へ

■CO₂削減計画表（2炉運転時）

	機器名称	設備改造等の対策	対策の目的 および効果	電力削減量 (kWh/日)	発電増加量 (kWh/日)	燃料削減量 (kℓ/回)	明細書 番号
第2章 機械設備工事							
第2節 受入供給設備							
1	ごみクレーン	・高効率電動機の採用 電源回生コンバータの導入	・消費電力削減	102.6			①
第3節 燃焼設備							
1	炉駆動用油圧装置	・可変容量式ポンプ及び 高効率電動機の採用	・消費電力削減	11.3			②
2	助燃バーナ	・低空気比型の採用	・燃料使用量削減			0.0046	③
3	再燃バーナ	・低空気比型の採用	・燃料使用量削減			第3節2に含む	③
第4節 灰溶融設備							
第5節 燃焼ガス冷却設備							
1	ボイラ	・低空気比運転、一部肉盛管の採用 (ボイラ回収熱量増)	・発電量増加		第6節4に含む		④、⑧
		・低空気比運転(排ガス量減)	・消費電力削減	第8節1に含む			④、⑨
2	スートブロワ	・スートブロワ暖機方法見直し	・発電量増加		24.0		④
3	ボイラ給水ポンプ	・高効率電動機の採用	・消費電力削減	838.1			⑤
4	脱気器給水ポンプ	・高効率電動機の採用	・消費電力削減	第5節3に含む			⑤
5	低圧蒸気復水器	・高効率電動機の採用	・消費電力削減	第5節3に含む			⑤
第6節 排ガス処理設備							
1	1段目ろ過式集じん器	・1段化に伴い廃止	・消費電力削減	173.6			⑥
2	2段目ろ過式集じん器	・高効率電動機の採用	・消費電力削減	第6節1に含む			⑥
3	排ガス処理用空気圧縮機	・雑用との一元化	・消費電力削減	101.1			⑦
4	脱硝触媒	・低温触媒の採用 (ガス再加熱蒸気削減)	・発電量増加		2,810.4		⑧
第7節 余熱利用設備							
1	蒸気タービン	・タービン排気圧力の低減	・発電量増加		第6節4に含む		⑧
第8節 通風設備							
1	押込送風機	・高効率電動機の採用、 インバータ化	・消費電力削減	830.2			⑨
2	二次送風機	・高効率電動機の採用	・消費電力削減	第8節1に含む			⑨
3	誘引通風機	・高効率電動機の採用、 仕様見直し、ダンパ制御廃止	・消費電力削減	第8節1に含む			⑨
第9節 灰出し設備							
1-1	No.3 焼却灰搬送装置A/B	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	43.9			⑩
1-2	磁選機	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節1-1に含む			⑩
1-3	振動篩	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節1-1に含む			⑩
1-4	No.2 焼却灰振分装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節1-1に含む			⑩
1-5	No.1 細粒灰搬送装置A/B	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節1-1に含む			⑩
1-6	不燃物排出装置	・高効率電動機の採用	・消費電力削減	第9節1-1に含む			⑩
1-7	磁性物排出装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節1-1に含む			⑩
1-8	灰バイパス搬送装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節1-1に含む			⑩
1-9	灰バイパス排出装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節1-1に含む			⑩
1-10	焼却灰押出装置	・フロー変更に伴う新設	・消費電力削減	第9節1-1に含む			⑩
1-11	焼却灰搬送装置	・フロー変更に伴う新設	・消費電力削減	第9節1-1に含む			⑩
1-12	焼却灰排出装置	・フロー変更に伴う新設	・消費電力削減	第9節1-1に含む			⑩
1-13	灰分散装置	・フロー変更に伴う新設	・消費電力削減	第9節1-1に含む			⑩
2-1	エコマイザダスト搬送装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	152.9			⑪
2-2	エコマイザダスト振分装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪

	機器名称	設備改造等の対策	対策の目的 および効果	電力削減量 (kWh/日)	発電増加量 (kWh/日)	燃料削減量 (kg/回)	明細書 番号
第9節 灰出し設備							
2-3	エコマイザダストシュート	・フロー変更に伴う新設	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-4	1段目集じんダスト搬送装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-5	1段目集じんダスト振分装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-6	No.1-1段目集じんダスト搬送装置B	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-7	No.2-1段目集じんダスト搬送装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-8	No.3-1段目集じんダスト搬送装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-9	No.1異物除去装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-10	No.4-1段目集じんダスト搬送装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-11	2段目集じんダスト搬送装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-12	No.1-2段目集じんダスト搬送装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-13	No.2-2段目集じんダスト搬送装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-14	No.3-2段目集じんダスト搬送装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-15	No.4-2段目集じんダスト搬送装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-16	No.2異物除去装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-17	No.5-2段目集じんダスト搬送装置	・フロー変更に伴う撤去	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-18	集じんダスト搬送装置	・フロー変更に伴う新設	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-19	集じんダスト振分装置	・フロー変更に伴う新設	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-20	No.1 集じんダスト搬送装置	・フロー変更に伴う新設	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-21	No.2 集じんダスト搬送装置	・フロー変更に伴う新設	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-22	異物除去装置	・フロー変更に伴う新設	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-23	No.3 集じんダスト搬送装置	・フロー変更に伴う新設	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-24	No.4 集じんダスト搬送装置	・フロー変更に伴う新設	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-25	No.5 集じんダスト搬送装置A/B	・フロー変更に伴う新設	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-26	No.3 溶融ダスト搬送装置	・フロー変更に伴う部分更新	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
2-27	混練機	・高効率電動機の採用	・消費電力削減	第9節2-1に含む			⑪
3-1	積出しクレーン	・機器付き照明のLED化	・消費電力削減	第3章第2節1に含む			⑬
第10節 給水設備							
1	機器冷却水揚水ポンプ	・高効率電動機の採用、仕様見直し	・消費電力削減	第5節3に含む			⑤
第11節 排水処理設備							
第12節 電気設備							
1	非常用発電装置	・仕様見直しによる燃料使用量削減	・燃料使用量削減				③
第13節 計装設備							
1	分散形プロセス制御システム(DCS)	・低空気比運転(ボイラ回収熱量増)	・発電量増加		第6節4に含む		④、⑧
		・低空気比運転(排ガス量減)	・消費電力削減	第8節1に含む			④、⑨
2	ごみクレーン自動運転システム	・ごみクレーン自動運転 制御内容の変更	・消費電力削減	7.1			⑫
3	積出しクレーン自動運転システム	・積出しクレーン自動運転 制御内容の変更	・消費電力削減	第13節2に含む			⑫
4	工業用テレビ装置	・運用台数削減	・消費電力削減	第13節2に含む			⑫
第14節 雑設備							
1	計装用空気圧縮機	・高効率電動機の採用	・消費電力削減	第6節3に含む			⑦
2	雑用空気圧縮機	・高効率電動機の採用、 排ガス処理用一元化	・消費電力削減	第6節3に含む			⑦
第3章 土木建築設備工事							
第2節 建築設備工事(機械、電気)							
1	照明設備	・LED化	・消費電力削減	1,032.5			⑬
合 計				3,293.3	2,834.4	0.0046	

明細書 ①

1	設備名称	第2章 機械設備工事 第2節 受入供給設備
2	機器名称	1. ごみクレーン
3	CO ₂ 削減概要	

- 1) 高効率電動機の採用により消費電力を削減する。
2) 電源回生コンバータを導入し、消費電力を削減する。

4	整備概要	
---	------	--

機器名称	数量(台)	容量	電動機出力(kW)	整備内容
ごみクレーン 巻上下VVVF電動機	2	2.28t、38.5m	55	・高効率電動機の採用 ・電源回生コンバータの導入
同上 横行VVVF電動機	4	—	1.5	・高効率電動機の採用
同上 走行VVVF電動機	4	—	5.5	・高効率電動機の採用

5	削減効果	
---	------	--

1) 電動機高効率化による電力削減量

(1)更新前

機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	負荷率 (%)	稼働率 (%)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)
ごみクレーン 巻上下VVVF電動機	1	55	6	92.1	25.5	60	24	219.3
同上 横行VVVF電動機	2	1.5	4	81.5	24.8	60	24	13.1
同上 走行VVVF電動機	2	5.5	4	87.0	24.1	60	24	43.9
合計								276.3

(2)更新後

機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	負荷率 (%)	稼働率 (%)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)
ごみクレーン 巻上下VVVF電動機	1	55	6	94.5	25.5	60	24	213.7
同上 横行VVVF電動機	2	1.5	4	86.5	24.8	60	24	12.4
同上 走行VVVF電動機	2	5.5	4	91.7	24.1	60	24	41.6
合計								267.7

電力削減量 : (1)－(2) = 8.6 kWh/日

2) 電源回生コンバータ導入による電力削減量

巻下げ時に発生するエネルギーを電源側に帰還させ、所内消費電力を削減する。

- (1) 投入1回あたりの電力帰還による削減電力量 : 0.28 kWh/回
 (2) 1日あたりの投入回数 : 170 回/日
 (3) 積替・攪拌1回あたりの電力帰還による削減電力量 : 0.16 kWh/回
 (4) 1日あたりの積替・攪拌回数 : 290 回/日

電力削減量 : (1)×(2)＋(3)×(4) = 94.0 kWh/日

電力削減量合計: 102.6 kWh/日

明細書 ②

1	設備名称	第2章 機械設備工事 第3節 燃焼設備
2	機器名称	1. 炉駆動用油圧装置
3	CO ₂ 削減概要	

- 1) 可変容量式ポンプ及び高効率電動機の採用により消費電力を削減する。
 2) 焼却灰押出装置新設に伴い、油圧装置の容量を上げる。
 (フロー見直しによる効果は、明細書⑩参照)

4	整備概要	
---	------	--

機器名称	数量(台)	容量	電動機出力(kW)	整備内容
炉駆動用油圧装置 (更新前)	4	52L/min	18.5	・可変容量式ポンプ及び高効率電動機採用
炉駆動用油圧装置 (更新後)	4	66L/min	22	・焼却灰押出装置新設に伴い容量を上げる。

5	削減効果	
---	------	--

1) 消費電力量

(1)更新前

機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	負荷率 (%)	稼働率 (%)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)
炉駆動用油圧装置	2	18.5	6	90.2	55.7	100	24	548.4
合計								548.4

(2)更新後

機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	負荷率 (%)	稼働率 (%)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)
炉駆動用油圧装置	2	22	6	93.0	47.3	100	24	537.1
合計								537.1

※1.油圧装置(可変容量式ポンプ採用)の省エネ効果を15%とし、負荷率に反映。

2)電力削減量 : (1) - (2) = 11.3 kWh/日

明細書 ③

1	設備名称	第2章 機械設備工事 第3節 燃焼設備 第12節 電気設備
2	機器名称	(第3節) 2. 助燃バーナ、 3. 再燃バーナ (第12節) 1. 非常用発電装置
3	CO ₂ 削減概要	

- 1) 低空気比型バーナを採用し、燃料使用量を削減する。
2) 非常用発電装置において、仕様を見直し燃料使用量を削減する。

4	整備概要	
---	------	--

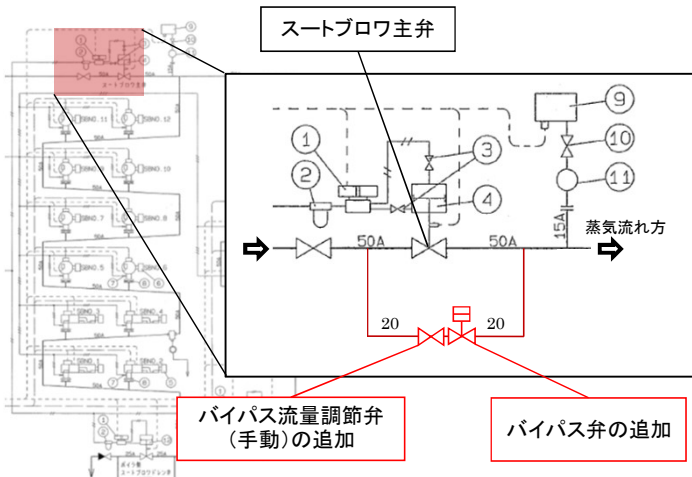
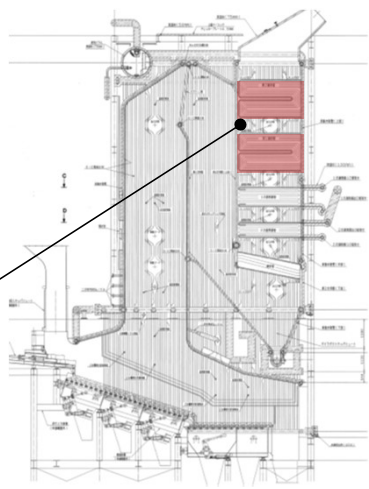
機器名称	数量(台)	容量	整備内容
助燃バーナ	2	190 L/h	・低空気比型を採用し、燃料使用量を削減する。
再燃バーナ	4	355 L/h	・低空気比型を採用し、燃料使用量を削減する。
非常用発電装置 (更新前)	1	(定格出力) 800 kW	・仕様を見直し、燃料使用量を削減する。
非常用発電装置 (更新後)	1	(定格出力) 720 kW	

5	改良効果	
---	------	--

1) 燃料使用削減量

(1)炉の立上・立下に伴う燃料使用量	:	9.114	kℓ/回/炉
(2)低空気比型採用に伴う燃料使用削減率	:	0.05	%
(3)燃料使用削減量	(1) × (2) :	0.0046	kℓ/回/炉

明細書 ④

1	設備名称	第2章 機械設備工事 第5節 燃焼ガス冷却設備 第13節 計装設備																																
2	機器名称	(第5節) 1. ボイラ、 2. スートブロウ (第13節) 1. 分散形プロセス制御システム(DCS)																																
3	CO ₂ 削減概要	1) スートブロウ配管において、主弁のバイパスラインを設け、主弁開直後(暖管時において蒸気消費が最大となる点)における蒸気消費量を低減することで、発電量を増加させる。 2) 旗形管更新に伴い、一部肉盛管を採用し回収熱量(蒸発量)を増加させる。 3) 燃焼制御を高度化のため、分散形プロセス制御システム(DCS)を更新する。																																
4	整備概要	  【スートブロウバイパス配管】 スートブロウ配管の主弁バイパスラインを設ける → スートブロウ暖機時の蒸気消費量低減 → タービン入口蒸気流量増加 → 発電量増加 を図る。 【第1,2旗形管】 更新と併せ、一部肉盛管を採用し、管径を大きくする → ガス通過流速増加 → ボイラ吸収熱量増加 → 蒸発量増加 を図る。																																
5	改良効果	1) スートブロウバイパス配管 <table><tr><td>(1)スートブロウ暖機時の蒸気タービン発電増加量</td><td>:</td><td>6.0</td><td>kWh/炉/回</td></tr><tr><td>(2)運転炉数</td><td>:</td><td>2</td><td>炉</td></tr><tr><td>(3)1炉あたりのスートブロウ噴霧回数</td><td>:</td><td>2</td><td>回/日</td></tr><tr><td>蒸気タービン発電増加量 (1)×(2)×(3)</td><td>:</td><td>24.0</td><td>kWh/日</td></tr></table> 2) 旗形管肉盛及び低空気比運転による燃焼制御高度化 <table><tr><td>(1)1炉当たり増加蒸発量</td><td>:</td><td>0.017</td><td>t/h/炉</td></tr><tr><td>(2)運転炉数</td><td>:</td><td>2</td><td>炉</td></tr><tr><td>(3)増加蒸発量</td><td>:</td><td>0.034</td><td>t/h</td></tr><tr><td>※発電増加量</td><td>:</td><td colspan="2">明細書⑧に含む</td></tr></table> 3) 低空気比運転による燃焼制御高度化 低空気比運転化に伴う、排ガス量低減化により誘引通風機での消費電力を削減する。 ※電力削減量 : 明細書⑨に含む	(1)スートブロウ暖機時の蒸気タービン発電増加量	:	6.0	kWh/炉/回	(2)運転炉数	:	2	炉	(3)1炉あたりのスートブロウ噴霧回数	:	2	回/日	蒸気タービン発電増加量 (1)×(2)×(3)	:	24.0	kWh/日	(1)1炉当たり増加蒸発量	:	0.017	t/h/炉	(2)運転炉数	:	2	炉	(3)増加蒸発量	:	0.034	t/h	※発電増加量	:	明細書⑧に含む	
(1)スートブロウ暖機時の蒸気タービン発電増加量	:	6.0	kWh/炉/回																															
(2)運転炉数	:	2	炉																															
(3)1炉あたりのスートブロウ噴霧回数	:	2	回/日																															
蒸気タービン発電増加量 (1)×(2)×(3)	:	24.0	kWh/日																															
(1)1炉当たり増加蒸発量	:	0.017	t/h/炉																															
(2)運転炉数	:	2	炉																															
(3)増加蒸発量	:	0.034	t/h																															
※発電増加量	:	明細書⑧に含む																																

明細書 ⑤

1	設備名称	第2章 機械設備工事 第5節 燃焼ガス冷却設備 第10節 給水設備
2	機器名称	(第5節) 3.ボイラ給水ポンプ、 4.脱気器給水ポンプ、 5.低圧蒸気復水器 (第10節) 1.機器冷却水揚水ポンプ
3	CO ₂ 削減概要	

- 1) ボイラ給水ポンプ・脱気器給水ポンプは、高効率電動機の採用により消費電力を削減する。
 2) 低圧蒸気復水器は、高効率電動機の採用により消費電力を削減する。
 3) 機器冷却水揚水ポンプは、高効率電動機の採用、溶融炉廃止に伴う容量の見直しにより消費電力を削減する。

4	整備概要	
---	------	--

機器名称	数量(台)	容量	電動機出力(kW)	整備内容
ボイラ給水ポンプ	4	34m ³ /h	75	・高効率電動機の採用
脱気器給水ポンプ	2	49.3m ³ /h	22	・高効率電動機の採用
低圧蒸気復水器	4	34.854t/h	90	・高効率電動機の採用
機器冷却水揚水ポンプ (更新前)	2	565m ³ /h	110	・高効率電動機の採用
機器冷却水揚水ポンプ (更新後)	2	225m ³ /h	55	・溶融設備廃止に伴い容量低減

5	削減効果	
---	------	--

1) 消費電力量

(1)更新前

機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	負荷率 (%)	稼働率 (%)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)
ボイラ給水ポンプ	2	75	2	93.0	74.4	100	24	2,880.0
脱気器給水ポンプ	1	22	2	89.5	58.1	100	24	342.8
低圧蒸気復水器 VVVF	4	90	6	93.0	25.2	100	24	2,341.2
機器冷却水揚水ポンプ	1	110	4	93.5	63.2	100	24	1,784.5
合計								7,348.5

(2)更新後

機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	負荷率 (%)	稼働率 (%)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)
ボイラ給水ポンプ	2	75	2	94.1	74.4	100	24	2,846.3
脱気器給水ポンプ	1	22	2	91.7	58.1	100	24	334.5
低圧蒸気復水器 VVVF	4	90	6	95.0	25.2	100	24	2,291.9
機器冷却水揚水ポンプ	1	55	4	95.4	75.0	100	24	1,037.7
合計								6,510.4

2)電力削減量 : (1) - (2) = 838.1 kWh/日

明細書 ⑥

1	設備名称	第2章 機械設備工事 第6節 排ガス処理設備
2	機器名称	1. 1段目ろ過式集じん器 2. 2段目ろ過式集じん器
3	CO ₂ 削減概要	1) 排ガス処理プロセスの見直しに伴い、1段目ろ過式集じん器を廃止する。 2) 2段目ろ過式集じん器において、高効率電動機の採用により消費電力を削減する。

4	整備概要	
---	------	--

機器名称	数量(台)	容量	電動機出力(kW)	整備内容
1段目ろ過式集じん器 スクリューコンベヤ	2	—	0.75	・1段目廃止に伴い撤去
2段目ろ過式集じん器 スクリューコンベヤ	2	—	1.5	・高効率電動機の採用
1段目ろ過式集じん器 ホッパヒータ	2	—	30	・1段目廃止に伴い撤去

5	削減効果	
---	------	--

1) 消費電力量

(1)更新前

機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	負荷率 (%)	稼働率 (%)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)
1段目ろ過式集じん器 スクリューコンベヤ	2	0.75	4	78.0	57.1	100	24	26.4
2段目ろ過式集じん器 スクリューコンベヤ	2	1.5	4	81.5	62.1	100	24	54.9
1段目ろ過式集じん器 ホッパヒータ	2	30	—	—	100	10	24	144.0
合計								225.3

(2)更新後

機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	負荷率 (%)	稼働率 (%)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)
2段目ろ過式集じん器 スクリューコンベヤ	2	1.5	4	86.5	62.1	100	24	51.7
合計								51.7

2)電力削減量 : (1) - (2) = 173.6 kWh/日

明細書 ⑦

1	設備名称	第2章 機械設備工事 第6節 排ガス処理設備 第14節 雑設備
2	機器名称	(第6節) 3. 排ガス処理用空気圧縮機 (第14節) 1. 計装用空気圧縮機、 2. 雑用空気圧縮機
3	CO ₂ 削減概要	

- 1) 高効率電動機の採用により、消費電力を削減する。
2) 排ガス処理用と雑用の一元化により、消費電力を削減する。

4	整備概要	
---	------	--

機器名称	数量(台)	容量	電動機出力(kW)	整備内容
排ガス処理用空気圧縮機	2	6.11m ³ /min	37	・雑用との一元化により撤去
計装用空気圧縮機	2	5.0m ³ /min	37	・高効率電動機の採用
雑用空気圧縮機	2	9.1m ³ /min	55	・排ガス処理用と一元化
雑用空気圧縮機 (更新後一元化)	2	16.8m ³ /min	90	・高効率電動機の採用

5	削減効果	
---	------	--

1) 消費電力

(1) 更新前

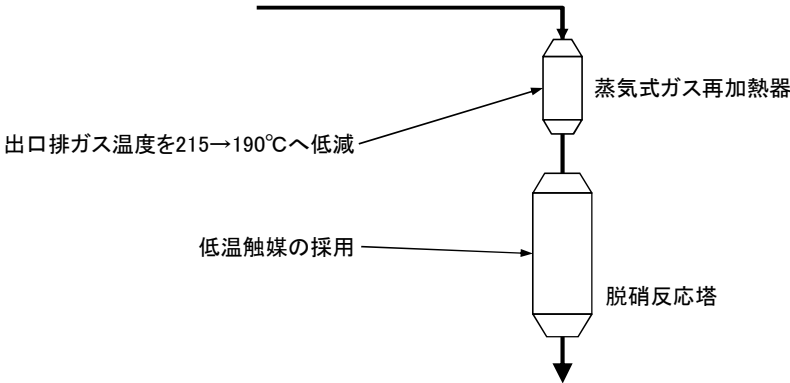
機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	稼働状態	稼働率 (%)	負荷率 (%)	運転時間 (h)	消費電力量 (kWh/日)
排ガス処理用空気圧縮機	1	37	2	91.5	オンロード*	80	90.5	24	702.6
					アンロード*	20	42.4	24	82.3
計装用空気圧縮機	1	37	2	91.5	オンロード*	80	90.5	24	702.6
					アンロード*	20	42.4	24	82.3
雑用空気圧縮機	1	55	2	92.4	オンロード*	80	92.2	24	1,053.7
					アンロード*	20	43.2	24	123.4
合計									2,746.9

(2) 更新後

機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	稼働状態	稼働率 (%)	負荷率 (%)	運転時間 (h)	消費電力量 (kWh/日)
計装用空気圧縮機	1	37	2	93.0	オンロード*	80	90.5	24	691.3
					アンロード*	20	42.4	24	81.0
雑用空気圧縮機(一元化)	1	90	2	95.0	オンロード*	80	92.2	24	1,677.1
					アンロード*	20	43.2	24	196.4
合計									2,645.8

2) 電力量削減量 : (1) - (2) = 101.1 kWh/日

明細書 ⑧

1	設備名称	第2章 機械設備工事 第6節 排ガス処理設備 第7節 余熱利用設備																		
2	機器名称	(第6節) 4. 脱硝触媒 (第7節) 1. 蒸気タービン																		
3	CO ₂ 削減概要	1) 低温触媒を採用し、発電量を増加させる。 2) 蒸気タービンの排気圧力を低減し、発電量を増加させる。																		
4	整備概要	1) 低温触媒を採用し、脱硝反応塔での運用温度を下げることで、ガス再加熱器での蒸気使用量を削減し、タービン主蒸気流量を増やすことで、発電出力を増加させる。  2) 蒸気タービンの排気圧力を低減させ、熱落差を大きくとることにより、発電出力を増加させる。																		
5	削減効果	1) 発電増加量 <table><thead><tr><th></th><th>タービン主蒸気流量 (t/h)</th><th>タービン抽気蒸気流量 (t/h)</th><th>タービン排気圧力 (kPa)</th><th>発電電力 (kW)</th><th>低圧蒸気復水器消費電力 (kW)</th></tr></thead><tbody><tr><td>更新前</td><td>27.1</td><td>2.9</td><td>-75</td><td>4,236.1</td><td>97.5</td></tr><tr><td>更新後</td><td>27.5</td><td>3.1</td><td>-81</td><td>4,392.0</td><td>136.3</td></tr></tbody></table> ※タービン主蒸気流量は明細書④ 2) の蒸発量増加分を含む (1) 発電電力増加量 : (更新後)－(更新前) : 155.9 kW (2) 蒸気復水器電力増加量 : (更新後)－(更新前) : 38.8 kW (3) 1日あたりの運転時間 : 24 h/日 発電増加量 {(1)－(2)} × (3) : 2,810.4 kWh/日		タービン主蒸気流量 (t/h)	タービン抽気蒸気流量 (t/h)	タービン排気圧力 (kPa)	発電電力 (kW)	低圧蒸気復水器消費電力 (kW)	更新前	27.1	2.9	-75	4,236.1	97.5	更新後	27.5	3.1	-81	4,392.0	136.3
	タービン主蒸気流量 (t/h)	タービン抽気蒸気流量 (t/h)	タービン排気圧力 (kPa)	発電電力 (kW)	低圧蒸気復水器消費電力 (kW)															
更新前	27.1	2.9	-75	4,236.1	97.5															
更新後	27.5	3.1	-81	4,392.0	136.3															

明細書 ⑨

1	設備名称	第2章 機械設備工事 第8節 通風設備
2	機器名称	1. 押込送風機 2. 二次送風機 3. 誘引通風機
3	CO ₂ 削減概要	

- 1) 押込送風機は、高効率電動機の採用及びインバータ化により消費電力を削減する。
 2) 二次送風機は、高効率電動機の採用により消費電力を削減する。
 3) 誘引通風機は、以下に示す方法で消費電力を削減する。
 ①高効率電動機の採用
 ②ダンパ制御を廃止しインバータ単独制御に変更する
 ③ろ過式集じん器1段化に伴い機器仕様の見直し

4	整備概要	
---	------	--

機器名称	数量(台)	容量	電動機(kW)	整備内容
押込送風機	2	24,200m ³ N/h	45	・高効率電動機、インバータの採用
二次送風機	2	9,400m ³ N/h	30	・高効率電動機の採用
誘引通風機 (更新前)	2	46,100m ³ N/h	290	・高効率電動機の採用、ダンパ制御廃止
誘引通風機 (更新後)	2	46,100m ³ N/h	250	ろ過式集じん器1段化に伴う仕様見直し

5	削減効果	
---	------	--

1) 消費電力量

(1)更新前

機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	負荷率 (%)	稼働率 (%)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)
押込送風機	2	45	4	93.0	59.1	100	24	1,372.6
二次送風機	2	30	2	90.2	60.1	100	24	959.5
誘引通風機 VVVF	2	290	6	94.1	33.4	100	24	4,940.8
合計								7,272.9

(2)更新後

機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	負荷率 (%)	稼働率 (%)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)
押込送風機 VVVF	2	45	4	95.0	53.2	100	24	1,209.6
二次送風機	2	30	2	92.4	60.1	100	24	936.6
誘引通風機 VVVF	2	250	6	95.8	34.3	100	24	4,296.5
合計								6,442.7

※1 押込送風機(インバータ化)の省エネ効果を10%とし、負荷率に反映。

※2 誘引通風機は

- ・ダンパ制御を廃止し、インバータ単独制御に変更
- ・低空気比運転[明細書④ 3)の内容]による効果
- ・機器仕様(電動機出力)変更

を加味して、負荷率に反映。

2)電力削減量 : (1) - (2) = **830.2** kWh/日

明細書 ⑩

1	設備名称	第2章 機械設備工事 第9節 灰出し設備
2	機器名称	(撤去) 1-1. No.3焼却灰搬送装置A/B、1-2. 磁選機、1-3. 振動篩、1-4. No.2 焼却灰振分装置、 1-5. No.1 細粒灰搬送装置A/B、1-7. 磁性物排出装置、1-8.灰バイパス搬送装置、 1-9. 灰バイパス排出装置、 (更新) 1-6. 不燃物排出装置、 (新設) 1-10. 焼却灰押出装置、1-11. 焼却灰搬送装置、1-12. 焼却灰排出装置、1-13. 灰分散装置
3	CO ₂ 削減概要	

- 1) 高効率電動機の採用により消費電力を削減する。
2) 主灰出し設備のフローを見直し、消費電力を削減する。

4	整備概要	
---	------	--

機器名称	数量(台)	容量	電動機出力(kW)	整備内容
No.3 焼却灰搬送装置 A/B	2	2.2t/h	0.75	・フロー変更に伴う撤去
磁選機	2	2.2t/h	3.7	・フロー変更に伴う撤去
振動篩	2	2.2t/h	2.2	・フロー変更に伴う撤去
No.2 焼却灰振分装置	2	—	0.13	・フロー変更に伴う撤去
No.1 細粒灰搬送装置 A/B	2	2.2t/h	1.1	・フロー変更に伴う撤去
不燃物排出装置	1	0.2t/h	1.5	・高効率電動機の採用
磁性物排出装置	1	0.4t/h	0.75	・フロー変更に伴う撤去
灰バイパス搬送装置	1	3.4t/h	1.5	・フロー変更に伴う撤去
灰バイパス排出装置	1	3.4t/h	0.75	・フロー変更に伴う撤去
焼却灰押出装置	1	3.0t/h	—	・フロー変更に伴う新設
焼却灰搬送装置	1	3.0t/h	3.7	・フロー変更に伴う新設
焼却灰排出装置	1	3.0t/h	0.75	・フロー変更に伴う新設
灰分散装置	1	3.0t/h	1.5	・フロー変更に伴う新設

5	削減効果	
---	------	--

1) 消費電力量

(1)更新前

機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	負荷率 (%)	稼働率 (%)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)
No.3 焼却灰搬送装置 A/B	1	2.2	4	83.0	32.2	100	24	20.5
磁選機	1	0.75	4	78.0	66.6	100	24	15.4
振動篩	1	3.7	4	85.0	51.5	100	24	53.8
不燃物排出装置	1	1.5	4	81.5	58.0	100	24	25.6
磁性物排出装置	1	0.75	4	78.0	61.0	100	24	14.1
灰バイパス搬送装置	1	1.5	4	81.5	49.3	100	24	21.8
灰バイパス排出装置	1	0.75	4	78.0	61.0	100	24	14.1
合計								165.3

(2)更新後

機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	負荷率 (%)	稼働率 (%)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)
不燃物排出装置	1	1.5	4	86.5	58.0	100	24	24.1
焼却灰押出装置	1	—	—	—	—	—	24	(②に含む)
焼却灰搬送装置	1	3.7	4	89.5	60.0	100	24	59.5
焼却灰排出装置	1	0.75	4	85.5	61.0	100	24	12.8
灰分散装置	1	1.5	4	86.5	60.0	100	24	25.0
合計								121.4

2)電力削減量 : (1) - (2) = **43.9** kWh/日

明細書 ⑪

1	設備名称	第2章 機械設備工事	第9節 灰出し設備
2	機器名称	(撤去) 2-1. エコノマイザダスト搬送装置 2-2. エコノマイザダスト振分装置 2-4. 1段目集じんダスト搬送装置 2-5. 1段目集じんダスト振分装置 2-6. No.1-1段目集じんダスト搬送装置B 2-7. No.2-1段目集じんダスト搬送装置 2-8. No.3-1段目集じんダスト搬送装置 2-9. No.1 異物除去装置 2-10. No.4-1段目集じんダスト搬送装置 2-11. 2段目集じんダスト搬送装置 2-12. No.1-2段目集じんダスト搬送装置 2-13. No.2-2段目集じんダスト搬送装置 2-14. No.3-2段目集じんダスト搬送装置 2-15. No.4-2段目集じんダスト搬送装置 2-16. No.2異物除去装置 2-17. No.5-2段目集じんダスト搬送装置 (新設) 2-3. エコノマイザダストシュート 2-18. 集じんダスト搬送装置 2-19. 集じんダスト振分装置 2-20. No.1 集じんダスト搬送装置 2-21. No.2 集じんダスト搬送装置 2-22. 異物除去装置 2-23. No.3 集じんダスト搬送装置 2-24. No.4 集じんダスト搬送装置 2-25. No.5 集じんダスト搬送装置A/B (部分更新) 2-26. No.3 溶融ダスト搬送装置 (更新) 2-27. 混練機	
3	CO ₂ 削減概要		

- 1) 高効率電動機の採用により消費電力を削減する。
- 2) ろ過式集じん器の1段化に伴い、ダスト搬送フローを見直し、消費電力を削減する。

4

整備概要

機器名称	数量(台)	容量	電動機出力(kW)	整備内容
エコノマイザダスト搬送装置	2	0.2t/h	0.4	・フロー変更に伴う撤去
エコノマイザダスト振分装置	2	—	0.4	・フロー変更に伴う撤去
エコノマイザダストシュート	2	—	—	・フロー変更に伴う新設
1段目集じんダスト搬送装置	2	0.2t/h	1.5	・フロー変更に伴う撤去
1段目集じんダスト振分装置	2	—	0.4	・フロー変更に伴う撤去
No.1-1段目集じんダスト搬送装置 B	1	0.4t/h	1.5	・フロー変更に伴う撤去
No.2-1段目集じんダスト搬送装置	1	0.4t/h	1.5	・フロー変更に伴う撤去
No.3-1段目集じんダスト搬送装置	1	0.4t/h	1.5	・フロー変更に伴う撤去
No.1異物除去装置	1	0.4t/h	2.2	・フロー変更に伴う撤去
No.4-1段目集じんダスト搬送装置	1	0.4t/h	1.5	・フロー変更に伴う撤去
2段目集じんダスト搬送装置	2	0.4t/h	1.5	・フロー変更に伴う撤去
No.1-2段目集じんダスト搬送装置	1	0.8t/h	1.5	・フロー変更に伴う撤去
No.2-2段目集じんダスト搬送装置	1	0.8t/h	1.5	・フロー変更に伴う撤去
No.3-2段目集じんダスト搬送装置	1	0.8t/h	1.5	・フロー変更に伴う撤去
No.4-2段目集じんダスト搬送装置	1	0.8t/h	1.5	・フロー変更に伴う撤去
No.2異物除去装置	1	0.8t/h	2.2	・フロー変更に伴う撤去
No.5-2段目集じんダスト搬送装置	1	0.8t/h	1.5	・フロー変更に伴う撤去
集じんダスト搬送装置	2	0.6t/h	2.2	・フロー変更に伴う新設
集じんダスト振分装置	2	—	0.4	・フロー変更に伴う新設
No.1 集じんダスト搬送装置	1	1.2t/h	2.2	・フロー変更に伴う新設
No.2 集じんダスト搬送装置	1	1.2t/h	2.2	・フロー変更に伴う新設
異物除去装置	1	1.2t/h	2.2	・フロー変更に伴う新設
No.3 集じんダスト搬送装置	1	1.2t/h	2.2	・フロー変更に伴う新設
No.4 集じんダスト搬送装置	1	1.2t/h	2.2	・フロー変更に伴う新設
No.5 集じんダスト搬送装置 A/B	2	1.2t/h	2.2	・フロー変更に伴う新設
No.3 溶融ダスト搬送装置	1	0.4t/h	1.5	・フロー変更に伴う部分更新
混練機	2	0.5t/h	37	・高効率電動機の採用

明細書 ⑪ (続き)

5 削減効果

1) 消費電力量

(1)更新前

機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	負荷率 (%)	稼働率 (%)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)
エコノマイザダスト搬送装置	2	0.4	4	78.0	62.4	100	24	15.4
1段目集じんダスト搬送装置	2	1.5	4	81.5	58.0	100	24	51.2
No.1-1段目集じんダスト搬送装置 B	1	1.5	4	81.5	58.0	100	24	25.6
No.2-1段目集じんダスト搬送装置	1	1.5	4	81.5	58.0	100	24	25.6
No.3-1段目集じんダスト搬送装置	1	1.5	4	81.5	58.0	100	24	25.6
No.1異物除去装置	1	2.2	4	83.0	60.4	100	24	38.4
No.4-1段目集じんダスト搬送装置	1	1.5	4	81.5	58.0	100	24	25.6
2段目集じんダスト搬送装置	2	1.5	4	81.5	58.0	100	24	51.2
No.1-2段目集じんダスト搬送装置	1	1.5	4	81.5	58.0	100	24	25.6
No.2-2段目集じんダスト搬送装置	1	1.5	4	81.5	58.0	100	24	25.6
No.3-2段目集じんダスト搬送装置	1	1.5	4	81.5	58.0	100	24	25.6
No.4-2段目集じんダスト搬送装置	1	1.5	4	81.5	58.0	100	24	25.6
No.2異物除去装置	1	2.2	4	83.0	60.4	100	24	38.4
No.5-2段目集じんダスト搬送装置	1	1.5	4	81.5	58.0	100	24	25.6
混練機	1	37	6	91.7	59.5	20	24	115.2
合計								540.2

(2)更新後

機器名称	運転 (台)	電動機出力 (kW)	極数 (P)	効率 (%)	負荷率 (%)	稼働率 (%)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)
集じんダスト搬送装置	2	2.2	4	89.5	58.0	100	24	68.4
No.1 集じんダスト搬送装置	1	2.2	4	89.5	58.0	100	24	34.2
No.2 集じんダスト搬送装置	1	2.2	4	89.5	58.0	100	24	34.2
異物除去装置	1	2.2	4	89.5	60.4	100	24	35.6
No.3 集じんダスト搬送装置	1	2.2	4	89.5	58.0	100	24	34.2
No.4 集じんダスト搬送装置	1	2.2	4	89.5	58.0	100	24	34.2
No.5 集じんダスト搬送装置 A/B	1	2.2	4	89.5	58.0	100	24	34.2
混練機	1	37	6	94.1	59.5	20	24	112.3
合計								387.3

2)電力削減量 : (1) - (2) = 152.9 kWh/日

明細書 ⑫

1	設備名称	第2章 機械設備工事 第13節 計装設備
2	機器名称	2. ごみクレーン自動運転制御システム 3. 積出しクレーン自動運転制御システム 4. 工業用テレビ装置
3	CO ₂ 削減概要	1) ごみクレーン自動運転制御システムを更新し、消費電力を削減する。 2) 積出しクレーン自動運転制御システムを更新し、消費電力を削減する。 3) 工業用テレビ装置を台数削減にて更新し、消費電力を削減する。
4	整備概要	

機器名称	数量	整備内容
ごみクレーン自動運転制御システム	1式	・ごみクレーンの自動運転制御内容を変更し、消費電力を削減する。
積出しクレーン自動運転制御システム	1式	・積出しクレーンの自動運転制御内容を変更し、消費電力を削減する。
工業用テレビ装置 (更新前)	26台	・台数削減にて更新し、消費電力を削減する。
工業用テレビ装置 (更新後)	19台	

5	削減効果	1) ごみクレーン自動運転制御システム更新 ごみ自動投入時のほぐし回数を削減するよう制御システムを変更することで、消費電力を削減する。 (自動投入時のほぐし回数:2回 ⇒ 1回) <table> <tr> <td>(1) 投入1回あたりの制御変更による削減電力量</td><td>:</td><td>0.04 kWh/回</td></tr> <tr> <td>(2) 1日あたりの投入回数</td><td>:</td><td>170 回/日</td></tr> <tr> <td>電力削減量 : (1)×(2)</td><td>=</td><td>6.8 kWh/日</td></tr> </table> 2) 積出しクレーン自動運転制御システム更新 焼却灰積出し時のほぐし回数を削減するよう制御システムを変更することで、消費電力を削減する。 (積出し時のほぐし回数:5回 ⇒ 4回) <table> <tr> <td>(1) 積出し1回あたりの制御変更による削減電力量</td><td>:</td><td>0.02 kWh/回</td></tr> <tr> <td>(2) 1日あたりの積出し回数</td><td>:</td><td>15 回/日</td></tr> <tr> <td>電力削減量 : (1)×(2)</td><td>=</td><td>0.3 kWh/日</td></tr> </table> 電力削減量合計: 7.1 kWh/日	(1) 投入1回あたりの制御変更による削減電力量	:	0.04 kWh/回	(2) 1日あたりの投入回数	:	170 回/日	電力削減量 : (1)×(2)	=	6.8 kWh/日	(1) 積出し1回あたりの制御変更による削減電力量	:	0.02 kWh/回	(2) 1日あたりの積出し回数	:	15 回/日	電力削減量 : (1)×(2)	=	0.3 kWh/日
(1) 投入1回あたりの制御変更による削減電力量	:	0.04 kWh/回																		
(2) 1日あたりの投入回数	:	170 回/日																		
電力削減量 : (1)×(2)	=	6.8 kWh/日																		
(1) 積出し1回あたりの制御変更による削減電力量	:	0.02 kWh/回																		
(2) 1日あたりの積出し回数	:	15 回/日																		
電力削減量 : (1)×(2)	=	0.3 kWh/日																		

明細書 ⑬

1	設備名称	第2章 機械設備工事 第3章 土木建築工事	第9節 灰出し設備 第2節 建築設備工事(機械、電気)
2	機器名称	(第2章第9節) 3-1.積出しクレーン (第3章第2節) 1. 照明設備	
3	CO ₂ 削減概要	1) 照明設備をLED化し、消費電力を削減する。	

4	整備概要		
---	------	--	--

設置場所	機器名称	数量(台)	消費電力(kW)	整備内容
B1F 積出場	F400(HID400W)	3	0.415	・LED化
1F 退出路	H400(HID400W)	2	0.415	・LED化
1F 進入路	F400(HID400W)	5	0.415	・LED化
1F ストックヤード	F400(HID400W)	4	0.415	・LED化
2F 積出ホッパ吹抜	F1000(HID1000W)	16	1.030	・LED化
2F 積出ホッパ吹抜	F400(HID400W)	2	0.415	・LED化
2F プラットホーム吹抜	F400(HID400W)	18	0.415	・LED化
2F タービン補機室吹抜	H400(HID400W)	8	0.415	・LED化
2F 誘引通風機室吹抜	H400(HID400W)	7	0.415	・LED化
3F 低圧蒸気復水器置場	P400W(HID400広角形)	2	0.415	・LED化
6F ホッパステージ吹抜	F1000(HID1000W)	9	1.030	・LED化
6F ホッパステージ吹抜	F660(NH660W)	9	0.700	・LED化
6F ホッパステージ吹抜	H400(HID400W)	11	0.415	・LED化
炉室 吹抜部	H400(HID400W)	21	0.415	・LED化

5	削減効果		
---	------	--	--

1) 消費電力量
(1)更新前

設置場所	機器名称	運転 (台)	消費電力 (kW)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)	備考
B1F 積出場	F400(HID400W)	3	0.415	24.0	29.9	
1F 退出路	H400(HID400W)	2	0.415	24.0	19.9	
1F 進入路	F400(HID400W)	5	0.415	24.0	49.8	
1F ストックヤード	F400(HID400W)	4	0.415	24.0	39.8	
2F 積出ホッパ吹抜	F1000(HID1000W)	16	1.030	24.0	395.5	
2F 積出ホッパ吹抜	F400(HID400W)	2	0.415	24.0	19.9	
2F プラットホーム吹抜	F400(HID400W)	18	0.415	24.0	179.3	
2F タービン補機室吹抜	H400(HID400W)	8	0.415	24.0	79.7	
2F 誘引通風機室吹抜	H400(HID400W)	7	0.415	24.0	69.7	
3F 低圧蒸気復水器置場	P400W(HID400広角形)	2	0.415	8.0	6.6	
6F ホッパステージ吹抜	F1000(HID1000W)	9	1.030	24.0	222.5	
6F ホッパステージ吹抜	F660(NH660W)	9	0.700	24.0	151.2	
6F ホッパステージ吹抜	H400(HID400W)	11	0.415	24.0	109.6	
炉室 吹抜部	H400(HID400W)	21	0.415	24.0	209.2	
合計					1582.6	

(2)更新後

設置場所	機器名称	運転 (台)	消費電力 (kW)	運転時間 (h/日)	消費電力量 (kWh/日)	備考
B1F 積出場	LED照明	3	0.154	24.0	11.1	
1F 退出路	LED照明	2	0.154	24.0	7.4	
1F 進入路	LED照明	5	0.154	24.0	18.5	
1F ストックヤード	LED照明	4	0.154	24.0	14.8	
2F 積出ホッパ吹抜	LED照明	16	0.320	24.0	122.9	
2F 積出ホッパ吹抜	LED照明	2	0.154	24.0	7.4	
2F プラットホーム吹抜	LED照明	18	0.154	24.0	66.5	
2F タービン補機室吹抜	LED照明	8	0.154	24.0	29.6	
2F 誘引通風機室吹抜	LED照明	7	0.154	24.0	25.9	
3F 低圧蒸気復水器置場	LED照明	2	0.098	8.0	1.6	
6F ホッパステージ吹抜	LED照明	9	0.320	24.0	69.1	
6F ホッパステージ吹抜	LED照明	9	0.320	24.0	69.1	
6F ホッパステージ吹抜	LED照明	11	0.154	24.0	40.7	
炉室 吹抜部	LED照明	21	0.130	24.0	65.5	
合計					550.1	

2) 電力削減量 : (1) - (2) = 1,032.5 kWh/日

【資料 8】

改良工事を踏まえた 整備スケジュール

令和 5 年 3 月

改良工事を踏まえた整備スケジュール

設 備	設備・機器	設備の 重要度	耐用年数	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
					1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目	12年目	13年目	14年目	15年目	16年目	17年目	18年目	19年目
受入供給設備																							
	ごみ計量機(受入用)	B	15～20年					◎															
	ごみ投入扉	B	15～20年			○			○										○				
	ダンピングボックス	B	10～15年			△			◎				△				△				△		
	切断機	B	15～20年					△					△								△		
	ごみクレーン	B	15～20年		△	△	△	○	△	△	○	△	○	△	○	△	△	○	△	○	△	△	○
	窓自動洗浄装置	B	15～20年			△			△			△			△			△			△		
	脱臭装置	B	15～20年		△			△					○					△					△
	脱臭用送風機	B	15～20年		△		△				△			○				△				△	
	薬液噴霧装置	B	15～20年		△										△								
	ごみピット消火用放水銃	B	15～20年	◎																			
燃焼設備																							
	ごみ投入ホツパ・水冷ジャケット	A	15～20年	△		◎	◎	△		○	○	○		△		△		△	◎	◎		△	
	給じん装置・燃焼装置	A	5～10年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	炉駆動用油圧装置	B	5～10年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	焼却炉	A	15～20年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	落じんホツパシュート	A	15～20年				○	○											◎	◎			
	助燃バーナ	B	5～10年	△	△	△		△	△	△	△	○	△	△	△	△	○	△	△	△	△	○	△
	再燃バーナ	B	5～10年	△	△	△		△	△	△	△	○	△	△	△	△	○	△	△	△	△	○	△
灰熔融設備																							
	窒素製造装置	A	15～20年	△		△		△		◎		△		△		△		△		△		△	
燃焼ガス冷却設備																							
	ボイラ本体	A	5～20年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	水管(旗形管)	A																					
	ボイラ耐火物	A			○	○	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	エコノマイザダスト搬出装置	A	10～15年		◎	◎			△				△				△			◎			
	ボイラダスト搬出装置	A	10～15年		△		△			◎		△			△		△			△		△	
	ボイラダスト搬出装置冷却用送風機	A	10～15年		△		△			◎			△		△		△		△		△		△
	スートブロウ(長拔差形、定置型)	A	15～20年	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	スートブロウパージ用送風機	A	3～15年		△		△		◎		△		△		△		△		△		△		△
	ボイラ給水ポンプ	A	3～15年	△	△	△		△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	△	△	△	○	○
	脱気器	A	15～20年	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	脱気器給水ポンプ	A	3～15年	△		△		△		△		△		△		△		△		△		△	
	ボイラ用薬液注入装置	A																					
	連続ブロー測定装置	A																					
	ブロータンク・ブロー水冷却装置	A	15～20年		△		△		△		◎		△		△		△		△		△		△

改良工事を踏まえた整備スケジュール

設 備	設備・機器	設備の 重要度	耐用年数	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
					1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目	12年目	13年目	14年目	15年目	16年目	17年目	18年目	19年目
	高圧蒸気だめ	A	15～20年	△	△		△		△		△		△		△		△		△		△		△
	低圧蒸気復水器	B	15～20年	△	△						△	△				△	△				△	△	
	排気復水タンク	A	15～20年	△			△		△		△		△		△		△		△		△		△
	純水装置	A	10～20年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
排ガス処理設備																							
	減温塔	A	10～15年	△	○	○	△	△	○	△	△	○	△	△	○	△	△	○	△	○	△	△	○
	1号炉1・2段目ろ過式集じん器	A	10～15年	△	△		△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	○	△	△	△	△
	2号炉1・2段目ろ過式集じん器	A	10～15年	△	△		△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	○	△	△	△	△
	排ガス処理用空気圧縮機	A	10～15年	△	△	△																	
	消石灰サイロ	A	10～15年	△	△			△			△			△			△			△			△
	消石灰定量供給装置	A	10～15年	△	○	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	特殊助剤サイロ	A	10～15年	△	△			△			△			△			△			△			△
	特殊助剤定量供給装置	A	10～15年	△	○	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	脱硝反応塔	A	10～20年								△			△	△		△	△					
	ガス再加熱器	A	10～20年	△	△	△	△	△	○	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	アンモニア注入器	A	10～20年		△	△			△	△			◎					△					
	アンモニア供給設備	A	10～20年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△
	アンモニア希釈用空気送風機	A	10～20年									○											
	パージ用空気加熱器	A	10～20年				△		○							△		○			△		△
余熱利用設備																							
	蒸気タービン	B	10～20年	△	△	△	○	○	△		○		△		○		△		△		○		△
通風設備																							
	押込送風機	A	15～20年	△	△	△	△	△		△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	○	△	△	△
	二次送風機	A	15～20年	△	△	△	△	△		△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	○	△	△	△
	燃焼用空気予熱器	A	10～20年	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	風道	A	15～20年		○							○	○										
	風道ダンパ	A	10～15年		○	○	○	○				○	○			○	○						
	煙道	A	10～15年											○	○								
	煙道ダンパ	A	5～10年		○		△		△		△		△		△		△	○	○		△		△
	誘引通風機	A	10～20年	△	△	△	△		△	△	△	△	○	○	△	△	△	△	○	○	△	△	△
	白煙防止用空気予熱器	A	10～20年	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	白煙防止用押込送風機	B	15～20年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
灰出し設備																							
	落下灰搬出装置	A	10～15年		◎						○					○					○		
	No.1焼却灰搬出装置	B	10～15年	○					○		○		○		○		○		○		○		○

改良工事を踏まえた整備スケジュール

設 備	設備・機器	設備の 重要度	耐用年数	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
					1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目	12年目	13年目	14年目	15年目	16年目	17年目	18年目	19年目
	No.4集じんダスト搬送装置【新設】	A	10～15年											○								○	
	No.5集じんダスト搬送装置A【新設】	A	10～15年											○								○	
	No.5集じんダスト搬送装置B【新設】	A	10～15年											○								○	
	1号2段目集じんダスト搬送装置	A	10～15年																				
	2号2段目集じんダスト搬送装置	A	10～15年																				
	No.1～2段目集じんダスト搬送装置	A	10～15年																				
	No.2～2段目集じんダスト搬送装置	B	10～15年																				
	No.3～2段目集じんダスト搬送装置	B	10～15年																				
	No.4～2段目集じんダスト搬送装置	B	10～15年																				
	No.2異物除去装置	A	10～15年	△																			
	No.5～2段目集じんダスト搬送装置	A	15～20年																				
	No.3溶融ダスト搬送装置	B	10～15年								○									○			
	集じん灰搬送装置	B	10～15年	△	△				△					△	△			○			△		
	混練機	B	10～15年	△	△		△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	△	△	△	○	○	△	△
	養生コンベヤ	A	10～15年	○							◎						○					○	
	積出しクレーン	A	10～15年	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	○	△	△
	搬出用計量機	A	15～20年			◎																	
	搬出ホッパ	A	10～15年						△					○					△				
	各所シュート	B	15～20年	○	○	○							△	○	○	○	○	○	○				
給水設備																							
	機器冷却水揚水ポンプ	A	10～20年					△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	再利用揚水ポンプ			◎																			
	放流水ポンプ			◎																			
	機器冷却水冷却塔	A	10～20年				○			○						○				○			
排水処理設備																							
	有機・無機系排水処理設備	B	15～20年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	膜処理設備			△																			
	ダイオキシン類分解設備	A	15～20年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
電気設備																							
	特高受電設備	A	10～20年		△		○								○								
	高圧受変電盤、高圧配電盤	A	10～20年			○								○								○	
	低圧配電設備	A	10～20年			○								○								○	
	低圧動力盤	A	10～20年			○	○	○	○	○	○												
	現場制御盤	A	10～20年	△								△	△	△	○	○			△	△	△	○	○
	誘引通風機速度制御盤	A	10～20年														△	△	○	○			
	低圧蒸気復水器速度制御盤	A	10～20年													△	△	○	○				

改良工事を踏まえた整備スケジュール

設 備	設備・機器	設備の 重要度	耐用年数	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
					1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目	12年目	13年目	14年目	15年目	16年目	17年目	18年目	19年目
	押込送風機速度制御盤【新設】	A	10～20年														△	△	○	○			
	タービン発電設備																						
	蒸気タービン発電機	A	10～20年		△		△		△			○		△		△		△		△		△	
	蒸気タービン発電機盤	A	10～20年	△	△	△	○	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	非常用発電装置	B	10～20年	△	△	△	△		△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△
	直流電源装置	A	5～15年	△	△	△	△	○	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	交流無停電電源装置	A	5～15年	△	△	△	△	○	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
計装設備																							
	分散型計算機制御システム	A	10～15年																				
	計装盤 中央監視盤	A	10～20年										△	△	△	△	△			△	△	△	△
	現場中継盤	A	10～20年	△																			
	上位計算機システム	A	10～20年																				
	計量・車両管制自動運転システム	A	10～20年													◎							
	車両管制システム																						
	車両検知装置	B	10～20年			○																	
	ごみクレーン自動運転システム	A	10～20年																				
	積出しクレーン自動運転システム	A	10～20年																				
	工業用テレビ装置	A	10～15年																				
	環境測定装置	A	10～15年																				
	アンモニア分析装置	A	10～15年		○																		
	工業計器	A	10～15年	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	調節弁	A	10～15年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	△	△	△	△	△
雑設備																							
	計装用空気圧縮機	B	10～12年	△	△		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	雑用空気圧縮機	B	10～12年	△	△		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	環境集じん機	A	15～20年	△		△				◎								△					